Cisco Jabber for Windows 9.1.x インストレーション コンフィギュレーション ガイド

初版：2012 年 10 月 23 日

最終更新：2012 年 12 月 07 日

シスコシステムズ合同会社
〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー
http://www.cisco.com/jp
お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 （フリーコール、携帯・PHS含む）
電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00
http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（**www.cisco.com/jp/go/safety_warning/**）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。 このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。 このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。 添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。 シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: http://www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。 マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。 説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

© 2013 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

目 次

Cisco Jabber for Windows の概要 1

Cisco Jabber 2

Cisco Jabber for Windows のマニュアル 2

コミュニティ リソース 3

導入モデル 5

オンプレミス導入 5

クラウドベース導入 6

環境アーキテクチャ 7

オンプレミス導入のアーキテクチャ 7

8.6.x オンプレミス導入アーキテクチャ 7

9.x オンプレミス導入アーキテクチャ 9

クラウドベース導入のアーキテクチャ 10

クラウドベースのアーキテクチャ 11

ハイブリッド クラウドベース アーキテクチャ 12

Cisco Jabber for Windows の計画 15

ハードウェア要件 16

ソフトウェア要件 16

サポートされるコーデック 21

ネットワークの要件 22

電話機、ヘッドセット、およびカメラ 25

オンプレミスによる展開でのインスタントメッセージおよびプレゼンスのハイ アベイラビリティ 26

Cisco AnyConnect 27

Cisco AnyConnect 導入に関する考慮事項 28

NAT ルール 28

セッション パラメータ 28

グループ ポリシーおよびプロファイル 29

Trusted Network Detection 29
トンネル ポリシー 29
証明書ベースの認証の設定 30
グループ ポリシーを使用した証明書の配布 31
SCEP を使用した証明書の配布 31
音声およびビデオのパフォーマンス参照 32
Cisco Jabber for Windows 起動シーケンス 35
Cisco Jabber for Windows の COP ファイル 38
認証 39
サーバの自動検出 40
ディレクトリ統合 43
EDI ディレクトリ統合 43
UDS ディレクトリ統合 45
サポートされる LDAP ディレクトリ サービス 46
ドメイン ネーム システムの設定 47
QoS の設定 48
プロトコル ハンドラ 50
連絡先の写真の形式と寸法 51
サーバのセットアップ 55
サーバ セットアップ ガイド 55
Cisco Jabber for Windows のインストール 57
インストレーションの概要 57
インストールの設定要件 58
コマンドラインの使用 60
コマンドライン引数 61
サポートされる言語 65
MSI の再パッケージ化 66
カスタム インストーラの使用 66
カスタム トランスフォーム ファイルの作成 68
MSI の手動による実行 69
グループ ポリシーを使用した導入 71
Cisco Medianet のインストール 73

Cisco Jabber for Windows のアンインストール 74
Cisco Jabber for Windows 設定の概要 77
Cisco Jabber for Windows の設定要件 77
グローバル設定ファイル 79
グループ設定ファイル 79
設定ファイルのキャッシュ 80
設定ファイルの要件 81
オンプレミス導入の設定 83
Cisco Jabber for Windows の設定 83
TFTP サーバの準備 84
グローバル設定の作成 85
グループ設定の作成 86
TFTP サーバの再起動 88
設定ファイルの構造 88
クライアント パラメータ 90
ディレクトリ パラメータ 91
ディレクトリ統合 92
EDI ディレクトリ統合 92
UDS ディレクトリ統合 94
サポートされる LDAP ディレクトリ サービス 95
ドメイン ネーム システムの設定 96
属性マッピングのパラメータ 97
ディレクトリ接続パラメータ 98
接続の設定 101
ディレクトリ クエリー パラメータ 103
連絡先の写真のパラメータ 108
連絡先の写真の形式と寸法 109
EDI による連絡先写真の取得 111
UDS による連絡先写真の取得 112
ドメイン フェデレーション パラメータ 112
ドメイン フェデレーション 113
オプション パラメータ 116

プレゼンス パラメータ 117
ポリシー パラメータ 119
認証情報の設定 122
自動更新の設定 124
問題レポートの設定 125
カスタム埋め込みタブ 126
JavaScript 通知 131
設定ファイルの例 132
ディレクトリ サービスの設定例 133
OpenLDAP統合 133
匿名バインドの設定 133
認証済みバインドの設定 134
AD LDS統合 135
匿名バインドの設定 136
Windows のプリンシパル ユーザ認証 137
AD LDS のプリンシパル ユーザ認証の設定 137
ダイヤル プランのマッピング 138
Cisco Jabber for Windows へのダイヤル ルールの発行 139
ハイブリッド クラウドベース導入の設定 141
Cisco Jabber for Windows の設定 141
TFTP サーバの準備 142
グローバル設定の作成 143
グループ設定の作成 143
TFTP サーバの再起動 145
設定ファイルの構造 146
クライアント パラメータ 148
オプション パラメータ 148
プレゼンス パラメータ 149
ポリシー パラメータ 151
認証情報の設定 153
問題レポートの設定 153
カスタム埋め込みタブ 154

JavaScript 通知 160
設定ファイルの例 161
ダイヤル プランのマッピング 162
Cisco Jabber for Windows へのダイヤル ルールの発行 163
Cisco Jabber for Windows のカスタマイズ 165
カスタム顔文字の追加 165
顔文字の定義 166
Cisco Jabber for Windows のトラブルシューティング 169
設定の問題 169
ディレクトリ統合の問題 172
ADSI のエラー コード 172
音声、ビデオ、およびデバイスの問題 172

第 1 章

Cisco Jabber for Windows の概要

Cisco Jabber for Windows は、ユニファイド コミュニケーション クライアントであり、次の機能を含む充実した強力なコラボレーション機能を提供します。

- 次の機能を含む、XMPP を介したチャット
  - リッチ テキスト フォーマット
  - ファイル転送
  - 画面キャプチャ
  - グループ チャット
  - 顔文字
- デスクフォン制御
- ソフトフォンの発信
- 高解像度ビデオ
- ビデオ デスクトップ共有
- ビジュアル ボイスメール
- Microsoft Office 統合
- ディレクトリ統合
- HTML コンテンツをレンダリングするためのカスタム埋め込みタブのサポート

Cisco Jabber for Windows には、柔軟なモジュール型の展開アーキテクチャがあります。これにより、組織のニーズに合わせて Cisco Jabber for Windows を設定および展開できます。 オンプレミス サービスを使用するように Cisco Jabber for Windows を導入できます。 また、Cisco Jabber for Windows を導入して、Cisco WebEx Messenger との統合を通じてクラウドベース サービスを使用することもできます。

- Cisco Jabber, 2 ページ

• Cisco Jabber for Windows のマニュアル，2 ページ
• コミュニティ リソース，3 ページ

Cisco Jabber

Cisco Jabber は、どのデバイスのどこからでも生産性をより高めることができる、コラボレーション ソフトウェアのスイートです。 詳細については、次に示す URL の Cisco Jabber 製品マニュアルを参照してください。

- Cisco Jabber for Mac
  http://www.cisco.com/en/US/products/ps11764/index.html
- Cisco Jabber for iPhone
  http://www.cisco.com/en/US/products/ps11596/index.html
- Cisco Jabber for Android
  http://www.cisco.com/en/US/products/ps11678/index.html
- Cisco Jabber for BlackBerry
  http://www.cisco.com/en/US/products/ps11763/index.html
- Cisco Jabber for Nokia
  http://www.cisco.com/en/US/products/ps11766/index.html
- Cisco Jabber Video for TelePresence（Movi）
  http://www.cisco.com/en/us/products/ps11328/index.html
- Cisco Jabber Software Development Kit
  http://www.cisco.com/en/US/products/ps11765/index.html

Cisco Jabber for Windows のマニュアル

このマニュアルについて

Cisco Jabber for Windows アドミニストレーションおよびインストレーション ガイドでは、次の作業の完了に役立つ情報について説明します。

- 正常な展開を計画する。
- 展開環境をセットアップする。
- Cisco Jabber for Windows を設定および展開する。
- サポートされている環境およびソフトウェアを確認する。
- 音声、ビデオ、およびネットワークの要件を確認する。

その他の資料

Cisco Jabber for Windows には、このガイドのほかに次のマニュアルが用意されています。

- エンドユーザ ガイド

  http://www.cisco.com/en/US/products/ps12511/products_user_guide_list.html

- リリース ノート

  http://www.cisco.com/en/US/products/ps12511/prod_release_notes_list.html

- ライセンス情報

  http://www.cisco.com/en/US/products/ps12511/products_licensing_information_listing.html

コミュニティ リソース

シスコでは、サポート担当者とやり取りしたり、製品についてディスカッションしている他のコミュニティのメンバーに参加したりすることができるさまざまなコミュニティ リソースを提供しています。

シスコ製品のカンバセーションおよび共有サイト

機能、ライセンス、統合、アーキテクチャ、課題などをディスカッションしている他のコミュニティのメンバーに参加します。 役立つ製品リソースとベスト プラクティスを共有してください。
https://communities.cisco.com/community/technology/collaboration/product

シスコ サポート コミュニティ

IT のインストール、実装、および管理の質問については、シスコ サポート コミュニティにアクセスします。
https://supportforums.cisco.com/community/netpro/collaboration-voice-video

シスコ サポートおよびダウンロード

豊富な製品サポート リソースを見つけ、アプリケーション ソフトウェアをダウンロードし、製品およびバージョンに基づいて不具合を発見します。
http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html

シスコ エキスパート コーナー

シスコ エキスパートとやり取りしたり、共同作業したり、開発したり、共有したりします。シスコ エキスパート コーナーとは、さまざまなエキスパートがコミュニティに寄与するリソース（ビデオ、ブログ、ドキュメント、Web キャストなど）の集まりです。
https://supportforums.cisco.com/community/netpro/expert-corner#view=ask-the-experts

第 2 章

導入モデル

Cisco Jabber for Windows には、オンプレミスとクラウドベースの 2 つの導入モデルがあります。

各導入モデルについて学習し、オンプレミス導入とクラウドベース導入で使用可能なオプションを確認します。

- オンプレミス導入，5 ページ
- クラウドベース導入，6 ページ
- 環境アーキテクチャ，7 ページ

オンプレミス導入

オンプレミス導入モデルとは、ユーザが管理およびメンテナンスを行う企業ネットワークにすべてのサービスがセットアップおよび設定される導入モデルです。

基本のオンプレミス導入

オンプレミス導入は、基本機能のインスタント メッセージおよびプレゼンスから開始します。

導入オプション

インスタントメッセージおよびプレゼンスを設定した後は、次のユニファイドコミュニケーション機能で導入を拡張できます。

音声

ユーザがソフトフォン デバイスおよびデスクフォン デバイスを使用して音声コールを送受信できるようにします。

ビデオ

ソフトフォンとのビデオ デスクトップ共有を含め、ユーザがビデオを送受信できるようにします。

ボイスメール

ユーザが、Cisco Jabber for Windows からボイスメール メッセージを直接取得し、着信音声コールをボイスメールにリダイレクトできるようにします。

会議

ユーザが共同して効率的に情報を共有することを可能にする、ミーティング機能を有効にします。

Microsoft Office 統合

Microsoft Outlook のような Microsoft Office アプリケーションでアベイラビリティ ステータスと Click-to-X 機能を有効にします。

クラウドベース導入

クラウドベース導入モデルは、すべて、またはほとんどのサービスが Cisco WebEx 経由でホストされる導入モデルです。 クラウドベース導入の管理およびモニタには、Cisco WebEx Administration Tool を使用します。

基本のクラウドベース導入

クラウドベース導入は、基本機能のインスタント メッセージおよびプレゼンスから開始します。

導入オプション

インスタント メッセージおよびプレゼンスを設定した後は、次の機能で導入を拡張できます。

会議

Cisco WebEx Meeting Center を介した簡潔で柔軟な会議機能を有効にします。

Microsoft Office 統合

Microsoft Outlook のような Microsoft Office アプリケーションでアベイラビリティ ステータスと Click-to-X 機能を有効にします。

ハイブリッド クラウドベース導入オプション

ハイブリッド クラウドベース導入は、オンプレミスサーバを結合して音声やビデオなどの追加サービスを提供することにより、クラウドベース導入を拡張できる導入モデルです。

ハイブリッド クラウドベース導入では、次のサーバをセットアップします。

Cisco Unified Communications Manager

次のサービスを提供します。

音声

ユーザがソフトフォン デバイスおよびデスクフォン デバイスを使用して音声コールを送受信できるようにします。

ビデオ

ソフトフォンとのビデオデスクトップ共有を含め、ユーザがビデオを送受信できるようにします。

Cisco Unity Connection

次のサービスを提供します。

ボイスメール

ユーザが、Cisco Jabber for Windows からボイスメール メッセージを直接取得し、着信音声コールをボイスメールにリダイレクトできるようにします。

環境アーキテクチャ

環境アーキテクチャとは、通信サービスおよび機能を Cisco Jabber for Windows に提供するサーバやその他のコンポーネントのインフラストラクチャです。 必要なコンポーネントとその相互動作を理解するため、各導入タイプの環境アーキテクチャを確認してください。

オンプレミス導入のアーキテクチャ

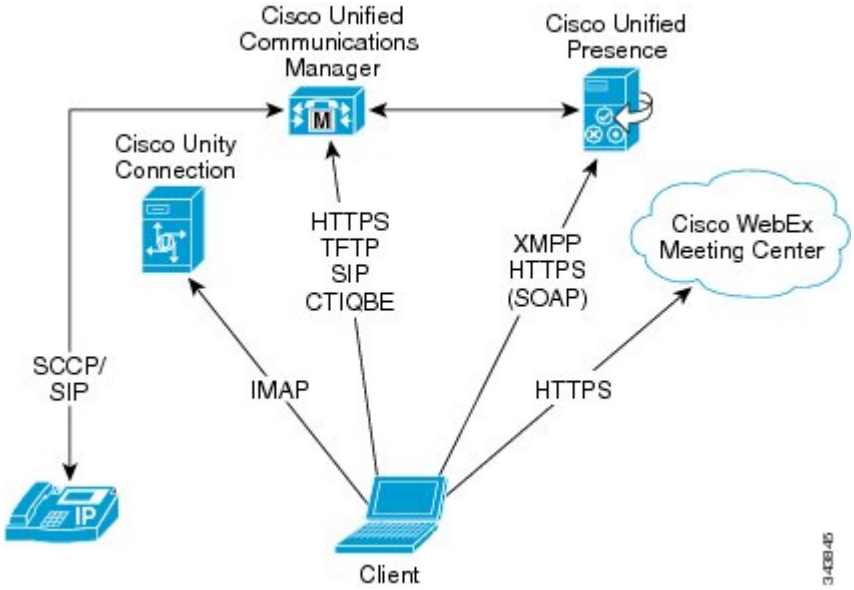
ここでは、オンプレミス導入のアーキテクチャについて説明します。

8.6.x オンプレミス導入アーキテクチャ

ここでは、Cisco Unified Communications Manager バージョン 8.6.x またはそれ以前のバージョンと Cisco Unified Presence を統合する 8.6.x オンプレミス導入について説明します。

次の図は、8.6.x オンプレミス導入のアーキテクチャを示しています。

図 *1*：オンプレミス アーキテクチャ



次に、オンプレミス アーキテクチャのコンポーネントのリストを示します。

デスクフォン

Cisco Unified Communications Manager に接続して、シグナリングおよび設定を確保します。

Cisco Unity Connection

ボイスメール機能を提供します。

Cisco Unified Communications Manager

- 音声およびビデオ コール管理機能を提供します。
- ユーザおよびデバイスの設定を提供します。
- ユーザの同期化およびユーザ認証用のディレクトリに接続します。

Cisco Unified Presence

- インスタント メッセージおよびプレゼンス機能を提供します。
- Cisco Jabber for Windows が使用可能サービスの詳細を取得できるようにします。

ディレクトリ

ディレクトリは、次のいずれかのタイプになります。

- Microsoft Active Directory
- LDAP ディレクトリ

スタンドアロンディレクトリの代わりとして、ディレクトリを Cisco Unified Communications Manager に同期させた後で、ディレクトリ ソースとして Cisco Unified Communications Manager ユーザ データ サービス を使用できます。

Cisco WebEx Meeting Center

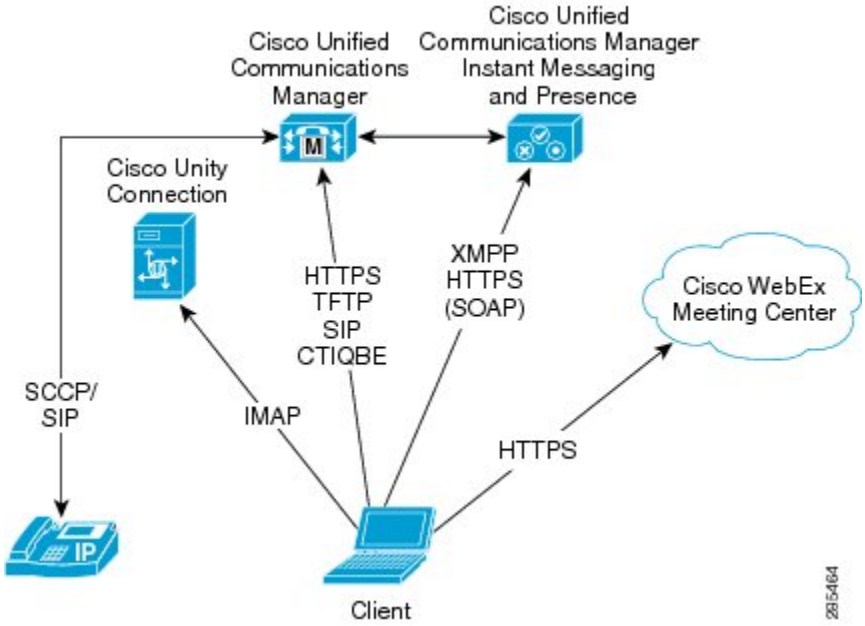
ホステッド ミーティング機能を提供します。

9.x オンプレミス導入アーキテクチャ

ここでは、Cisco Unified Communications Manager バージョン 9.0.1 以降と Cisco Unified Communications IM and Presence を統合する 9.x オンプレミス導入について説明します。

次の図は、9.x オンプレミス導入のアーキテクチャを示しています。

図 *2* : オンプレミス アーキテクチャ



次に、オンプレミス アーキテクチャのコンポーネントのリストを示します。

デスクフォン

Cisco Unified Communications Manager に接続して、シグナリングおよび設定を確保します。

Cisco Unity Connection

ボイスメール機能を提供します。

Cisco Unified Communications Manager

- 音声およびビデオ コール管理機能を提供します。
- ユーザおよびデバイスの設定を提供します。
- ユーザの同期化およびユーザ認証用のディレクトリに接続します。

Cisco Unified Communications IM and Presence

- インスタント メッセージおよびプレゼンス機能を提供します。
- Cisco Jabber for Windows が使用可能サービスの詳細を取得できるようにします。

ディレクトリ

ディレクトリは、次のいずれかのタイプになります。

- Microsoft Active Directory
- LDAP ディレクトリ

スタンドアロンディレクトリの代わりとして、ディレクトリを Cisco Unified Communications Manager に同期させた後で、ディレクトリ ソースとして Cisco Unified Communications Manager ユーザ データ サービス を使用できます。

Cisco WebEx Meeting Center

ホステッド ミーティング機能を提供します。

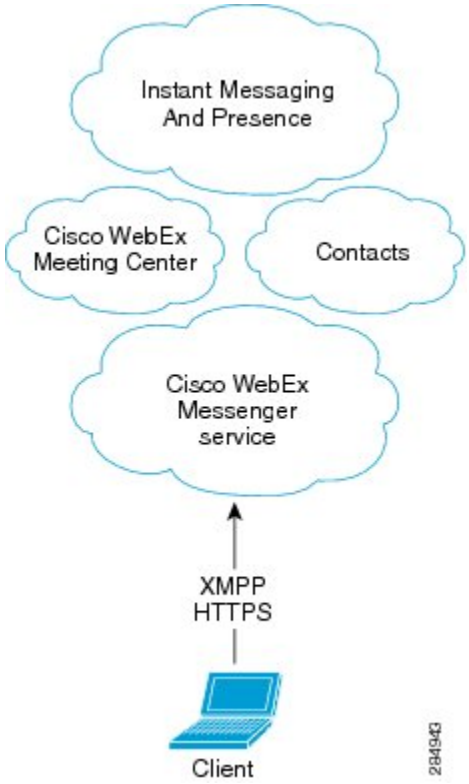
クラウドベース導入のアーキテクチャ

ここでは、クラウドベース導入のアーキテクチャについて説明します。

クラウドベースのアーキテクチャ

次の図は、クラウドベース導入のアーキテクチャを示しています。

図 *3*：クラウドベース アーキテクチャ



次に、クラウドベース アーキテクチャのコンポーネントのリストを示します。

Cisco WebEx Messenger

連絡先用のホステッド サービスと、インスタント メッセージおよびプレゼンス機能を提供します。

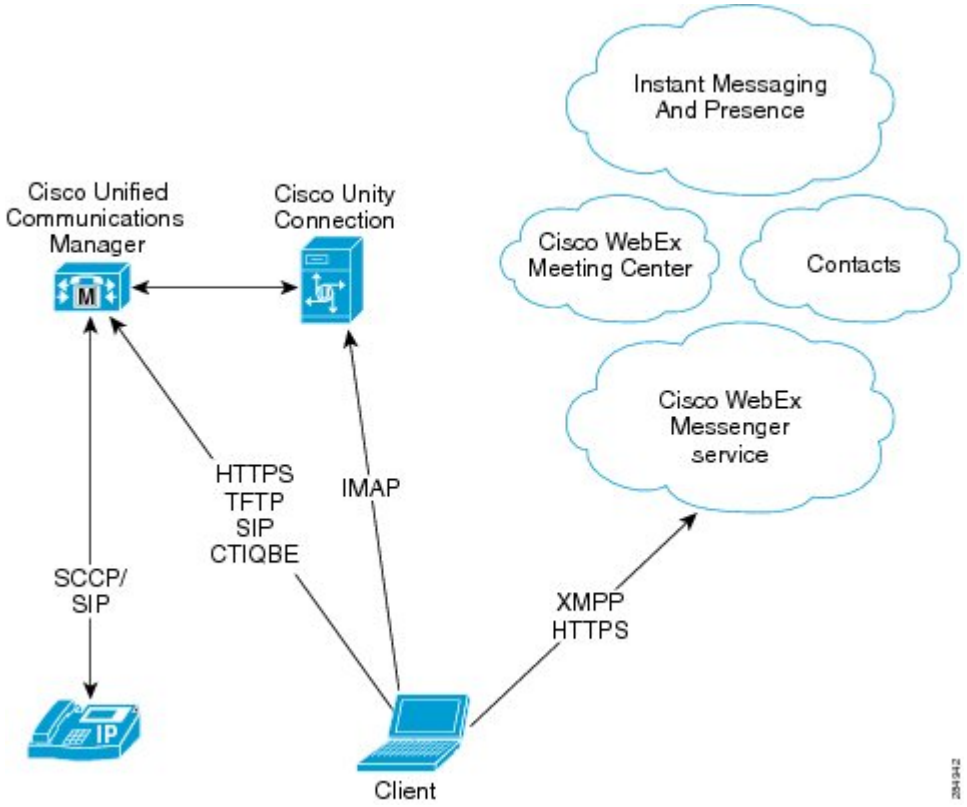
Cisco WebEx Meeting Center

ホステッド ミーティング機能を提供します。

ハイブリッド クラウドベース アーキテクチャ

次の図は、ハイブリッド クラウドベース導入のアーキテクチャを示しています。

図 *4*：ハイブリッド クラウドベース アーキテクチャ



次に、ハイブリッド クラウドベース アーキテクチャのコンポーネントのリストを示します。

Cisco WebEx Messenger

連絡先用のホステッド サービスと、インスタント メッセージおよびプレゼンス機能を提供します。

Cisco WebEx Meeting Center

ホステッド ミーティング機能を提供します。

デスクフォン

Cisco Unified Communications Manager に接続して、シグナリングおよび設定を確保します。

Cisco Unified Communications Manager

- 音声およびビデオ コール管理機能を提供します。
- ユーザおよびデバイスの設定を提供します。

Cisco Unity Connection

ボイスメール機能を提供します。

第 3 章

Cisco Jabber for Windows の計画

導入モデルとシステム アーキテクチャについて学習し、適切な導入を計画します。 さまざまな導入モデルでのユーザ ディレクトリの要件を確認し、数々の認証シナリオを検討します。 導入に含めるオプション機能を決定します。

- ハードウェア要件，16 ページ
- ソフトウェア要件，16 ページ
- サポートされるコーデック，21 ページ
- ネットワークの要件，22 ページ
- 電話機、ヘッドセット、およびカメラ，25 ページ
- オンプレミス による展開でのインスタントメッセージおよびプレゼンスのハイ アベイラビリティ，26 ページ
- Cisco AnyConnect，27 ページ
- 音声およびビデオのパフォーマンス参照，32 ページ
- Cisco Jabber for Windows 起動シーケンス，35 ページ
- Cisco Jabber for Windows の COP ファイル，38 ページ
- 認証，39 ページ
- サーバの自動検出，40 ページ
- ディレクトリ統合，43 ページ
- QoS の設定，48 ページ
- プロトコル ハンドラ，50 ページ
- 連絡先の写真の形式と寸法，51 ページ

ハードウェア要件

搭載されている RAM

Microsoft Windows XP 32 ビット サービス パック 3 上の 1.87 GB の RAM
2 GB の RAM（Microsoft Windows 7 の場合）

物理メモリの空き容量

128 MB

ディスクの空き容量

256 MB

CPU の速度およびタイプ

モバイル AMD Sempron プロセッサ 3600+（2 GHz）
Intel Core2 CPU T7400（2. 16 GHz）

GPU

Directx 9（Microsoft Windows XP 32 ビット（Service Pack 3）の場合）
Directx 11（Microsoft Windows 7 の場合）

I/O ポート

USB 2.0（USB カメラおよび音声デバイス用）

ソフトウェア要件

サポートされているオペレーティング システム

- Microsoft Windows 7 32 ビット
- Microsoft Windows 7 64 ビット
- Microsoft Windows Vista 32 ビット
- Microsoft Windows Vista 64 ビット
- Microsoft Windows XP 32 ビット（Service Pack 3）

オンプレミス による展開でサポートされているサーバ

- Cisco Unified Communications Manager バージョン 7.1(4) 以降

（注） COP ファイル ciscocm.installcsfdevicetype.cop.sgn をインストールして CSF デバイスを有効にした場合、Cisco Jabber for Windows では Cisco Unified Communications Manager 7.1.3 がサポートされます。

Cisco.com の Cisco Jabber for Windows 管理パッケージ から ciscocm.installcsfdevicetype.cop.sgn をダウンロードします。

- Cisco Unified Presence バージョン 8.0.3 以降
- Cisco Unity Connection バージョン 8.0 以降
- 次の Cisco WebEx Meeting Center
  - Version T26L Service Pack EP 20
  - Windows T27L Service Pack 9
- Cisco Unified Survivable Remote Site Telephony バージョン 8.5

  Cisco Jabber for Windows では、次の機能が含まれている Cisco Unified Survivable Remote Site Telephony がサポートされています。

  - 基本コール機能
  - コールを保留およびレジュームする機能

制約事項 Cisco Jabber for Windows には、Cisco Unified Survivable Remote Site Telephony に正常にフォールバックするために、プレゼンス サーバへのアクティブ接続が必要です。

Cisco Unified Survivable Remote Site Telephony の設定については、次の URL の『*Cisco Unified SCCP and SIP SRST System Administrator Guide*』を参照してください。http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cusrst/admin/sccp_sip_srst/configuration/guide/SCCP_and_SIP_SRST_Admin_Guide.html

クラウドベース による展開でサポートされているサーバ

- Cisco WebEx Messenger 7.5
- Cisco WebEx Administration Tool 7.5
- 次の Cisco WebEx Meeting Center
  - Version T26L Service Pack EP 20
  - Windows T27L Service Pack 9

サポートされている Cisco WebEx Meeting Centerとのカレンダー統合

- Microsoft Outlook 2007 32 ビット版
- Microsoft Outlook 2010 32 ビット版
- Microsoft Outlook 2010 64 ビット版
- IBM Lotus Notes 8.5.1 32 ビット版
- IBM Lotus Notes 8.5.2 32 ビット版
- Google Calendar

サポートされているディレクトリ

- Microsoft Active Directory 2003 R2
- Microsoft Active Directory 2008 R2
- Cisco Unified Communications Manager ユーザ データ サービス

  UDS は、Cisco Unified Communications Manager バージョン 8.6.2 以降でサポートされています。
- OpenLDAP
- Active Directory ライトウェイト ディレクトリ サービス（AD LDS）または Active Directory Application Mode; Active Directory アプリケーション モード（ADAM）

制約事項 OpenLDAP、AD LDS、または ADAM とのディレクトリ統合では、Cisco Jabber for Windows 設定ファイルで特定のパラメータを定義する必要があります。 詳細については、サポートされる *LDAP* ディレクトリ サービスを参照してください。

Microsoft Internet Explorer

Cisco Jabber for Windows には Microsoft Internet Explorer 7 以降が必要です。

Cisco Jabber for Windows は、HTML コンテンツの表示に Internet Explorer レンダリング エンジンを使用します。

重要 Cisco Jabber for Windows にはインスタント メッセージのレンダリングに Internet Explorer アクティブ スクリプトが必要です。 アクティブ スクリプトを有効にする手順については、次の Microsoft のマニュアルを参照してください。http://windows.microsoft.com/en-US/windows/help/genuine/ie-active-script

Microsoft Office のサポート

- Microsoft Office 2007 32 ビット版

- Microsoft Office 2010 32 ビット版
- Microsoft Office 2010 64 ビット版
- Microsoft Exchange 2007
- Microsoft Exchange 2010

（注）

Cisco Jabber for Windows を使用して Microsoft Outlook のローカル連絡先を検索するために、ユーザには Microsoft Outlook に設定されたプロファイルが必要です。

Microsoft Outlook のローカル連絡先を Cisco Jabber for Windows の連絡先リストに追加するには、ユーザプロファイルに電子メールまたはインスタントメッセージのアドレスが必要です。

Cisco Jabber for Windows を使用して Microsoft Outlook のローカル連絡先と通信するには、ユーザ プロファイルに関連する情報を含める必要があります。 たとえば、Microsoft Outlook の連絡先にインスタント メッセージを送信するためには、ユーザ プロファイルに電子メール アドレスまたはインスタント メッセージのアドレスが必要です。 同様に、Microsoft Outlook の連絡先に電話をかけるには、ユーザ プロファイルに電話番号を含める必要があります。

ユーザが Microsoft Outlook でローカル連絡先を検索するには、[オプション（Options）] ウィンドウの [統合（Integration）] タブで [なし（None）] または [Microsoft Outlook] のいずれかを選択する必要があります。

Microsoft SharePoint のサポート

- Microsoft SharePoint 2007
- Microsoft SharePoint 2010

重要

- Microsoft SharePoint でアベイラビリティ ステータスを有効にするには、Cisco Jabber for Windows をインストールするコンピュータに Microsoft Outlook 2007 または Microsoft Outlook 2010 をインストールする必要があります。
- Cisco Jabber for Windows で Microsoft SharePoint サイトのアベイラビリティ ステータスがサポートされるのは、ユーザが Microsoft Internet Explorer を使用してそれらのサイトにアクセスする場合だけです。 Microsoft SharePoint サイトを Microsoft Internet Explorer の信頼できるサイトの一覧に追加します。

Microsoft SharePoint でサポートされている Microsoft Outlook および Microsoft Internet Explorer のバージョン、または Microsoft SharePoint でアベイラビリティ ステータスを表示するための要件の詳細については、該当する Microsoft のマニュアルを参照してください。

Microsoft Office 365 のサポート

Cisco Jabber for Windows では、次のソフトウェアが含まれている Microsoft Office 365 がサポートされています。

- Microsoft Office 2007 32 ビット版
- Microsoft Office 2010 32 ビット版
- Microsoft Office 2010 64 ビット版
- Microsoft SharePoint 2010

（注） Microsoft Office 365 では、プラン、サブスクリプション、タイプに基づいてさまざまな構成タイプをサポートします。 Cisco Jabber for Windows は、オンプレミス Active Directory サーバを必要とする Microsoft Office 365 の小規模企業プラン P1 でテストされています。

仮想環境

Cisco Jabber for Windows のサポート対象は次のとおりです。

- Citrix XenDesktop 5.0
- Citrix XenDesktop 5.5
- Citrix XenApp 5.0 Feature Pack 3 Enterprise Edition for Windows Server 2008 Service Pack 2 64 bit, published desktop
- Citrix XenApp 6.0 Enterprise Edition for Windows 2008 R2 64 bit, published desktop
- Citrix XenApp 6.5 Enterprise Edition for Windows 2008 R2 64 bit, published desktop
- 次のものが含まれている VMWare View Connection Manager 4.6.1.640196
  - VMWare Agent 5.0
  - VMWare Client 4.6.1
- 次のものが含まれている VMWare View Connection Manager 5.1.0704644
  - VMWare Agent 5.1.0704644
  - VMWare Client 5.1.0704644

Cisco Jabber for Windows は、仮想環境で次の機能をサポートしています。

- インスタント メッセージおよびプレゼンス
- デスクフォン制御

スクリーン リーダーのサポート

Cisco Jabber for Windows は、Job Access With Speech（JAWS）のスクリーン リーダーとの互換性があります。 ただし、スクリーン リーダーを使用した場合のユーザ エクスペリエンスは、Cisco Jabber for Windows のバージョンによって、アプリケーションに渡って一貫しない場合があります。 最適なユーザ エクスペリエンスを確保するために、スクリーン リーダーを必要とするユーザは常に最新のバージョンを使用する必要があります。

CTI 従属

Cisco Jabber for Windows では、Computer Telephony Integration（CTI）従属（サードパーティ アプリケーションからの Cisco Jabber for Windows の CTI のコントロール）をサポートしています。

CTI 従属の詳細については、Cisco Unified Communications Manager の適切なバージョンの CTI ドキュメントを参照してください。

Cisco Unified Communications Manager API を通じ、CTI コントロールのアプリケーションを作成する方法について詳しくは、次の Cisco Developer Network サイトを参照してください。

- Cisco TAPI：http://developer.cisco.com/web/tapi/home
- Cisco JTAPI：http://developer.cisco.com/web/jtapi/home

セキュリティ コンプライアンス

ソフトウェアのセキュリティ コンプライアンスに関する情報については、次のサイトを参照してください。

- Microsoft Security Compliance Manager：http://technet.microsoft.com/en-us/library/cc677002.aspx
- 国家安全保障局のセキュリティ コンフィギュレーション ガイド：http://www.nsa.gov/ia/mitigation_guidance/security_configuration_guides/index.shtml

サポートされるコーデック

サポートされるオーディオ コーデック

- g.722.1
  - g.722.1 32k
  - g.722.1 24k

（注） g.722.1 は、Cisco Unified Communications Manager 8.6.1 以降でサポートされます。

- g.711

- g.711 A-law
- g.711 u-law

• g.729a

サポートされるビデオ コーデック

• H.264/AVC

ネットワークの要件

ICMP 要求

Cisco Jabber for Windows は、インターネット制御メッセージ プロトコル（ICMP）要求を TFTP サーバに送信します。 これらの要求は、クライアントが Cisco Unified Communications Manager に接続できるかどうかを判別することを可能にします。 このため、クライアントからの ICMP 要求を許可するようにファイアウォール設定を設定する必要があります。 ファイアウォールで ICMP 要求を許可しないと、Cisco Jabber for Windows は Cisco Unified Communications Manager への接続を確立できません。

ポートおよびプロトコル

Cisco Jabber for Windows では、次の表に示すポートおよびプロトコルを使用します。 Cisco Jabber for Windows とサーバ間にファイアウォールを展開する場合、次のポートおよびプロトコルを許可するようにファイアウォールを設定する必要があります。

ポート	プロトコル	説明
着信		
16384 ～ 32766	UDP	オーディオおよびビデオ用の Real-Time Transport Protocol（RTP）メディア ストリームを受信する。 これらのポートは、Cisco Unified Communications Manager で設定する。
発信		
69	UDP	Trivial File Transfer Protocol（TFTP）サーバに接続する。
6970	HTTP	TFTP サーバに接続し、Cisco Jabber for Windows 設定ファイルをダウンロードする。
80	TCP（HTTP）	会議用の Cisco WebEx Meeting Center、ボイスメール用の Cisco Unity Connection などのサービスに接続する。

ポート	プロトコル	説明
143	IMAP（TCP）	ボイスメール メッセージのアクセス、ダウンロード、および再生を行うために、Cisco Unity Connection に接続する。
389	UDP/TCP	LDAP ディレクトリ サービスに接続する。
3268	TCP	連絡先を検索するためにグローバル カタログ サーバに接続する。
443	TCP（HTTPS）	会議用の Cisco WebEx Meeting Center、ボイスメール用の Cisco Unity Connection などのサービスに接続する。
636	LDAPS	LDAPディレクトリ サービスにセキュアに接続する。
3269	LDAPS	グローバル カタログ サーバにセキュアに接続する。
993	IMAP（SSL）	Cisco Unity Connection に接続し、ユーザのボイス メッセージのリストとボイス メッセージ自体を取得および管理する。
2748	TCP	Cisco Unified Communications Manager の CTI Manager コンポーネントである CTI ゲートウェイに接続する。
5060	UDP/TCP	Session Initiation Protocol（SIP）コール シグナリングを提供する。
5061	TCP	セキュアな SIP コール シグナリングを提供する。
5222	TCP（XMPP）	インスタント メッセージングとプレゼンスのために、Cisco Unified Presence に接続する。
7993	IMAP（TLS）	セキュア ボイスメール メッセージのアクセス、ダウンロード、および再生を行うために、Cisco Unity Connection に接続する。
8191	TCP	Simple Object Access Protocol（SOAP）Web サービスを提供するためにローカル ポートに接続する。
8443	HTTPS	8443 は Cisco Unified Communications Manager への Web アクセス用のポートで、次の接続がある。 • 割り当てられたデバイスのための Cisco Unified Communications Manager IP Phone（CCMCIP）サーバ。 • 連絡先の解決のためのユーザ データ サービス（UDS）。

ポート	プロトコル	説明
16384 ～ 32766	UDP	オーディオおよびビデオ用の RTP メディア ストリームを送信する。
53	DNS	ホスト名の解決を提供する。
1080	SOCKS5 バイトストリーム	ピア ツー ピア ファイル転送を送信します。 ポート 1080 が使用中の場合、Cisco Jabber for Windows は 1081～1089 の範囲で次に使用可能なポートの使用を試みます。 オンプレミス導入では、Cisco Jabber for Windows は画面キャプチャの送信にこのポートを使用します。

クラウドベースによる展開の接続の要件

ネットワーク アクセスの要件

Cisco Jabber for Windows では、クライアントと次のドメイン間に無制限のオープンなアクセス（ポート 80 および 443）が必要です。

- webex.com とすべてのサブドメイン
- webexconnect.com とすべてのサブドメイン

サービスの IP アドレスの範囲

クラウドベース サービスは、次の IP アドレスの範囲を介して提供されます。

- 66.163.32.0 ～ 66.163.63.255
- 209.197.192.0 ～ 209.197.223.255
- 173.243.12.0 ～ 173.243.12.255（サブネット）

IP アドレス制限に基づいたネットワーク アクセスは、クラウドベースによる展開と正常に連携しない場合があります。サービスは、事前の通知なしでいつでも他の IP アドレスの範囲を介して提供される可能性があります。

スパム フィルタリング

クラウドベースによる展開でクライアントに関する通知を受け取るには、mda.webex.com からの電子メールを許可するようにネットワークのスパムフィルタリングを設定します。通常、通知には、新しいアカウントに関する重要な情報、パスワードのリセット、および同様の情報が含まれます。

ハイ アベイラビリティ

ハイ アベイラビリティを使用して展開する場合、次の URL をネットワーク ファイアウォールのホワイト リストに追加します。

- `http://msdl.microsoft.com/download/symbols/index2.txt`

• http://msdl.microsoft.com/download/symbols/wininet.pdb/9241CE8FD46D4D28B0C1AAA596FD93222/wininet.pdb

電話機、ヘッドセット、およびカメラ

CTI でサポートされるデバイス

Cisco Jabber for Windows は、Cisco Unified Communications Manager バージョン 8.6(1) と同じ CTI デバイスをサポートします。 次の URL にある「*CTI Supported Devices*」のトピックの「*CTI supported device matrix*」の表を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/tapi_dev/8_6_1/supporteddevices.html

ヘッドセットとスピーカ

Plantronics Blackwire C310	Plantronics Voyager 510SL
Plantronics Blackwire C320	Plantronics Voyager Pro UC B230
Plantronics Blackwire C420	Plantronics DSP 400
Plantronics Blackwire C435	Plantronics Savi 740
Plantronics Blackwire C610	Plantronics Savi 440
Plantronics Blackwire C620	Jabra GN2000 CIPC Mono
Plantronics Blackwire C710	Jabra GN2000 CIPC Duo
Plantronics Blackwire C720	Jabra Go 6470
Plantronics Calisto P240 シリーズ	Jabra Pro 930
Plantronics Calisto P420	Jabra Speak 410
Plantronics Calisto P610 シリーズ	Jabra BIZ 2400
Plantronics Calisto P800 シリーズ	Polycom CX100 Speakerphone
Plantronics Voyager Pro UC WG200/B	-

カメラ

Microsoft LifeCam 6000	Tandberg Precision HD デバイス
Logitech Pro 9000	Cisco VTIII（最大解像度 VGA まで）
Logitech C920	-

オンプレミスによる展開でのインスタントメッセージおよびプレゼンスのハイ アベイラビリティ

ハイ アベイラビリティとは、インスタント メッセージおよびプレゼンス サービスに対してフェールオーバー機能を提供するために複数のノードがサブクラスタに存在する環境を意味します。 サブクラスタ内の 1 つのノードが利用できなくなった場合、インスタント メッセージおよびプレゼンスがそのノードからサブクラスタ内の別のノードにフェールオーバーします。 このようにして、ハイ アベイラビリティにより、Cisco Jabber for Windows のインスタントメッセージおよびプレゼンス サービスの継続性が確実に保証されます。

Cisco Jabber for Windows では、次のサーバを使用したハイ アベイラビリティをサポートしています。

- Cisco Unified Presence バージョン 8.5 以降
- Cisco Unified Communications IM and Presence バージョン 9.0 以降

ハイ アベイラビリティ用のサービスの設定

次のトピックでは、ハイ アベイラビリティ用にインスタント メッセージおよびプレゼンス サービスを設定するための情報について説明します。

- Cisco Unified Presence：*Cisco Unified Presence* の展開でのハイ アベイラビリティの設定方法
- Cisco Unified Communications IM and Presence：*IM* およびプレゼンスの展開でのハイ アベイラビリティの設定

再ログイン パラメータの設定

Cisco Unified Presence および Cisco Unified Communications IM and Presence では、サーバへの再ログインを Cisco Jabber for Windows が試行するまで待機する秒数の最大値および最小値を設定できます。 次のフィールドに再ログイン パラメータを指定します。

- クライアントの再ログインの下限（Client Re-Login Lower Limit）
- クライアントの再ログインの上限（Client Re-Login Upper Limit）

注目 このリリースでは、再ログイン パラメータに指定した値に 90 秒を追加する必要があります。

たとえば、[クライアントの再ログインの下限（Client Re-Login Lower Limit）] の値に 170 を設定する予定であるとします。 このリリースでは、値を 170 ではなく 260 に設定する必要があります。

これらのパラメータを Cisco Unified Presence で設定する方法については、『*Deployment Guide for Cisco Unified Presence Release 8.6*』のマニュアルの次のトピックを参照してください。

- 「*High Availability Client Login Profiles*」
- 「*Configuring the Advanced Service Parameters for the Server Recovery Manager*」

これらのパラメータを Cisco Unified Communications IM and Presence で設定する方法については、『*Deployment Guide for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager, Release 9.0(1)*』のマニュアルの次のトピックを参照してください。

- 「*High Availability client login profiles*」
- 「*Configure advanced service parameters for Server Recovery Manager*」

クライアントおよびサービスへのフェールオーバーの影響

次のトピックでは、クライアントおよびサービスへのフェールオーバーの影響について説明します。

- Cisco Unified Presence：*Cisco Unified Presence* クライアントおよびサービスへのフェールオーバーの影響
- Cisco Unified Communications IM and Presence：*IM* およびプレゼンスのクライアントおよびサービスへのフェールオーバーの影響

8.6：「How To Configure High Availability Cisco Unified Presence Deployments」
8.6：「High Availability Client Login Profiles」
8.6：「Configuring the Advanced Service Parameters for the Server Recovery Manager」
8.6：「Impact of Failover to Cisco Unified Presence Clients and Services」
9.0(1)：「High Availability IM and Presence deployments configuration」
9.0(1)：「High Availability client login profiles」
9.0(1)：「Configure advanced service parameters for Server Recovery Manager」
9.0(1)：「Impact of failover to IM and Presence clients and services」

Cisco AnyConnect

Cisco AnyConnect は、Wi-Fi ネットワークまたはモバイル データ ネットワークなどのリモート ロケーションから企業ネットワークに Cisco Jabber for Windows が安全に接続できるサーバクライアント インフラストラクチャを参照します。

Cisco AnyConnect 環境には次のコンポーネントが含まれます。

Cisco Adaptive Security Appliance（ASA）

安全なリモート アクセスにサービスを提供します。

Cisco AnyConnect Secure Mobility Client

ユーザのコンピュータから Cisco Adaptive Security Appliance への安全な接続を確立します。

Cisco Jabber for Windows は次を使用して安全なリモート アクセスをサポートします。

- Cisco AnyConnect Secure Mobility Client 2.5
- Cisco AnyConnect Secure Mobility Client 3.1

Cisco AnyConnect 導入に関する考慮事項

Cisco Adaptive Security Appliance は、さまざまな導入要件を満たす柔軟なアーキテクチャを提供します。 エンドツーエンドの導入手順の提供は、このマニュアルでは扱いません。 ここでは、Cisco Jabber for Windows のために Cisco Adaptive Security Appliance および Cisco AnyConnect Secure Mobility Client を導入するときに考慮する必要のある情報を提供します。

ASA のインストールと設定の作業ベースの情報を取得するには、Cisco Adaptive Security Appliance のコンフィギュレーション ガイドを参照する必要があります。

関連トピック

Cisco ASA 5500 シリーズ 適応型セキュリティ アプライアンスのコンフィギュレーション ガイド

NAT ルール

ASA の設定プロセスの一部として、Cisco AnyConnect Secure Mobility Client をサポートするようにネットワーク アドレス変換（NAT）ルールを設定する必要があります。 NAT ルールを設定しないと、Cisco AnyConnect Secure Mobility Client は ASA と通信できません。

「*Configuring Network Object NAT*」のトピックは、NAT ルールを設定するための詳細な手順を提供します。

関連トピック

『Cisco ASA 5500 Series Configuration Guide using the CLI, 8.4 and 8.6』の「Configuring Network Object NAT」

セッション パラメータ

セキュア接続のパフォーマンスを向上するために ASA セッション パラメータを設定できます。最良のユーザ エクスペリエンスを得るために、次の ASA セッション パラメータを設定する必要があります。

Datagram Transport Layer Security（DTLS）

DTLS は遅延およびデータ損失を防止するデータ パスを提供する SSL プロトコルです。

自動再接続

自動再接続（またはセッションの持続性）により、Cisco AnyConnect Secure Mobility Client はセッションの中断から回復し、セッションを再確立します。

アイドル タイムアウト

アイドル タイムアウトは、通信アクティビティがない場合に、ASA がセキュアな接続を切断するまでの期間を定義します。

Dead Peer Detection（DTD）

DTD によって、ASA および Cisco AnyConnect Secure Mobility Client が接続障害をすばやく検出できます。

グループ ポリシーおよびプロファイル

グループ ポリシー、クライアント プロファイル、および接続プロファイルを作成するために、ASA デバイス マネージャ（ASDM）を使用する必要があります。 最初にグループ ポリシーを作成し、次にそのポリシーをプロファイルに適用します。 ASDM を使用してプロファイルを作成すると、Cisco AnyConnect Secure Mobility Client が ASA への接続を初めて確立した後にプロファイルがダウンロードされます。 ASDM では、中央のロケーションでプロファイルとポリシーを管理および維持することができます。

ASDM でポリシーとプロファイルを作成する方法の手順については、『Cisco AnyConnect Secure Mobility Client Administrator Guide』を参照してください。

『Cisco AnyConnect Secure Mobility Client Administrator Guide, Release 2.5』

『Cisco AnyConnect Secure Mobility Client Administrator Guide, Release 3.1』

『Cisco ASA 5500 Series Configuration Guide using the CLI, 8.4 and 8.6』の「Configuring Tunnel Groups, Group Policies, and Users」

Trusted Network Detection

Trusted Network Detection は、ユーザ ロケーションに基づいてセキュア接続を自動化する機能です。 ユーザが企業ネットワークを離れると、Cisco AnyConnect Secure Mobility Client は信頼ネットワークの外部であることを自動的に検出し、セキュアなアクセスを開始します。

クライアント プロファイルの一部として ASA に Trusted Network Detection を設定します。 詳細については、「*Trusted Network Detection*」を参照してください。

『Cisco AnyConnect Secure Mobility Client Administrator Guide, Release 2.5』の「Trusted Network Detection」

『Cisco AnyConnect Secure Mobility Client Administrator Guide, Release 3.1』の「Trusted Network Detection」

トンネル ポリシー

トンネル ポリシーは、Cisco AnyConnect Secure Mobility Client がセキュアな接続を介してトラフィックを方向付ける方法を設定します。次が含まれます。

Full Tunnel ポリシー

ASA ゲートウェイへのセキュア接続を介してすべてのトラフィックを送信できます。

Split Tunnel ポリシー

一部のトラフィックをセキュア接続経由で送信し、その他のトラフィックを非セキュア接続経由で送信するように、宛先サブネットに基づいてトラフィックを分離します。

ネットワーク ACL での Split Include ポリシー

宛先 IP アドレスに基づいてセキュア接続を制限できます。 たとえば、オンプレミス導入で、Cisco Unified Communications Manager、Cisco Unified Presence、TFTP サーバ、その他のサーバに対して IP アドレスを指定して、Cisco Jabber for Windows トラフィックにだけセキュア接続を制限することができます。

Split Exclude ポリシー

セキュア接続から特定のトラフィックを除外できます。 セキュア接続を介した Cisco Jabber for Windows トラフィックを許可し、特定の宛先サブネットからトラフィックを除外できます。

関連トピック

『Cisco ASA 5500 Series Configuration Guide using the CLI, 8.4 and 8.6』の「Configuring Tunnel Groups, Group Policies, and Users」

証明書ベースの認証の設定

ASA とのセキュアな接続を Cisco AnyConnect Secure Mobility Client からネゴシエートするための証明書ベースの認証を使用することを推奨します。

ASA は、Cisco IOS CA、Microsoft Windows 2003、Windows 2008 R2、Entrust、VeriSign、RSA Keon などの標準認証局（CA）サーバが発行した証明書をサポートします。 ここでは、証明書ベースの認証のために ASA を設定するための高レベルな手順を説明します。 適切な ASA コンフィギュレーション ガイドの順を追った手順については、「*Configuring Digital Certificates*」のトピックを参照してください。

手順

ステップ 1 ルート証明書を CA から ASA にインポートします。
ステップ 2 ASA の ID 証明書を生成します。
ステップ 3 SSL 認証用の ASA の ID 証明書を使用します。
ステップ 4 証明書失効リスト（CRL）または Online Certificate Status Protocol（OCSP）を設定します。
ステップ 5 認証にクライアント証明書を要求するように、ASA を設定します。

次の作業

ASA で証明書ベースの認証を設定した後、ユーザにクライアント証明書を配る必要があります。次のいずれかの方法を使用できます。

- Microsoft Windows Server のグループ ポリシー。
- Microsoft Windows Server の SCEP。

関連トピック

『Cisco ASA 5500 Series Configuration Guide using the CLI, 8.4 and 8.6』の「Configuring Digital Certificates」

グループ ポリシーを使用した証明書の配布

Microsoft Windows Server のグループ ポリシーを使用して、証明書を配布できます。

グループ ポリシーを使用して証明書を配布するには、次の作業を実行する必要があります。

- Microsoft Windows Server に Microsoft Group Policy Management Console（GPMC）をインストールします。
- 証明書を配布する予定のすべてのコンピュータおよびユーザが同じドメイン内にあることを確認します。

詳細については、該当する Microsoft 社の資料を参照してください。 「*Deploy Certificates by Using Group Policy*」のトピックで手順を説明します。

関連トピック

「Deploy Certificates by Using Group Policy」

SCEP を使用した証明書の配布

Microsoft Windows Server の Simple Certificate Enrollment Protocol（SCEP）を使用して、クライアント認証のための証明書を安全に発行し、更新できます。

SCEP を使用して証明書を配布するには、Microsoft Windows Server に SCEP モジュールをインストールする必要があります。 詳細については、次のトピックを参照してください。

- 「*ASA 8.X: AnyConnect SCEP Enrollment Configuration Example*」
- 「*Simple Certificate Enrollment Protocol (SCEP) Add-on for Certificate Services*」

「ASA 8.X: AnyConnect SCEP Enrollment Configuration Example」
「Simple Certificate Enrollment Protocol (SCEP) Add-on for Certificate Services」

音声およびビデオのパフォーマンス参照

注目 次のデータは、ラボ環境でのテストに基づいています。 このデータは、帯域幅の使用状況の点で予想できる内容を提供することを目的としています。 このトピックの内容は、完全な内容を示したり、帯域幅の使用状況に影響を与える可能性があるすべてのメディア シナリオを反映したりするものではありません。

音声、ビデオ、およびプレゼンテーション ビデオのビット レート

次の表に、音声のビット レートを示します。

コーデック	RTP ペイロード（kbit/秒）	実際のビットレート（kbit/秒）	メモ
g.722.1	24/32	54/62	高品質な圧縮
g.711	64	80	標準的な非圧縮
g.729a	8	38	低品質な圧縮

ビデオのビット レート

次の表に、g.711 音声でのビデオのビットレートを示します。

解像度	ピクセル	g.711 音声で測定されたビットレート（kbit/秒）
w144p	256 x 144	156
w288p これが Cisco Jabber for Windows のビデオ レンダリング ウィンドウのデフォルトサイズです。	512 x 288	320
w448p	768 x 448	570
w576p	1024 x 576	890
720p	1280 x 720	1300

上記の表に関する注意事項:

- この表は、想定される解像度をすべて網羅しているわけではありません。
- 測定されたビット レートは、実際の使用帯域幅（RTP ペイロード + IP パケットのオーバーヘッド）です。

プレゼンテーション ビデオのビット レート

次の表に、プレゼンテーション ビデオのビット レートを示します。

ピクセル	2 fps でのワイヤ ビット レートの概算値（kbit/秒）	8 fps でのワイヤ ビット レートの概算値（kbit/秒）
720 x 480	41	164
704 x 576	47	188
1024 x 768	80	320
1280 x 720	91	364
1280 x 800	100	400

上記の表に関する注意事項:

- Cisco Jabber for Windows は、8 fps でキャプチャし、2 ～ 8 fps で伝送します。
- この表の値には、音声は含まれていません。

ネゴシエートされた最大ビット レート

[領域の設定（Region Configuration）] ウィンドウで Cisco Unified Communications Manager のペイロードの最大ビット レートを指定します。 この最大ペイロード ビット レートには、パケット オーバーヘッドは含まれません。したがって、使用される実際のビット レートは、指定した最大ペイロード ビット レートよりも大きくなります。

次の表では、Cisco Jabber for Windows によるペイロードの最大ビット レートの割り当て方法について説明します。

デスクトップ共有セッション	音声	双方向ビデオ（メイン ビデオ）	プレゼンテーションビデオ（デスクトップ共有ビデオ）
No	Cisco Jabber for Windows では、音声の最大ビット レートを使用します。	Cisco Jabber for Windows では、次のように残りのビット レートを割り当てます。 ビデオ コールの最大ビット レートから音声のビット レートを引きます。	-
Yes	Cisco Jabber for Windows では、音声の最大ビット レートを使用します。	Cisco Jabber for Windows では、音声のビット レートを引いた後に残りの帯域幅の半分を割り当てます。	Cisco Jabber for Windows では、音声のビット レートを引いた後に残りの帯域幅の半分を割り当てます。

帯域幅のパフォーマンス期待値

Cisco Jabber for Windows では、音声のビット レートを分けてから、インタラクティブ ビデオとプレゼンテーション ビデオの間で残りの帯域幅を均等に分けます。次の表では、帯域幅ごとに達成できるパフォーマンスを理解するのに役立つ情報について説明します。

アップロード速度	音声	音声 + インタラクティブ ビデオ（メイン ビデオ）	音声 + プレゼンテーション ビデオ（デスクトップ共有ビデオ）	音声 + インタラクティブ ビデオ + プレゼンテーション ビデオ
125 kbps（VPN）	g.711 の帯域幅のしきい値レベルです。 帯域幅は g.729a および g.722.1 用に十分です。	帯域幅はビデオ用に不十分です。	帯域幅はビデオ用に不十分です。	帯域幅はビデオ用に不十分です。
384 kbps（VPN）	帯域幅は音声コーデック用に十分です。	w288p（512x288）（30 fps）	1280 x 800（2 fps 以上）	w144p（256 x 144）（30 fps）+ 1280 x 720（2 fps 以上）
384 kbps（企業ネットワーク）	帯域幅は音声コーデック用に十分です。	w288p（512x288）（30 fps）	1280 x 800（2 fps 以上）	w144p（256 x 144）（30 fps）+ 1280 x 800（2 fps 以上）
1000 kbps	帯域幅は音声コーデック用に十分です。	w576p（1024x576）（30 fps）	1280 x 800（8 fps）	w288p（512 x 288）（30 fps）+ 1280 x 800（8 fps）
2000 kbps	帯域幅は音声コーデック用に十分です。	w720p30（1280 x 720）（30 fps）	1280 x 800（8 fps）	w288p（1024 x 576）（30 fps）+ 1280 x 800（8 fps）

VPN でペイロードのサイズを大きくすると、帯域幅の消費が増えることに注意してください。

ビデオ レート適応

Cisco Jabber for Windows では、ビデオ レート アダプテーションを使用して、最適なビデオ品質をネゴシエートします。 ビデオ レート適応は、ビデオのビット レートのスループットを動的に増減して、有効な IP パスの帯域幅でリアルタイムの変動を処理します。

Cisco Jabber for Windows ユーザは、ビデオ コールが低解像度で開始し、短期間に高解像度になることを想定します。 Cisco Jabber for Windows では、履歴を保存して、後続のビデオ コールが最適な解像度で開始するようにします。

Cisco Jabber for Windows 起動シーケンス

このトピックは、Cisco Jabber for Windows の初回起動シーケンスについて説明します。

次の手順では、高レベルからの初回 Cisco Jabber for Windows 起動シーケンスについて説明します。

1. プレゼンス サーバ タイプを `jabber-bootstrap.properties` から取得します。
   Cisco Jabber for Windows が `jabber-bootstrap.properties` を `%ALLUSERSPROFILE%\Cisco Systems\Cisco Jabber` のディレクトリに保存します。
2. プレゼンス サーバに認証します。
3. プロファイルの詳細を取得し、使用可能なサービスに接続します。
4. Cisco Jabber for Windows の設定ファイルを取得します。

プレゼンス サーバ タイプの取得

Cisco Jabber for Windows の基本機能は、インスタント メッセージングとプレゼンスです。 インスタント メッセージングおよびプレゼンス機能にアクセスするには、Cisco Jabber for Windows はプレゼンス サーバに認証する必要があります。

Cisco Jabber for Windows は、`jabber-bootstrap.properties` からプレゼンス サーバの接続に関する詳細を取得します。 このプロパティ ファイルには、次のように、導入時に指定する接続の詳細が含まれます。

クラウドベースの導入

プレゼンス サーバ タイプとして Cisco WebEx Messenger を指定します。

オンプレミスの導入

プレゼンス サーバ タイプとして Cisco Unified Presence または Cisco Unified Communications IM and Presence を指定します。
プレゼンス サーバがドメイン ネーム システムのサービス レコード（DNS SRV）をサポートしない場合は、プレゼンス サーバのアドレスとドメインも指定する必要があります。 ただし、プレゼンス サーバが DNS SRV をサポートする場合は、Cisco Jabber for Windows は自動的に接続できます。

導入時にプレゼンス サーバの接続の詳細を指定せず、`jabber-bootstrap.properties` に接続サーバの詳細がない場合は、次のようにしてユーザ インターフェイスに接続の詳細を指定する必要があります。

1. Cisco Jabber for Windows サインイン ウィンドウで [ファイル（File）] > [接続設定の変更（Change connection settings）] を選択します。
2. [接続設定（Connection Settings）] ダイアログ ボックスで、サーバ タイプとアドレスを指定します。
3. [保存（Save）] を選択します。

（注） ユーザが、ユーザインターフェイスで指定する接続設定は、jabber-bootstrap.properties の接続設定よりも優先されます。

次の手順では、Cisco Jabber for Windows がプレゼンス サーバ タイプを取得する方法を説明します。

1. Cisco Jabber for Windows が起動します。
2. Cisco Jabber for Windows は、jabber-bootstrap.properties からプレゼンス サーバのタイプを取得します。

プレゼンス サーバ タイプがない

プレゼンス サーバ タイプが jabber-bootstrap.properties にない場合は、[接続設定（Connection Settings）] ダイアログ ボックスに接続の詳細を指定する必要があります。

プレゼンス サーバ タイプが Cisco WebEx Messenger

Cisco Jabber for Windows がプレゼンス サーバに認証します。

プレゼンス サーバ タイプが Cisco Unified Presence

- Cisco Jabber for Windows が DNS SRV でプレゼンス サーバを自動検出できる場合は、Cisco Jabber for Windows はプレゼンス サーバに認証します。
- Cisco Jabber for Windows が DNS SRV でプレゼンス サーバを自動検出できない場合は、jabber-bootstrap.properties にプレゼンス サーバのアドレスとドメインを指定する必要があります。 それ以外の場合は、[接続設定（Connection Settings）] ダイアログ ボックスに接続の詳細を指定する必要があります。

プレゼンス サーバへの認証

Cisco Jabber for Windows がプレゼンス サーバに正常に認証できない場合は、エラー メッセージが表示され、起動シーケンスが終了します。

Cisco Jabber for Windows がプレゼンス サーバに正常に認証される場合は、プレゼンス サーバからプロファイルの詳細を取得し、使用可能なサービスと接続します。

プロファイルの詳細の取得と、使用可能なサービスへの接続

Cisco Jabber for Windows は、次のようなプロファイルの詳細を、プレゼンス サーバから取得します。

Cisco WebEx Meeting Center の設定

Cisco WebEx Meeting Center の設定は、クラウドベースおよびハイブリッド クラウドベース導入の会議機能を提供します。

ボイスメールの設定

ボイスメールの設定には、Cisco Unity Connection のオンプレミス導入やハイブリッド クラウドベース導入の接続の詳細があります。

Cisco Unified Communications Manager の設定の詳細

オンプレミス導入とハイブリッド クラウドベース導入では、Cisco Unified Communications Manager の設定情報には、次のものが含まれます。

- TFTP サーバ アドレス
- CTI ゲートウェイ プロファイル
- CCMCIP プロファイル

Cisco Jabber for Windows は、プロファイルの詳細を取得後に、次の手順で使用可能なサービスに接続します。

- プロファイルに、会議設定の詳細が含まれる場合は、Cisco Jabber for Windows は会議サービスに接続します。
- プロファイルに、ボイスメール設定の詳細が含まれる場合は、Cisco Jabber for Windows はボイスメール サービスに接続します。
- プロファイルに Cisco Unified Communications Manager の設定の詳細が含まれる場合は、次の処理が行われます。
  - Cisco Jabber for Windows が Cisco Unified Communications Manager からデバイス プロファイルを取得します。
  - Cisco Jabber for Windows が TFTP サーバからグローバル設定ファイルを取得します。
  - Cisco Jabber for Windows がCisco Unified Communications Manager に登録されます。

Cisco Jabber for Windows 設定ファイルの取得

Cisco Jabber for Windows の設定を含む XML ファイルを作成します。 TFTP サーバの設定ファイルをホストします。

Cisco Jabber for Windows では、次の 2 つの設定ファイルを使用できます。

グローバル設定ファイル

Cisco Unified Communications Manager クラスタのすべての Cisco Jabber for Windows ユーザに適用します。

Cisco Jabber for Windows にはグローバル設定ファイルが必要なので、ログイン前に TFTP サーバから取得を試みます。

グループ設定ファイル

Cisco Unified Communications Manager クラスタの Cisco Jabber for Windows ユーザのサブセットに適用します。

グループ設定ファイルは省略可能です。 グループ設定ファイルが存在する場合は、Cisco Jabber for Windows は Cisco Unified Communications Manager からデバイス設定を取得後に、ファイルを取得します。

重要 グループ設定ファイルは、グローバル設定ファイルよりも優先されます。

設定ファイルに関する詳細については、「*Cisco Jabber for Windows* 設定の概要」の章を参照してください。

関連トピック

Cisco Jabber for Windows 設定の概要, （77 ページ）

Cisco Jabber for Windows の COP ファイル

Cisco Jabber for Windows を導入するために必要な、さまざまな COP ファイルを確認します。 次の COP ファイルは、Cisco.com の Cisco Jabber for Windows 管理パッケージ から取得できます。

COP ファイル	説明	Cisco Unified Communications Manager バージョン
ciscocm.installcsfdevicetype.cop.sgn	Cisco Unified Communications Manager に CSF デバイス タイプを追加します。 詳細については、ソフトウェア要件を参照してください。	7.1.3
cmterm-bfcp-e.8-6-2.cop.sgn	CSF デバイスで BFCP ビデオ デスクトップ共有をサポートします。 詳細については、ビデオ デスクトップ共有の設定を参照してください。	8.6.2 のみ
ciscocm.addcsfsupportfield.cop.sgn	グループ設定ファイルの [CSF サポート フィールド（CSF Support Field）] フィールドを追加します。 詳細については、グループ設定の作成を参照してください。	8.6.x 以下

COP ファイル	説明	Cisco Unified Communications Manager バージョン
cmterm-cupc-dialrule-wizard-0.1.cop.sgn	アプリケーション ダイヤル ルールとディレクトリ ルックアップ ルールを Cisco Jabber for Windows に公開します。 詳細については、*Cisco Jabber for Windows* へのダイヤル ルールの発行を参照してください。	サポートされるすべてのバージョン

認証

クラウドベース導入の認証

クラウドベース導入では、Cisco Jabber for Windows および Cisco WebEx Messenger 間で認証が行われます。

ハイブリッド クラウドベース導入では、Cisco Jabber for Windows は次のサービスでの認証も行います。

- Cisco Unified Communications Manager に認証し、デバイス設定を取得する。
- Cisco Unity Connection に認証し、ボイスメールを取得する。

オンプレミス導入の認証

オンプレミス導入では、次の認証が行われます。

ディレクトリでの認証

- Cisco Jabber for Windows は、ディレクトリ ソースで認証します。
- Cisco Unified Communications Manager は、ユーザが Cisco Jabber for Windows にログインしたときに、ディレクトリでの認証をプロキシします。

サービスでの認証

Cisco Jabber for Windows は、次のサービスでの認証を行います。

- Cisco Unified Presence または Cisco Unified Communications IM and Presence に認証し、インスタント メッセージングとプレゼンス サーバにアクセスします。
- Cisco Unified Communications Manager に認証し、デバイス設定を取得する。
- Cisco Unity Connection に認証し、ボイスメールを取得する。

認証情報ソースの指定

Cisco Jabber for Windows 設定ファイルでパラメータを指定し、Cisco Jabber for Windows がサインイン認証情報を使用してサービスにアクセスできるようにします。

オンプレミスの導入

クライアント認証情報が Cisco Unified Communications Manager の電話サービスの認証情報と同じであれば、Cisco Jabber for Windows 設定ファイルで PhoneService_ UseCredentialsFrom パラメータを指定できます。 このパラメータでは、クライアント認証情報を使用し、電話サービスにアクセスします。 そのため、Cisco Jabber for Windows ユーザは、クライアントの電話サービスに対して認証情報を入力する必要がありません。

サインイン認証情報と電話サービスの認証情報が、Cisco Jabber for Windows ユーザに対して同じであることを確認する必要があります。 このパラメータを設定した場合、[オプション（Options）] ウィンドウの [電話アカウント（Phone accounts）] タブに [電話サービス（Phone services）] セクションはありません。

詳細については、「オンプレミス導入の設定」の章の「認証情報の設定」のトピックを参照してください。

ハイブリッド クラウドベースの導入

クライアント認証情報が Cisco Unity Connection のボイスメール サービスの認証情報と同じであれば、Cisco Jabber for Windows 設定ファイルで VoicemailService_ UseCredentialsFrom パラメータを指定できます。 このパラメータでは、クライアント認証情報を使用し、ボイスメール サービスにアクセスします。 このため、Cisco Jabber for Windows ユーザはクライアントでボイスメール サービス用のクレデンシャルを入力する必要がありません。

サインイン認証情報とボイスメール サービスの認証情報が、Cisco Jabber for Windows ユーザに対して同じであることを確認する必要があります。 このパラメータを設定した場合、[オプション（Options）] ウィンドウの [電話アカウント（Phone accounts）] タブに [ボイスメール（Voicemail）] セクションはありません。

詳細については、「ハイブリッド クラウドベース導入の設定」の章の「認証情報の設定」のトピックを参照してください。

関連トピック

認証情報の設定, （122 ページ）
認証情報の設定, （153 ページ）

サーバの自動検出

Cisco Jabber for Windows は、Cisco Unified Presence または Cisco Unified Communications IM and Presence に自動接続するために、ドメイン ネーム システム レコード（DNS SRV）ルックアップを使用します。

自動サーバ検出のシナリオ

オンプレミスの自動サーバ検出は、次のシナリオで行われます。

- Cisco Jabber for Windows ユーザは、[接続設定（Connection Settings）] ダイアログ ボックスで次のオプションを選択します。
  - [サーバ タイプ（Server type）] セクションの [Cisco Unified Presence]。
  - [ログイン サーバ（Login server）] セクションの [デフォルト サーバを使用（Use the default server）]。
- 導入時に、TYPE コマンドライン引数の値として CUP を指定します。
  Cisco Jabber for Windows は、`jabber-bootstrap.properties` からプレゼンス サーバのタイプを読み込みます。

  （注） プレゼンス サーバの DNS ドメインがユーザの DNS ドメインと異なる場合は、DOMAIN コマンドライン引数の値として、プレゼンス サーバの DNS ドメインを指定する必要があります。

  コマンドライン引数の詳細については、「*Cisco Jabber for Windows* のインストール」の章を参照してください。

自動サーバ検出の論理

この項では、Cisco Jabber for Windows がオンプレミス導入のプレゼンス サーバに自動接続する方法を説明します。

Cisco Jabber for Windows の初回起動時に、`jabber-bootstrap.properties` からプレゼンス サーバのタイプが取得されます。

プレゼンス サーバの接続が**jabber-bootstrap.properties** にない場合

1. Cisco Jabber for Windows は、次の場所から次の順番で検索し、最初に見つかった有効なドメインを使用します。
   - USERDNSDOMAIN 環境変数
   - HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameters\Domain レジストリ キー
   - HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameters\DhcpDomain レジストリ キー
2. Cisco Jabber for Windows は、プレゼンス サーバへの接続を試行します。
   - Cisco Jabber for Windows がプレゼンス サーバに正常に接続できない場合は、エラー メッセージが表示されます。
   - Cisco Jabber for Windows がプレゼンス サーバに正常に接続し、リダイレクトが発生しない場合は、Cisco Jabber for Windows はそのプレゼンス サーバの接続値をキャッシュします。
   - Cisco Jabber for Windows がプレゼンス サーバに正常に接続し、クラスタ内の別のサーバへのリダイレクトが発生すると、Cisco Jabber for Windows は、接続先のプレゼンス サーバの接続値をキャッシュします。 Cisco Jabber for Windows は、リダイレクトの前に Cisco Unified Presence サーバの値をキャッシュしません。

プレゼンス サーバの接続が **jabber-bootstrap.properties** にある場合

- Cisco Jabber for Windows がプレゼンス サーバに正常に接続した場合、Cisco Jabber for Windows はロードを続行します。
  Cisco Jabber for Windows は、初回起動後にプレゼンス サーバのアドレスをキャッシュし、その後の起動時にそのサーバに接続を試行します。
- Cisco Jabber for Windows がプレゼンス サーバに正常に接続されない場合、プレゼンス サーバの接続値が存在しないかのように再開されます。

DNS SRV レコード

プレゼンス サーバ ドメインの DNS サーバに、_cuplogin のサービス名の DNS SRV レコードを追加する必要があります。 この DNS SRV レコードがない場合、Cisco Jabber for Windows は DNS SRV ルックアップを実行できません。

次に、DNS SRV レコードの例を示します。

```
_cuplogin._tcp.company.com
Server: dns_server.company.com
Address: 10.10.1.10
_cuplogin._tcp.company.com SRV service location:
 priority =0
 weight =0
 port =8443
```

```
srv hostname =cupserver.company.com
internet address =10.53.56.57
```

前の例で、_cuplogin はサービス名です。 プレゼンス サーバのドメイン名は company.com です。 DNS サーバで定義されている company.com ドメインの SRV は _cuplogin._tcp.company.com です。

（注） Cisco Jabber for Windows

- デフォルトでは、SRV レコードにマッピングされているポートではなく、ポート 8443 が使用されます。
- DNS SRV ルックアップ時は、重みと優先順位がサポートされます。

関連トピック

Cisco Jabber for Windows のインストール, （57 ページ）

ディレクトリ統合

Cisco Jabber for Windows のオンプレミス導入には、ディレクトリ統合が必要です。 Cisco Jabber for Windows には、2 種類のディレクトリ統合が提供されています。

- 拡張ディレクトリ統合（EDI）
- Cisco Unified Communications Manager ユーザ データ サービス（UDS）

関連トピック

ディレクトリ パラメータ, （91 ページ）

EDI ディレクトリ統合

EDI は、ネイティブの Microsoft Windows API を使用し、Microsoft Active Directory から連絡先データを取得します。

EDI のための Cisco Jabber for Windows の設定

デフォルトでは、EDIに接続するために設定ファイルを作成する必要はありません。 Active Directory ドメインに登録されているワークステーションに Cisco Jabber for Windows をインストールした場合、Cisco Jabber for Windows は自動的にディレクトリ サービスを検出し、ドメイン内のグローバル カタログに接続します。 ただし、次の手順に従い、Cisco Jabber for Windows 設定ファイルにカスタム設定を指定することもできます。

- 属性のマッピング

  属性マッピングのパラメータを参照してください。

- 接続の設定

ディレクトリ接続パラメータを参照してください。

- クエリー設定

  ディレクトリ クエリー パラメータを参照してください。

- 連絡先の写真の解像度

  連絡先の写真のパラメータを参照してください。

- ドメイン フェデレーション

  ドメイン フェデレーション パラメータを参照してください。

ディレクトリからの属性の取得

Cisco Jabber for Windows がディレクトリから属性を取得できることを確認する必要があります。

グローバル カタログ

デフォルトでは、Cisco Jabber for Windows は グローバル カタログ サーバに接続します。 デフォルト設定を使用する場合は、すべての属性が グローバル カタログ サーバに常駐することを確認する必要があります。

Microsoft Active Directory Schema スナップインなどの適切なツールを使用すると、属性を グローバル カタログ サーバに複製できます。

（注） グローバル カタログ サーバに属性を複製すると、ドメイン内の Active Directory サーバ間にトラフィックが発生します。

Active Directory Schema スナップインを使用し、グローバル カタログ サーバに属性を複製する方法については、適切な Microsoft ドキュメントを参照してください。

ドメイン コントローラ

次の場合は、Cisco Jabber for Windows を設定し、ドメイン コントローラ に接続できます。

- グローバル カタログ サーバに接続したくない。
- グローバル カタログ サーバに属性を複製したくない。

（注） ドメイン コントローラ に接続するよう Cisco Jabber for Windows を設定した場合は、Cisco Jabber for Windows は 1 つのドメインにのみクエリーを送信します。

ドメイン コントローラ に接続するよう Cisco Jabber for Windows を設定するには、ConnectionType パラメータの値として「1」を指定します。 詳細については、ディレクトリ接続パラメータを参照してください。

属性のインデックス化

ディレクトリの連絡先の解像度に使用する属性は、必ずインデックス化してください。

デフォルトの属性マッピングを使用する場合は、次の属性がインデックス化されていることを確認します。

- sAMAccountName
- telephoneNumber

  さらに、セカンダリ番号クエリーについては、次の属性もインデックス化する必要があります。

  - otherTelephone
  - mobile
  - homePhone

（注） セカンダリ番号クエリーは Cisco Jabber for Windows ではデフォルトで有効になっています。 セカンダリ番号クエリーは、DisableSecondaryNumberLookups パラメータで無効にすることができます。

- msRTCSIP-PrimaryUserAddress

  ドメイン内フェデレーションのみ、msRTCSIP-PrimaryUserAddress をインデックス化する必要があります。

UDS ディレクトリ統合

UDS は、連絡先の解決を提供する Cisco Unified Communications Manager 上のインターフェイスです。 Microsoft Active Directory または別の LDAP ディレクトリ ソースから連絡先データを Cisco Unified Communications Manager に同期させます。その後、 Cisco Jabber for Windows では、UDS インターフェイスを使用して Cisco Unified Communications Manager から連絡先データを直接取得します。

UDS との統合の有効化

UDS との統合を有効にするには、次の手順を実行します。

1. Cisco Unified Communications Manager でディレクトリ ソースを作成します。
2. 連絡先データを Cisco Unified Communications Manager に同期させます。
3. Cisco Jabber for Windows 設定ファイルの DirectoryServerType パラメータの値として UDS を指定します。

同期の実行後、連絡先データが Cisco Unified Communications Manager に格納されます。その後、Cisco Jabber for Windows は自動的に UDS に接続し、すべての連絡先の解決を実行します。 UDS を使用するために他のサーバ設定タスクを実行する必要はありません。

連絡先の写真の取得

UDS と統合する場合に連絡先写真を取得するには、Cisco Jabber for Windows を設定する必要があります。 詳細については、*UDS* による連絡先写真の取得を参照してください。

複数のクラスタでの連絡先の解決

複数の Cisco Unified Communications Manager クラスタでの連絡先の解決では、社内ディレクトリのすべてのユーザを各 Cisco Unified Communications Manager クラスタに同期させます。 その後、適切な Cisco Unified Communications Manager クラスタにこれらのユーザのサブセットをプロビジョニングします。

たとえば、組織のユーザが 40,000 人とします。 20,000 人のユーザが北米にいます。 20,000 人のユーザがヨーロッパにいます。 組織の各場所に次の Cisco Unified Communications Manager クラスタがあります。

- cucm-cluster-na（北米）
- cucm-cluster-eu（ヨーロッパ）

この例では、40,000 人のすべてのユーザを両方のクラスタに同期させます。その後、北米の 20,000 人のユーザを cucu-cluster-na にヨーロッパの 20,000 人のユーザを cucm-cluster-eu にプロビジョニングします。

ヨーロッパのユーザが北米のユーザにコールすると、Cisco Jabber for Windows が cucu-cluster-na からヨーロッパのユーザの連絡先詳細を取得します。

北米のユーザがヨーロッパのユーザにコールすると、Cisco Jabber for Windows が cucu-cluster-eu から北米のユーザの連絡先詳細を取得します。

サポートされる LDAP ディレクトリ サービス

Cisco Jabber for Windows では、次のディレクトリ サービスをサポートしています。

- Microsoft Active Directory 2003
- Microsoft Active Directory 2008
- OpenLDAP
- Active Directory ライトウェイト ディレクトリ サービス（AD LDS）または Active Directory Application Mode; Active Directory アプリケーション モード（ADAM）

このリリースで、Cisco Jabber for Windows は OpenLDAP および Active Directory ライトウェイト ディレクトリ サービス（AD LDS）または Active Directory Application Mode; Active Directory アプリケーション モード（ADAM）を使用した次のような特定の統合シナリオをサポートします。

- 匿名バインドまたは認証済みバインドを使用する OpenLDAP の統合。
- 匿名バインド、Microsoft Windows プリンシパル ユーザとの認証、または AD LDS プリンシパル ユーザとの認証を使用する AD LDS または ADAM の統合。

サポートされている統合シナリオについては、ディレクトリ サービスの設定例セクションの設定例を参照してください。

Cisco Jabber for Windows を設定する前に、ディレクトリ サービスの実装を検討し、スキーマの特性を決定します。 ディレクトリ サービスに接続するための要件を確認した後、次のように設定ファイルで指定できる設定を確認します。

- 属性のマッピング

  属性マッピングのパラメータを参照してください。
- 接続の設定

  ディレクトリ接続パラメータを参照してください。
- クエリー設定

  ディレクトリ クエリー パラメータを参照してください。
- 連絡先の写真の解像度

  連絡先の写真のパラメータを参照してください。
- ドメイン フェデレーション

  ドメイン フェデレーション パラメータを参照してください。

ドメイン ネーム システムの設定

Cisco Jabber for Windows が組織全体のディレクトリ検索を実行するためには、クライアント アプリケーションが組織のすべてのユーザの情報にアクセスできるディレクトリ サービスに接続する必要があります。 ほとんどの展開シナリオでは、Cisco Jabber for Windows によってユーザのワークステーションのUSERDNSDOMAIN環境変数からドメイン名が取得されます。USERDNSDOMAIN の値により、Cisco Jabber for Windows はドメイン内のグローバル カタログまたは LDAP サービスを検索します。

（注） デフォルトでは、Cisco Jabber for Windows はグローバル カタログを検索します。 LDAP サービスを検索するように Cisco Jabber for Windows を設定する必要があります。

場合によっては、USERDNSDOMAIN 環境変数の値は、フォレスト全体のドメイン名に対応する DNS ドメイン名に解決されません。たとえば、この設定は、組織がサブドメインまたはリソースドメインを使用する場合に発生します。 このような設定では、USERDNSDOMAIN 環境変数は、親ドメインではなく子ドメインに解決されます。 このタイプの設定が発生すると、Cisco Jabber for Windows は組織のすべてのユーザの情報にアクセスできません。

USERDNSDOMAIN 環境変数が子ドメインに解決される場合、次のいずれかの設定オプションを使用して、Cisco Jabber for Windows が親ドメインのサービスに接続できるようにします。

- 親ドメインの FQDN を使用するように Cisco Jabber for Windows を設定します。

  この設定を実行するには、PrimaryServerName パラメータの値として親ドメインの FQDN を指定します。詳細については、「ディレクトリ接続パラメータ」のトピックを参照してください。

- Cisco Jabber for Windows によるグローバル カタログまたはLDAP サービスの要求時に組織のすべてのユーザにアクセスできるサーバに Cisco Jabber for Windows を転送するように、DNS サーバを設定します。
- グローバル カタログまたはLDAPサービスが組織のすべてのユーザにアクセスできることを確認します。

DNS サーバの設定に関する詳細については、次の Microsoft のマニュアルを参照してください。

- *Configuring DNS for the Forest Root Domain*
- *Assigning the Forest Root Domain Name*
- *Deploying a GlobalNames Zone*
- サポート：*Microsoft* サーバ製品における「*DNS* 名前空間計画」

関連トピック

Configuring DNS for the Forest Root Domain
Assigning the Forest Root Domain Name
Deploying a GlobalNames Zone
サポート：Microsoft サーバ製品における「DNS 名前空間計画」

QoS の設定

このトピックでは、Cisco Jabber for Windows の Quality of Service（QoS）を設定するためのオプションについて説明します。

Microsoft Windows の QoS ポリシー

Windows クライアントが、Cisco Jabber for Windows へのメディア ストリームに対して DiffServ コード ポイント（DSCP）値を自動的に適用できるよう、Microsoft Windows にグループ ポリシーを設定できます。

設定するポリシーは、CiscoJabber.exe アプリケーション、UDP プロトコル、およびソース ポート範囲に一致する必要があります。ほとんどの場合は、オーディオ コールのポート範囲に DSCP 値を適用するポリシーを 1 つと、ビデオ コールのポート範囲に DSCP 値を適用するポリシーを 1 つ設定する必要があります。

詳細については、Microsoft Windows Server 2008 マニュアルの「*Policy-based Quality of Service (QoS)*」のトピックを参照してください。

Cisco Medianet

Cisco Medianet では、Cisco Prime Collaboration Manager および Cisco Medianet 対応ルータと連動する Microsoft Windows サービスを提供し、Cisco Jabber for Windows がネットワークで遅延やパケット損失を最小限に抑えて音声メディアとビデオ メディアを送信できるようにします。

Cisco Jabber for Windows では、音声メディアまたはビデオ メディアを送信する前に、Cisco Medianet サービスをチェックします。 そのサービスがコンピュータ上に存在しない場合には、Cisco Jabber for Windows によってフロー情報が Cisco Medianet サービスに提供されます。 その後、サービスはネットワークに信号を送信するため、ルータがフローを分類して Cisco Jabber for Windows のトラフィックにプライオリティを設定できるようになります。 サービスが存在しない場合には、Cisco Jabber for Windows ではサービスを使用せずに、通常どおりに音声メディアとビデオ メディアを送信します。 ただし、Cisco Jabber for Windows では、音声コールまたはビデオ コールごとに Cisco Medianet サービスをチェックします。

Cisco Medianet は個別にインストールし、ネットワークが Cisco Medianet 対応であることを確認する必要があります。 また、Cisco Prime Collaboration Manager と、Cisco Medianet に対応するルータもインストールする必要があります。 詳細については、「*Cisco Jabber for Windows* のインストール」の章の「*Cisco Medianet* のインストール」のトピックを参照してください。

Cisco Unified Communications Manager のポート範囲

Cisco Unified Communications Manager では、Cisco Jabber for Windows に対して 1 つのポート範囲を定義できます。 Cisco Jabber for Windows では、このポート範囲を均等に分け、下半分をオーディオ コール用に、上半分をビデオ コール用に使用します。 たとえば、Cisco Unified Communications Manager で 1000 から 3000 のポート範囲を定義するとします。 Cisco Jabber for Windows では、1000 から 2000 のポート範囲をオーディオ コール用に、2000 から 3000 のポート範囲をビデオ コール用に使用します。

ポート範囲は、Cisco Unified Communications Manager の Cisco Jabber for Windows SIP プロファイルの [SIP プロファイルの設定（SIP Profile Configuration）] ウィンドウで設定します。

[SIP プロファイルの設定（SIP Profile Configuration）] ウィンドウを開くには、[デバイス（Device）] > [デバイス設定（Device Settings）] > [SIP プロファイル（SIP Profile）] を選択します。

[メディア ポートの開始（Start Media Port）] フィールドでは、Cisco Jabber for Windows で使用可能な、一番低いポートを定義します。 [メディア ポートの停止（Stop Media Port）] フィールドでは、使用可能な一番高いポートを定義します。 詳細については、Cisco Unified Communications Manager マニュアルの「*SIP Profile Configuration*」のトピックを参照してください。

関連トピック

Cisco Medianet のインストール, （73 ページ）
Policy-based Quality of Service (QoS)
「8.6.x: SIP Profile Configuration」
「9.0.x: SIP profile setup」

プロトコル ハンドラ

Cisco Jabber for Windows は、次のプロトコル ハンドラをオペレーティング システムに登録し、クリックツーコールまたはクリックツー IM 機能を Web ブラウザやその他のアプリケーションから使用できるようにします。

- XMPP:

  Cisco Jabber for Windows でインスタント メッセージを開始し、チャット ウィンドウを開きます。

- IM:

  Cisco Jabber for Windows でインスタント メッセージを開始し、チャット ウィンドウを開きます。

- TEL:

  Cisco Jabber for Windows との通話を開始します。

プロトコル ハンドラのレジストリ エントリ

プロトコル ハンドラとして登録するために、Cisco Jabber for Windows は Microsoft Windows レジストリの次の場所に書き込みます。

- HKEY_CLASSES_ROOT\tel\shell\open\command
- HKEY_CLASSES_ROOT\xmpp\shell\open\command
- HKEY_CLASSES_ROOT\im\shell\open\command

2 つ以上のアプリケーションが同一プロトコルのハンドラとして登録される場合は、レジストリに最後に書き込まれたアプリケーションが優先されます。 たとえば、Cisco Jabber for Windows が XMPP: のプロトコル ハンドラとして登録され、その後に別のアプリケーションが XMPP: のプロトコル ハンドラとして登録された場合、別のアプリケーションが Cisco Jabber for Windows よりも優先されます。

HTML ページへのプロトコル ハンドラの追加

HTML ページに、href 属性の一部としてプロトコル ハンドラを追加します。 HTML ページに表示されるハイパーリンクをクリックすると、Cisco Jabber for Windows はプロトコルに対して適切な処理を実行します。

次に、HTML ページの TEL: および IM: プロトコル ハンドラの例を示します。

```
<html>
  <body>
    <a href="TEL:1234">Call 1234</a><br/>
    <a href="IM:msmith@domain">Send an instant message to Mary Smith</a>
  </body>
</html>
```

前の例では、ユーザがハイパーリンクをクリックして 1234 に発信すると、Cisco Jabber for Windows はその電話番号への音声コールを開始します。 ユーザが Mary Smith にインスタント メッセージ

を送信するハイパーリンクをクリックすると、Cisco Jabber for Windows は Mary とのチャット ウィンドウを開きます。

次に、HTML ページの XMPP: プロトコル ハンドラを使用したグループ チャットの例を示します。

```
<html>
  <body>
    <a href="XMPP:msmith@domain;amckenzi@domain">Create a group chat with Mary Smith and
Adam McKenzie</a>
  </body>
</html>
```

前の例では、ユーザが Mary Smith および Adam McKenzie とのグループ チャットを作成するハイパーリンクをクリックすると、Cisco Jabber for Windows は Mary および Adam とのグループ チャット ウィンドウを開きます。

ヒント

- Cisco Jabber for Windows のカスタム埋め込みタブの HTML ページに、プロトコル ハンドラを含めることができます。 詳細については、カスタム埋め込みタブを参照してください。
- XMPP: および IM: ハンドラに連絡先リストを追加し、グループ チャットを作成します。 連絡先を区切るには、セミコロンを使用します。 次に、例を示します。

  ```
  XMPP:user_a@domain.com;user_b@domain.com;user_c@domain.com;user_d@domain.com
  ```

連絡先の写真の形式と寸法

サポートされている形式

Cisco Jabber for Windows では、ディレクトリ内の連絡先写真について次の形式をサポートしています。

- JPG
- PNG
- BMP
- GIF

重要

Cisco Jabber for Windows では、GIF 形式の連絡先写真のレンダリングを向上させるための変更は適用されません。 その結果、GIF 形式の連絡先写真が不正にレンダリングされたり最適な品質にならない場合があります。 最適な品質を得るには、連絡先の写真として PNG 形式を使用する必要があります。

写真の寸法

ヒント　連絡先写真の最適な寸法は、アスペクト比 1:1 の 128 x 128 ピクセルです。

次の表に、Cisco Jabber for Windows での連絡先写真のさまざまな寸法を示します。

場所	寸法
音声コール ウィンドウ	128 x 128 ピクセル
次のような招待やリマインダ • 着信コール ウィンドウ • 会議リマインダ ウィンドウ	64 x 64 ピクセル
次のような連絡先のリスト • 連絡先リスト • 参加者リスト • コール履歴 • ボイスメール メッセージ	32 x 32 ピクセル

サイズ変更

ディレクトリ内の連絡先写真が 128 x 128 ピクセル以外のサイズである場合、Cisco Jabber for Windows によって写真のサイズが自動的に変更されます。 たとえば、ディレクトリ内の連絡先写真が 64 x 64 ピクセルであるとします。 Cisco Jabber for Windows でディレクトリから連絡先写真を取得すると、その写真のサイズが 128 x 128 ピクセルに変更されます。

ヒント　連絡先写真のサイズ変更により、最適な解像度が得られない場合があります。 このため、Cisco Jabber for Windows によって連絡先写真のサイズが自動的に変更されないように、128 x 128 ピクセルの連絡先写真を使用してください。

トリミング

Cisco Jabber for Windows では、四角形以外の写真を四角形のアスペクト比（つまり、幅が高さと同じアスペクト比 1:1）に自動的にトリミングします。

縦方向

ディレクトリ内の連絡先写真が縦方向である場合、Cisco Jabber for Windows で上端から 30 %、下端から 70 % をトリミングします。

たとえば、ディレクトリ内の連絡先写真が幅 100 ピクセル、高さ 200 ピクセルである場合、アスペクト比が 1:1 となるように Cisco Jabber for Windows で高さから 100 ピクセルをトリミングする必要があります。 この場合、Cisco Jabber for Windows で写真の上端から 30 ピクセルを、写真の下端から 70 ピクセルをトリミングします。

横方向

ディレクトリ内の連絡先写真が横方向である場合、Cisco Jabber for Windows で両方の側から 50 % をトリミングします。

たとえば、ディレクトリ内の連絡先写真が幅 200 ピクセル、高さ 100 ピクセルである場合、アスペクト比が 1:1 となるように Cisco Jabber for Windows で幅から 100 ピクセルをトリミングする必要があります。 この場合、Cisco Jabber for Windows で写真の右側から 50 ピクセルを、写真の左側から 50 ピクセルをトリミングします。

丸め

Cisco Jabber for Windows では、ディレクトリから連絡先写真を取得した後、それらの写真の角を丸めます。

第 4 章

サーバのセットアップ

Cisco Jabber for Windows を導入する前に、サーバ側の環境を設定し、ユーザを使用可能にし、サービスをプロビジョニングする必要があります。

- サーバ セットアップ ガイド，55 ページ

サーバ セットアップ ガイド

Cisco Jabber for Windows のサーバ側インフラストラクチャのセットアップと設定に役立つ作業ベースの情報については、『*Cisco Jabber for Windows Server Setup Guide*』を参照してください。

『*Cisco Jabber for Windows Server Setup Guide*』では、オンプレミス導入およびクラウドベース導入に対してサービスをプロビジョニングするために実行する必要がある作業について説明します。

関連トピック

『Cisco Jabber for Windows 9.1.x Server Setup Guide』

第 5 章

Cisco Jabber for Windows のインストール

インストールのオプションを確認し、Cisco Jabber for Windows のインストールのさまざまな方法を学習します。 インストールを開始する前に、正常な導入の要件について理解します。

- インストレーションの概要，57 ページ
- コマンドラインの使用，60 ページ
- MSI の再パッケージ化，66 ページ
- MSI の手動による実行，69 ページ
- グループ ポリシーを使用した導入，71 ページ
- Cisco Medianet のインストール，73 ページ
- Cisco Jabber for Windows のアンインストール，74 ページ

インストレーションの概要

次のオペレーティング システムに Cisco Jabber for Windows をインストールできます。

- Microsoft Windows 7 32 ビット
- Microsoft Windows 7 64 ビット
- Microsoft Windows Vista 32 ビット
- Microsoft Windows Vista 64 ビット
- Microsoft Windows XP 32 ビット（Service Pack 3）

（注） Cisco Jabber for Windows には、Microsoft .NET Framework または Java モジュールは必要ではありません。

インストール要件の詳細については、ハードウェア要件およびソフトウェア要件のトピックを参照してください。

インストール オプション

Cisco Jabber for Windows で提供される MSI インストール パッケージでは、次のインストール オプションが用意されています。

コマンドライン経由のインストール

コマンドライン ウィンドウで引数を使用してインストール プロパティを指定して、Cisco Jabber for Windows をインストールできます。

組織間に渡る複数のインスタンスをインストールする場合は、このオプションを選択します。

詳細については、コマンドラインの使用を参照してください。

MSI の再パッケージ化

Microsoft Orca などのプログラムを使用して、Cisco Jabber for Windows のインストール パッケージをカスタマイズできます。 MSI を再パッケージ化すると、デフォルトのインストール パッケージを開いて必要なインストール プロパティを指定して、カスタム インストール パッケージを保存できます。

同じインストール プロパティを持つインストール パッケージを配布する場合は、このオプションを選択します。

詳細については、カスタム インストーラの使用を参照してください。

MSI の手動による実行

クライアント コンピュータのファイル システムで MSI を手動で実行してから、Cisco Jabber for Windows の初回起動時に接続のプロパティを指定できます。

テストまたは評価用に単一インスタンスをインストールする場合は、このオプションを選択します。

詳細については、MSI の手動による実行を参照してください。

インストールの設定要件

Cisco Jabber for Windows の設定オプションを確認して、インストール前に設定ファイルを作成する必要があるかどうかを確認します。

デフォルト設定

ほとんどの環境で、Cisco Jabber for Windows はプレゼンス サーバに接続してディレクトリ照会を実行するための設定を必要としません。

オンプレミス導入で、Cisco Jabber for Windows は Cisco Unified Presence または Cisco Unified Communications IM and Presence を自動的に検出できるように、_cuplogin SRV レコードを使用しま

す。 プレゼンス サーバ ドメイン上の DNS サーバの _cuplogin サービス名の DNS SRV レコードを追加する場合、Cisco Jabber for Windows は自動的にそのプレゼンス サーバに接続できます。

オンプレミス導入のディレクトリ統合では、Cisco Jabber for Windows は 拡張ディレクトリ統合 をデフォルトで使用します。 Active Directory ドメインに登録されているワークステーションに Cisco Jabber for Windows をインストールした場合、Cisco Jabber for Windows は自動的にディレクトリ サービスを検出し、ドメイン内のグローバル カタログに接続します。

クラウドベース導入では、Cisco WebEx Messenger は Cisco Jabber for Windows にプレゼンス機能と連絡先の解決を提供します。 Cisco Jabber for Windows のすべての設定は、Cisco WebEx Administration Tool を使用して実行します。 ただし、追加オプションを使用して Cisco Jabber for Windows をハイブリッド クラウドベース導入で設定できます。

カスタム設定

次の場合に Cisco Jabber for Windows を設定する必要があります。

- Active Directory ドメインに登録されているワークステーションに Cisco Jabber for Windows をインストールしない場合。
- EDI ではなく、Cisco Unified Communications Manager ユーザ データ サービス またはサポートされている別の LDAP ディレクトリに接続する場合。
- Cisco Jabber for Windows がディレクトリ サービスを正しく使用できるようにカスタム設定を指定する必要がある場合。 カスタム ディレクトリ設定には、次の内容が含まれます。
  - 属性のマッピング
  - 接続の設定
  - 連絡先写真の取得の設定
  - ディレクトリ検索の設定
  - ドメイン内フェデレーションの設定
- 次のようなカスタム コンテンツを使用して展開する場合。
  - ユーザが問題レポートを送信できるスクリプト
  - 自動アップデートを有効にするファイル
  - HTML コンテンツを表示するためのカスタム埋め込みタブ
  - ユーザが忘れてしまったパスワードをリセットまたは取得できる URL
- 次のようなカスタム ポリシー設定を使用して展開する場合。
  - 画面キャプチャの無効化
  - ファイル転送の無効化
  - ビデオ コールの無効化
- 展開で認証情報設定を指定する場合。

コマンドラインの使用

インストール時にプロパティを Cisco Jabber for Windows に適用するために、コマンドラインの引数を指定できます。

はじめる前に

ソフトウェア設定管理プログラムを使用して導入するために Cisco Jabber for Windows を準備します。

手順

ステップ 1 コマンドライン ウィンドウを開きます。

ステップ 2 次のコマンドを入力します。

```
msiexec.exe /i CiscoJabberSetup.msi
```

ステップ 3 コマンドライン ウィンドウでコマンドラインの引数を parameter=value のペアで指定します。
次に、Cisco Jabber for Windows をインストールするためのコマンドの例を示します。

オンプレミスの導入

```
msiexec.exe /i CiscoJabberSetup.msi TYPE=CUP ADDRESS=1.2.3.4
DOMAIN=domain.com LANGUAGE=1033 /quiet
```

ここで、

TYPE=CUP により、Cisco Unified Presence がプレゼンス サーバとして指定されます。
ADDRESS=1.2.3.4 により、1.2.3.4 がプレゼンス サーバの IP アドレスとして指定されます。
DOMAIN=domain.com により、domain.com がプレゼンス サーバのドメイン名として指定されます。
LANGUAGE=1033 により、英語が言語として指定されます。
/quiet により、サイレント インストールが指定されます。

クラウドベースの導入

```
msiexec.exe /i CiscoJabberSetup.msi TYPE=WEBEX SSO_ORG_DOMAIN=domain.com
AUTHENTICATIONMODE=CloudSSO /quiet
```

ここで、

TYPE=WEBEX により、Cisco WebEx Messenger がプレゼンス サーバとして指定されます。
SSO_ORG_DOMAIN=domain.com により、domain.com が SSO のドメイン名として指定されます。
AUTHENTICATIONMODE=CloudSSO により、Cisco WebEx Messenger で SSO が使用されるように Cisco Jabber for Windows が設定されます。
/quiet により、サイレント インストールが指定されます。

コマンドラインの引数の詳細については、「コマンドライン引数」を参照してください。

ステップ 4 コマンドを実行して、Cisco Jabber for Windows をインストールします。

関連トピック

コマンドライン引数, （61 ページ）

コマンドライン引数

次の表に、Cisco Jabber for Windows をインストールするために使用されるコマンドライン引数を説明します。

引数	値	説明
TYPE	CUP WebEx	プレゼンス サーバのタイプを定義します。 次のいずれかの値を設定します。 **CUP** プレゼンス サーバとして Cisco Unified Presence または Cisco Unified Communications IM and Presence を定義します。 **WebEx** プレゼンス サーバとして Cisco WebEx Messenger を定義します。
ADDRESS	プレゼンス サーバのアドレス	プレゼンス サーバのアドレスを指定します。 値として次のいずれかを設定します。 **ホストネーム** 例：hostname **IP アドレス** 例：123.45.254.1 **完全修飾ドメイン名** 例：hostname.domain.com プレゼンス サーバがドメイン ネーム システム サービス レコード（DNS SRV）をサポートしていない場合は、この引数の値を指定する必要があります。 たとえば、Cisco Unified Presence 8.5.2 では DNS SRV をサポートしていません。

引数	値	説明
DOMAIN	ドメイン名（Domain Name）	プレゼンス サーバのドメイン名を識別します。この引数の値として、ドメイン名を指定します。たとえば、domain.com などです。 プレゼンス サーバのドメインが、Cisco Jabber for Windows がインストールされているワークステーションのドメインと同じではない場合は、この引数を指定する必要があります。 次のように、プレゼンス サーバのドメインを確認するための適切な手順を実行します。 **Cisco Unified Presence** 1 [Cisco Unified Presence の管理（Cisco Unified Presence Administration）] インターフェイスを開きます。 2 [システム（System）] > [クラスタ トポロジ（Cluster Topology）] を選択します。 3 [設定（Settings）] を選択します。 4 [ドメイン名（Domain Name）] フィールドの値としてドメイン名を確認します。 **Cisco Unified Communications IM and Presence** 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理（Cisco Unified CM IM and Presence Administration）] インターフェイスを開きます。 2 [システム（System）] > [クラスタ トポロジ（Cluster Topology）] を選択します。 3 [設定（Settings）] を選択します。 4 [ドメイン名（Domain Name）] フィールドの値としてドメイン名を確認します。

引数	値	説明
LANGUAGE	10 進数の LCID	Cisco Jabber for Windows が使用する言語のロケール ID（LCID）を 10 進数で定義します。 値は、サポートされる言語に対応する、10 進数の LCID でなくてはなりません。 たとえば、次のいずれかを指定できます。 • 1033 は英語です。 • 1036 はフランス語です。 • 1034 はスペイン語です。 • 2052 は簡体字中国語です。 この引数は省略可能です。 値を指定しなかった場合は、Cisco Jabber for Windows はデフォルトとしてシステム ロケールの言語が使用されます。 指定可能な言語のリストについては、サポートされる言語のトピックを参照してください。
FORGOT_PASSWORD_URL	URL	ユーザがパスワードを忘れたか、リセットする必要がある場合に、Cisco Jabber for Windows ユーザに示される URL を指定します。 Cisco Jabber for Windows の機能を有効にするために、この引数を指定する必要はありません。 ただし、ユーザが新しいパスワードを取得できるよう、有効な URL を指定する必要があります。 （注） クラウドベース導入では、パスワードを忘れた場合に使用する URL を Cisco WebEx Administration Toolで指定できます。 ただし、Cisco Jabber for Windows はユーザがサインインするまでは、パスワード忘れの URL を取得することができません。
SSO_ORG_DOMAIN	完全修飾ドメイン名	シングルサインオン（SSO）の完全修飾ドメイン名を指定します。 この引数を指定する場合、AUTHENTICATIONMODE 引数を指定する必要があります。 この引数は、Cisco WebEx Messenger で SSO を使用するために必要であり、クラウドベース導入にだけ適用されます。

引数	値	説明
AUTHENTICATIONMODE	CloudSSO	ユーザが Cisco Jabber for Windows で認証する方法を指定します。 次の値を設定します。 **CloudSSO** Cisco Jabber for Windows で SSO を使用するように Cisco WebEx Messenger を設定します。 この引数を指定する場合、SSO_ORG_DOMAIN 引数を指定する必要があります。 この引数は、Cisco WebEx Messenger で SSO を使用するために必要であり、クラウドベース導入にだけ適用されます。
TFTP_FILE_NAME	Filename	TFTP サーバ上にある、グローバル設定ファイルの一意の名前を指定します。 グローバル設定ファイルが、デフォルト名（`jabber-config.xml`）を使用しない場合は、この引数の値を指定する必要があります。 値として、未修飾か完全修飾のファイル名を指定できます。 この引数の値として指定した名前は、TFTP サーバ上のその他のグローバル設定ファイルよりも優先されます。 この引数は省略可能です。

引数	値	説明
LOGIN_RESOURCE	WBX MUT	ユーザが複数のクライアント インスタンスに同時にログインできるかどうかを指定します。 デフォルトで、Cisco Jabber for Windows は Cisco Jabber の複数インスタンスへのログインを許可します。 デフォルトの動作を変更するには、次のいずれかの値を設定します。 **WBX** Cisco Jabber for Windows は、ユーザの JID に wbxconnect サフィックスを付けます。 その結果、ユーザは一度に 1 つの Cisco Jabber for Windows インスタンスにログインできます。 ユーザは、wbxconnect サフィックスを使用する他の Cisco Jabber クライアントにログインできません。 **MUT** Cisco Jabber for Windows の各インスタンスが、ユーザの JID に固有のサフィックスを付加します。 その結果、ユーザは一度に 1 つの Cisco Jabber for Windows インスタンスにログインできます。 ユーザは、同時に他の Cisco Jabber クライアントにログインできます。 次の設定パラメータでログイン リソースのインストール設定を上書きできます：LoginResource。 詳細については、「プレゼンス パラメータ」のトピックを参照してください。

関連トピック

コマンドラインの使用，（60 ページ）
カスタム インストーラの使用，（66 ページ）
プレゼンス パラメータ，（117 ページ）

サポートされる言語

次の表に、Cisco Jabber for Windows でサポートされる言語を示します。

アラビア語	フランス語	ポルトガル語（ブラジル）

カタロニア語	ヘブライ語	ポルトガル語（ポルトガル）
チェコ語	イタリア語	ロシア語
デンマーク語	日本語	スウェーデン語
ドイツ語	韓国語	タイ語
ギリシャ語	ノルウェー語	トルコ語
英語	オランダ語	中国語（簡体字）
スペイン語	ポーランド語	中国語（繁体字）
フィンランド語		

（注） Cisco Jabber for Windows では、すべてのサブ言語のロケール ID はサポートしていません。 たとえば、フランス語（カナダ）を指定した場合は、Cisco Jabber for Windows ではフランス語（フランス）が使用されます。

ロケール ID の詳細については、次のドキュメントを参照してください。

- *Microsoft Windows Locale Code Identifier (LCID) Reference*
- *Locale IDs Assigned by Microsoft*

関連トピック

Microsoft Windows Locale Code Identifier (LCID) Reference
Locale IDs Assigned by Microsoft

MSI の再パッケージ化

必要なインストール プロパティを含むカスタム MSI を作成するために `CiscoJabberSetup.msi` を再パッケージ化できます。

カスタム インストーラの使用

`CiscoJabberProperties.mst` トランスフォーム ファイルを使用して、`CiscoJabberSetup.msi` を変更し、カスタム インストーラを作成します。

（注） トランスフォーム ファイルの適用によって、`CiscoJabberSetup.msi` のデジタル シグニチャは変更されません。

はじめる前に

1 Cisco.com から Cisco Jabber for Windows 管理パッケージをダウンロードします。

2 CiscoJabberProperties.mst を Cisco Jabber for Windows 管理パッケージからファイル システムにコピーします。

3 Microsoft の Web サイトから Microsoft Windows SDK for Windows 7 および .NET Framework 4 をダウンロードしてインストールします。

Microsoft Orca を使用して、CiscoJabberSetup.msi のカスタム バージョンを作成します。Microsoft Orca は、Microsoft Windows SDK for Windows 7 および .NET Framework 4 の一部として使用できます。

手順

ステップ 1 Microsoft Orca を起動します。

ステップ 2 Microsoft Orca で CiscoJabberSetup.msi を開きます。

a) [ファイル（File）] > [開く（Open）] を選択します。
b) ファイル システムで CiscoJabberSetup.msi の場所を参照します。
c) CiscoJabberSetup.msi を選択し、[開く（Open）] を選択します。

CiscoJabberSetup.msi が Microsoft Orca で開きます。 インストーラのテーブルのリストが [テーブル（Tables）] ペインに表示されます。

ステップ 3 CiscoJabberProperties.mst を適用します。

a) [トランスフォーム（Transform）] > [トランスフォームの適用（Apply Transform）] を選択します。
b) ファイル システムで CiscoJabberProperties.mst の場所を参照します。
c) CiscoJabberProperties.mst を選択し、[開く（Open）] を選択します。

ステップ 4 [テーブル（Tables）] ペインのテーブルのリストから [プロパティ（Property）] を選択します。CiscoJabberSetup.msi のプロパティのリストがアプリケーション ウィンドウの右側のパネルに表示されます。

CiscoJabberProperties.mst では、次のプロパティを適用します。

- DOMAIN
- LANGUAGE
- TFTP_FILE_NAME
- ADDRESS
- TYPE
- SSO_ORG_DOMAIN
- FORGOT_PASSWORD_URL

これらのプロパティは、コマンドラインの引数に対応し、同じ値が設定されています。 各プロパティと指定できる値の説明については、「コマンドライン引数」を参照してください。

ステップ 5 必要に応じてプロパティの値を指定するか、不要なプロパティを削除します。

ステップ 6 カスタム インストーラで埋め込みストリームを保存できるようにします。

a) [ツール（Tools）] > [オプション（Options）] を選択します。
b) [データベース（Database）] タブを選択します。
c) [[名前を付けて保存（Save As）] の選択時に埋め込みストリームをコピーする（Copy embedded streams during 'Save As'）] を選択します。
d) [適用（Apply）] を選択し、[OK] を選択します。

ステップ 7 カスタム インストーラを保存します。

a) [ファイル（File）] > [名前を付けて変換を保存（Save Transformed As）] を選択します。
b) ファイル システム上の場所を選択してインストーラを保存します。
c) インストーラの名前を指定してから、[保存（Save）] を選択します。

次の作業

ソフトウェア設定管理プログラムを使用して展開するためにカスタム インストーラを準備します。

関連トピック

コマンドライン引数, （61 ページ）
Microsoft Windows SDK for Windows 7 および .NET Framework 4

カスタム トランスフォーム ファイルの作成

カスタム トランスフォーム ファイルには、インストーラに適用できるプロパティおよび値が含まれます。 たとえば、インストール時に Cisco Jabber for Windows のデフォルト言語をフランス語に設定するトランスフォーム ファイルと、デフォルト言語をスペイン語に設定するもう 1 つのトランスフォーム ファイルを作成できます。 その後、各トランスフォーム ファイルを `CiscoJabberSetup.msi` に適用し、それぞれの言語にインストーラを 1 つずつ作成できます。

手順

ステップ 1 Microsoft Orca を起動します。

ステップ 2 `CiscoJabberSetup.msi` を開き、`CiscoJabberProperties.mst` を適用します。
詳細については、カスタム インストーラの使用を参照してください。

ステップ 3 該当するインストーラ プロパティに値を指定します。

ステップ 4 トランスフォーム ファイルを生成して保存します。

a) [トランスフォーム（Transform）] > [トランスフォームの生成（Generate Transform）] を選択します。
b) トランスフォーム ファイルを保存するファイル システムの場所を選択します。
c) トランスフォーム ファイルの名前を指定して [保存（Save）] を選択します。

作成したトランスフォーム ファイルは、*file_name*.mst として保存されます。 このトランスフォーム ファイルを適用して、CiscoJabberSetup.msi のプロパティを変更できます。

MSI の手動による実行

CiscoJabberSetup.msi を手動で実行して Cisco Jabber for Windows の単一インスタンスをインストールし、[接続設定（Connection Settings）] ダイアログボックスで接続設定を指定できます。

手順

ステップ 1 CiscoJabberSetup.msi を起動します。
インストール プログラムにより、インストール プロセスのウィンドウが開きます。

ステップ 2 手順に従ってインストール プロセスを完了します。

ステップ 3 Cisco Jabber for Windows を起動します。

ステップ 4 [ファイル（File）] > [接続設定の変更（Change connection settings）] を選択します。
[接続設定（Connection Settings）] ダイアログボックスが開きます。

ステップ 5 電話デバイスの基本接続設定を指定します。

プロパティ	説明
サーバ タイプ（Server type）	プレゼンス サーバのタイプを定義します。 次のオプションのいずれかを選択します。 Cisco WebEx Cisco WebEx Messenger をプレゼンス サーバとして指定します。 Cisco Unified Presence Cisco Unified Presence または Cisco Unified Communications IM and Presence をプレゼンス サーバとして指定します。

プロパティ	説明
ログイン サーバ（Login server）	Cisco Jabber for Windows でプレゼンス サーバを自動的に検索するかどうかを定義します。 次のオプションのいずれかを選択します。 デフォルト サーバを使用（Use the default server） Cisco Jabber for Windows でプレゼンス サーバを自動的に検索することを指定します。 次のファイル サーバを使用（Use the following File Server） プレゼンス サーバの接続プロパティを指定できるようにします。 プレゼンス サーバでドメイン ネーム システム サービス レコード（DNS SRV）がサポートされていない場合に、このオプションを選択します。 たとえば、Cisco Unified Presence 8.5.2 では DNS SRV をサポートしていません。
サーバ アドレス（Server address）	プレゼンス サーバを識別します。 このプロパティの値として次のいずれかを指定します。 **ホストネーム** 例：*hostname* **IP アドレス** 例：*123.45.254.1* **完全修飾ドメイン名** 例：*hostname.domain.com*
ドメイン（Domain）	プレゼンス サーバが実行されるドメイン名を識別します。このプロパティの値としてドメイン名を指定します（例：*domain.com*）。 プレゼンス サーバが、Cisco Jabber for Windows がインストールされているワークステーションのドメインと異なる場合に、このプロパティを指定する必要があります。

ステップ 6 [保存（Save）] を選択します。

グループ ポリシーを使用した導入

Microsoft Group Policy Management Console（GPMC）を使用して、グループ ポリシー付きで Cisco Jabber for Windows を Microsoft Windows Server にインストールします。

（注） グループ ポリシーを使用して Cisco Jabber for Windows をインストールするには、Cisco Jabber for Windows を導入する予定のすべてのコンピュータまたはユーザが同じドメインにある必要があります。

はじめる前に

インストール パッケージの言語コードを設定するには、次の手順を実行します。

1. Microsoft Orca を起動します。

   Microsoft Orca は、Microsoft Web サイトからダウンロードできる Microsoft Windows SDK for Windows 7 および .NET Framework 4 の一部として提供されます。

2. `CiscoJabberSetup.msi` を開きます。
   a. [ファイル（File）] > [開く（Open）] を選択します。
   b. ファイル システムで `CiscoJabberSetup.msi` の場所を参照します。
   c. `CiscoJabberSetup.msi` を選択し、[開く（Open）] を選択します。
3. [表示（View）] > [要約情報（Summary Information）] を選択します。
4. [言語（Language）] フィールドを見つけます。
5. インストール言語に対応するロケール ID を設定します。

   たとえば、インストールの言語として英語を指定するには、ロケール ID に 1033 を設定します。
6. [OK] を選択します。
7. インストール パッケージを保存します。

   インストール パッケージを保存するために [ファイル（File）] > [名前を付けて保存（Save As）] を選択した場合は、組み込みストリームを有効にする必要があります。
   1. [ツール（Tools）] > [オプション（Options）] を選択して [データベース（Database）] タブを選択します。
   2. [[名前を付けて保存（Save As）] の選択時に埋め込みストリームをコピーする（Copy embedded streams during 'Save As'）] を選択します。

3 [適用（Apply）] を選択し、[OK] を選択します。

手順

ステップ 1 導入のためのソフトウェア配布ポイントにインストール パッケージをコピーします。
Cisco Jabber for Windows を導入する予定のすべてのコンピュータまたはユーザは、分散ポイントのインストール パッケージにアクセスできる必要があります。

ステップ 2 [スタート（Start）]>[ファイル名を指定して実行（Run）] を選択し、次のコマンドを入力します。
`GPMC.msc`
[グループ ポリシー管理（Group Policy Management）] コンソールが開きます。

ステップ 3 新しいグループ ポリシー オブジェクトを作成します。

a) 左側のペインの適切なドメインを右クリックします。
b) [このドメインに GPO を作成してここにリンクする（Create a GPO in this Domain, and Link it here）] を選択します。
[新しい GPO（New GPO）] ウィンドウが開きます。
c) [名前（Name）] フィールドにグループ ポリシー オブジェクトの名前を入力します。
d) デフォルト値をそのままにするか、[発信元の開始 GPO（Source Starter GPO）] ドロップダウン リストから適切なオプションを選択し、次に [OK] を選択します。
新しいグループ ポリシーが、ドメインのグループ ポリシーのリストに表示されます。

ステップ 4 導入の範囲を設定します。

a) 左側のペインのドメインの下からグループ ポリシー オブジェクトを選択します。
グループ ポリシー オブジェクトが右側のペインに表示されます。
b) [スコープ（Scope）] タブの [セキュリティ フィルタリング（Security Filtering）] セクションで、[追加（Add）] を選択します。
[ユーザ、コンピュータ、またはグループの選択（Select User, Computer, or Group）] ウィンドウが開きます。
c) Cisco Jabber for Windows を導入するコンピュータとユーザを指定します。

ステップ 5 インストール パッケージを指定します。

a) 左側のペインのグループ ポリシー オブジェクトを右クリックして、[編集（Edit）] を選択します。
[グループ ポリシー管理エディタ（Group Policy Management Editor）] が開きます。
b) [コンピュータの設定（Computer Configuration）] を選択して、[ポリシー（Policies）]>[ソフトウェアの設定（Software Settings）] を選択します。
c) [ソフトウェアのインストール（Software Installation）] を右クリックして、[新規（New）]>[パッケージ（Package）] を選択します。
d) [ファイル名（File Name）] の横にインストール パッケージの場所を入力します（例：`\\server\software_distribution`）。

重要 インストール パッケージの場所として Uniform Naming Convention（UNC）パスを入力する必要があります。 UNC パスを入力しない場合、グループ ポリシーは Cisco Jabber for Windows を導入できません。

e) インストール パッケージを選択して、[開く（Open）] を選択します。
f) [ソフトウェアの導入（Deploy Software）] ダイアログボックスで、[割り当て済み（Assigned）] を選択し、[OK] を選択します。

各コンピュータの次回起動時に、グループ ポリシーによって Cisco Jabber for Windows がそれぞれのコンピュータにインストールされます。

Cisco Medianet のインストール

トラフィック マーキング用のインストール

Cisco Medianet では、Cisco Prime Collaboration Manager および Cisco Medianet 対応ルータと連動する Microsoft Windows サービスを提供し、Cisco Jabber for Windows がネットワークで遅延やパケット損失を最小限に抑えて音声メディアとビデオ メディアを送信できるようにします。

Cisco Jabber for Windows では、音声メディアまたはビデオ メディアを送信する前に、Cisco Medianet サービスをチェックします。 そのサービスがコンピュータ上に存在しない場合には、Cisco Jabber for Windows によってフロー情報が Cisco Medianet サービスに提供されます。 その後、サービスはネットワークに信号を送信するため、ルータがフローを分類して Cisco Jabber for Windows のトラフィックにプライオリティを設定できるようになります。 サービスが存在しない場合には、Cisco Jabber for Windows ではサービスを使用せずに、通常どおりに音声メディアとビデオ メディアを送信します。 ただし、Cisco Jabber for Windows では、音声コールまたはビデオ コールごとに Cisco Medianet サービスをチェックします。

デスクフォン ビデオ機能用のインストール

デスクフォン のビデオ機能を有効にするために、Cisco Medianet をインストールする必要があります。 Cisco Medianet が提供するドライバによって、Cisco Jabber for Windows での次の動作が可能になります。

- デスクフォン デバイスを検出する。
- CAST プロトコルを使用して、デスクフォン デバイスへの接続を確立し、維持する。

詳細については、デスクフォン ビデオの設定を参照してください。

はじめる前に

トラフィック マーキング用に Cisco Medianet をインストールするには、次の作業を行う必要があります。

- Cisco Prime Collaboration Manager をインストールします。
- 適切な場合には、Cisco Medianet に対して有効なルータまたはスイッチをインストールします。

- Cisco Medianet がアプリケーションに適用するメタデータ属性を処理するために、ネットワークを設定します。

  ネットワーク内のすべてのデバイスが Cisco Medianet をサポートする必要があるわけではないことに注意してください。 最初のホップは、Cisco Medianet からのメタデータ属性に基づいてトラフィックにプライオリティを設定する必要があります。 トラフィックがネットワークを通過するときに、他のすべてのデバイスは、トラフィックを異なる方法で処理するためにそれらのデバイスでポリシーを設定していない限り、そのトラフィックにプライオリティを設定する必要があります。 ネットワーク設定の詳細については、Medianet Knowledge Base Portal を参照してください。

重要

- Cisco Jabber for Windows では、Cisco Medianet バージョン 3.1 以降をサポートしています。
- Cisco Jabber for Windows では、Microsoft Windows Vista での Cisco Medianet をサポートしていません。

手順

ステップ 1 Cisco.com にある Cisco Jabber for Windows のダウンロード サイトから Cisco Media Services Interface のインストール プログラムをダウンロードします。

ステップ 2 Cisco Jabber for Windows をインストールする各コンピュータに Cisco Medianet サービスをインストールします。
サービスのインストールについては、該当する Cisco Medianet のマニュアルを参照してください。

Cisco Jabber for Windows のダウンロード サイト
Medianet Knowledge Base Portal

Cisco Jabber for Windows のアンインストール

コマンドラインまたは Microsoft Windows コントロール パネルを使用して、Cisco Jabber for Windows をアンインストールできます。 このトピックでは、コマンドラインを使用して Cisco Jabber for Windows をアンインストールする方法について説明します。

コマンドラインを使用して Cisco Jabber for Windows をアンインストールするには、MSI または製品コードを使用します。 MSI がファイル システムで使用できる場合、MSI を使用します。 ただし、MSI がファイル システムで使用できない場合には、製品コードを使用します。

手順

ステップ 1 コマンドライン ウィンドウを開きます。

ステップ 2 次のいずれかのコマンドを入力して Cisco Jabber for Windows をアンインストールします。

オプション	コマンド

MSIを使用したアンインストール	`msiexec.exe /x path_to_CiscoJabberSetup.msi`
	次に、MSI を使用して Cisco Jabber for Windows をアンインストールするためのコマンドの例を示します。
	`msiexec.exe /x C:\Windows\Installer\CiscoJabberSetup.msi /quiet`
	ここで、/quiet により、サイレント アンインストールが指定されます。

製品コードを使用したアンインストール	`msiexec.exe /x product_code`
	次に、製品コードを使用して Cisco Jabber for Windows をアンインストールするためのコマンドの例を示します。
	`msiexec.exe /x 45992224-D2DE-49BB-B085-6524845321C7 /quiet`
	ここで、/quiet により、サイレント アンインストールが指定されます。
	Cisco Jabber for Windows の製品コードを検索するには、次の手順を実行します。
	1 Microsoft Windows レジストリ エディタを開きます。
	2 レジストリ キー HKEY_CLASSES_ROOT\Installer\Products を見つけます。
	3 [編集（Edit）] > [検索（Find）] を選択します。
	4 [検索（Find）] ウィンドウの [検索（Find what）] テキスト ボックスに Cisco Jabber と入力し、[次を検索（Find Next）] を選択します。
	5 ProductIcon レジストリ キーを見つけます。
	製品コードは、`C:\Windows\Installer\{product_code}\ARPPRODUCTICON.exe` のように ProductIcon レジストリ キーの値データに示されます。
	（注） 製品コードは、Cisco Jabber for Windows の各バージョンによって変わります。

コマンドによって、Cisco Jabber for Windows がコンピュータから削除されます。

第 6 章

Cisco Jabber for Windows 設定の概要

Cisco Jabber for Windows は、TFTP サーバに常駐する XML ファイルから設定を取得します。 Cisco Jabber for Windows のカスタム設定を作成するタイミングを理解します。 作成できる設定ファイルの種類について学習します。

- Cisco Jabber for Windows の設定要件，77 ページ
- グローバル設定ファイル，79 ページ
- グループ設定ファイル，79 ページ
- 設定ファイルのキャッシュ，80 ページ
- 設定ファイルの要件，81 ページ

Cisco Jabber for Windows の設定要件

ほとんどの環境では、Cisco Jabber for Windows に設定は必要ありません。 デフォルト設定が環境に適していないか、カスタム設定が必要とされているに場合だけ、Cisco Jabber for Windows の設定ファイルを作成する必要があります。

デフォルト設定

ほとんどの環境で、Cisco Jabber for Windows はプレゼンス サーバに接続してディレクトリ照会を実行するための設定を必要としません。

オンプレミス導入で、Cisco Jabber for Windows は Cisco Unified Presence または Cisco Unified Communications IM and Presence を自動的に検出できるように、_cuplogin SRV レコードを使用します。 プレゼンス サーバ ドメイン上の DNS サーバの _cuplogin サービス名の DNS SRV レコードを追加する場合、Cisco Jabber for Windows は自動的にそのプレゼンス サーバに接続できます。

オンプレミス導入のディレクトリ統合では、Cisco Jabber for Windows は 拡張ディレクトリ統合 をデフォルトで使用します。 Active Directory ドメインに登録されているワークステーションに Cisco Jabber for Windows をインストールした場合、Cisco Jabber for Windows は自動的にディレクトリ サービスを検出し、ドメイン内のグローバル カタログに接続します。

クラウドベース導入では、Cisco WebEx Messenger は Cisco Jabber for Windows にプレゼンス機能と連絡先の解決を提供します。 Cisco Jabber for Windows のすべての設定は、Cisco WebEx Administration Tool を使用して実行します。 ただし、追加オプションを使用して Cisco Jabber for Windows をハイブリッド クラウドベース導入で設定できます。

カスタム設定

次の場合に Cisco Jabber for Windows を設定する必要があります。

- Active Directory ドメインに登録されているワークステーションに Cisco Jabber for Windows をインストールしない場合。
- EDI ではなく、Cisco Unified Communications Manager ユーザ データ サービス またはサポートされている別の LDAP ディレクトリに接続する場合。
- Cisco Jabber for Windows がディレクトリ サービスを正しく使用できるようにカスタム設定を指定する必要がある場合。 カスタム ディレクトリ設定には、次の内容が含まれます。
  - 属性のマッピング
  - 接続の設定
  - 連絡先写真の取得の設定
  - ディレクトリ検索の設定
  - ドメイン内フェデレーションの設定
- 次のようなカスタム コンテンツを使用して展開する場合。
  - ユーザが問題レポートを送信できるスクリプト
  - 自動アップデートを有効にするファイル
  - HTML コンテンツを表示するためのカスタム埋め込みタブ
  - ユーザが忘れてしまったパスワードをリセットまたは取得できる URL
- 次のようなカスタム ポリシー設定を使用して展開する場合。
  - 画面キャプチャの無効化
  - ファイル転送の無効化
  - ビデオ コールの無効化
- 展開で認証情報設定を指定する場合。

グローバル設定ファイル

グローバル設定ファイルは、すべての Cisco Jabber for Windows ユーザに適用されます。 Cisco Jabber for Windows は、ログイン シーケンスの間に TFTP サーバからグローバル設定ファイルをダウンロードします。

グローバル設定ファイル名

グローバル設定ファイルのデフォルト名は、`jabber-config.xml` です。 導入時に次のコマンドライン引数を使用すると、グローバル設定ファイルに一意の名前を指定することもできます。

TFTP_FILE_NAME

コマンドライン引数の詳細については、「*Cisco Jabber for Windows* のインストール」の章を参照してください。

グループ設定ファイル

グループ設定ファイルは、Cisco Jabber for Windows ユーザのサブセットに適用されます。 グループ設定ファイルは、グローバル設定ファイルよりも優先されます。

Cisco Jabber for Windows は、ユーザが電話アカウントに初めてサインインした後に、グループ設定ファイルを取得します。 Cisco Jabber for Windows は、その後、ユーザにサインアウトするよう指示します。 2 回目のログイン シーケンスの間、Cisco Jabber for Windows は TFTP サーバからグループ設定ファイルをダウンロードします。

Cisco Jabber for Windows は、グループ設定ファイルを次の手順で読み込みます。

ユーザがサインインしていない場合

1. ユーザがサインインすると、Cisco Jabber for Windows は設定が変更されたことをユーザに通知します。
2. ユーザがサインアウトします。
3. ユーザがサインインすると、Cisco Jabber for Windows はグループ設定を読み込みます。

ユーザがサインインしており、ソフトフォン でコールしている場合

1. Cisco Jabber for Windows が、設定が変更されたことをユーザに通知します。
2. ユーザがサインアウトします。
3. ユーザがサインインすると、Cisco Jabber for Windows はグループ設定を読み込みます。

ユーザがサインインしており、デスクフォン でコールしている場合

1. ユーザがサインアウトします。
2. ユーザがサインインすると、Cisco Jabber for Windows は設定が変更されたことをユーザに通知します。
3. ユーザがサインアウトします。
4. ユーザがサインインすると、Cisco Jabber for Windows はグループ設定を読み込みます。

ユーザがサインアウトする前に、ソフトフォンを使用してコールするオプションを選択した場合、Cisco Jabber for Windows はユーザにサインアウトしてからサインインし直すよう指示し、グループ設定を読み込みます。

グループ設定ファイル名

グループ設定ファイルの名前は、Cisco Unified Communications Manager の CSF デバイス設定で指定します。 そのため、Cisco Unified Communications Manager にユーザの CSF デバイスをプロビジョニングした場合のみ、そのユーザのグループ設定ファイルを指定できます。

Cisco Unified Communications Manager の CSF デバイス設定のグループ設定ファイルの名前を削除すると、Cisco Jabber for Windows が変更を検出し、ユーザにサインアウトするよう指示し、グローバル設定ファイルを読み込みます。 CSF デバイス設定のグループ設定ファイル名を削除するには、`configurationFile=group_configuration_file_name.xml` 文字列全体を削除するか、文字列からグループ設定ファイル名を削除します。

設定ファイルのキャッシュ

Cisco Jabber for Windows では、ログイン シーケンスの際に、常に TFTP サーバから設定ファイルをダウンロードしようと試行します。 Cisco Jabber for Windows が設定ファイルをダウンロードできない場合は、以前に読み込まれた設定ファイルをキャッシュから読み込みます。

Cisco Jabber for Windows は、`jabber-config.xml` というファイルに、グループ設定ファイルとグローバル設定ファイルのコンテンツをキャッシュしています。 そのため、グループ設定ファイルを作成すると、そのファイルのコンテンツが、キャッシュ内のグローバル設定ファイルを置換します。

重要 グループ設定ファイルはキャッシュ内のグローバル設定ファイルを置換するため、グループ設定ファイルにグローバル設定と同じパラメータが含まれていない場合は、設定が失われることがあります。 たとえば、カスタム埋め込みタブ定義を含むグローバル設定ファイルを作成するとします。 その後、これらの埋め込みタブ定義を含まないグローバル設定ファイルを作成するとします。 Cisco Jabber for Windows がグループ設定ファイルをダウンロードすると、これらのカスタム埋め込みタブ定義は Cisco Jabber for Windows が読み込んだ設定には存在しなくなります。

Cisco Jabber for Windows は、次の場所に設定ファイルをキャッシュします。

Microsoft Windows 7

```
%USERPROFILE%\AppData\Roaming\Cisco\Unified
Communications\Jabber\CSF\Config
```

Microsoft Windows XP

```
%SYSTEMROOT%\Documents and Settings\user_name\Application
Data\Cisco\Unified Communications\Jabber\CSF\Config
```

設定ファイルの要件

- 設定ファイル名は、大文字と小文字を区別します。 エラーを回避し、Cisco Jabber for Windows が TFTP サーバからファイルを取得できるよう、ファイル名には小文字を使用してください。
- 設定ファイルには、utf-8 エンコーディングを使用する必要があります。
- Cisco Jabber for Windows は、有効な XML 構造のない設定ファイルは読み込めません。 設定ファイルの構造で終了要素をチェックし、要素が正しく入れ子になっていることを確認します。 詳細については、この章の設定ファイルの例をご覧ください。
- XML には、有効な XML 文字エンティティ参照しか含めることができません。 たとえば、`&` ではなく `&` を使用してください。 XML に無効な文字が含まれている場合は、Cisco Jabber for Windows は設定ファイルを解析できません。
  Microsoft Internet Explorer で設定ファイルを開き、無効な文字やエンティティがないことを確認します。 Internet Explorer に XML 構造の全体が表示される場合は、設定ファイルには無効な文字やエンティティは含まれていません。 Internet Explorer に XML 構造の一部しか表示されない場合は、設定ファイルには無効な文字やエンティティが含まれている可能性があります。

第 7 章

オンプレミス導入の設定

オンプレミス導入での Cisco Jabber for Windows の設定方法について説明します。 設定できる設定パラメータを確認します。

- Cisco Jabber for Windows の設定，83 ページ
- 設定ファイルの構造，88 ページ
- クライアント パラメータ，90 ページ
- ディレクトリ パラメータ，91 ページ
- オプション パラメータ，116 ページ
- プレゼンス パラメータ，117 ページ
- ポリシー パラメータ，119 ページ
- 認証情報の設定，122 ページ
- 自動更新の設定，124 ページ
- 問題レポートの設定，125 ページ
- カスタム埋め込みタブ，126 ページ
- 設定ファイルの例，132 ページ
- ディレクトリ サービスの設定例，133 ページ
- ダイヤル プランのマッピング，138 ページ

Cisco Jabber for Windows の設定

オンプレミス導入で Cisco Jabber for Windows のカスタム設定を作成するには、次の作業を行います。

手順

ステップ 1 TFTP サーバを準備します。
ステップ 2 グローバル設定ファイルを作成します。
ステップ 3 TFTP サーバにグローバル設定ファイルをアップロードします。
ステップ 4 （任意） グループ設定ファイルを作成し、TFTP サーバにアップロードします。
ステップ 5 TFTP サーバを再起動します。

TFTP サーバの準備

TFTP サーバを指定するには、次の手順を実行します。

重要 複数の TFTP サーバがある環境の場合、すべての TFTP サーバで設定ファイルを同じにする必要があります。

手順

ステップ 1 次のように適切なインターフェイスを開きます。

- Cisco Unified Presence：[Cisco Unified Presence の管理（Cisco Unified Presence Administration）] インターフェイスを開きます。
- Cisco Unified Communications IM and Presence：[Cisco Unified CM IM/Presence の管理（Cisco Unified CM IM and Presence Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 次のように適切なメニュー項目を選択します。

- Cisco Unified Presence：[アプリケーション（Application）] > [Cisco Jabber] > [設定（Settings）] を選択します。
  Cisco Unified Presence の一部バージョンでは、このパスが [アプリケーション（Application）] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [設定（Settings）] となります。
- Cisco Unified Communications IM and Presence：[アプリケーション（Application）] > [レガシークライアント（Legacy Clients）] > [設定（Settings）] を選択します。

ステップ 3 [プライマリ TFTP サーバ（Primary TFTP Server）] フィールドでプライマリ TFTP サーバの IP アドレスを指定します。
TFTP サーバを指定するフィールドは、プレゼンテーション サーバに応じて次のいずれかのセクションにあります。

- Cisco Jabber セキュリティ設定（Cisco Jabber Security Settings）
- CUPC グローバル設定（CUPC Global Settings）
- レガシー クライアントのセキュリティ設定（Legacy Client Security Settings）

ステップ 4 [バックアップ TFTP サーバ（Backup TFTP Server）] フィールドでバックアップ TFTP サーバの IP アドレスを指定します。

ステップ 5 [保存（Save）] を選択します。

これで、Cisco Jabber for Windows によって TFTP サーバ上でホストされている設定ファイルが取得されるようになります。

グローバル設定の作成

このトピックでは、グローバル設定ファイルを作成するための手順の概要と TFTP サーバ上でファイルをホストする方法について説明します。

手順

ステップ 1 任意のテキスト エディタを使用して `jabber-config.xml` という名前のファイルを作成します。

メモ
- ファイル名には小文字を使用してください。
- UTF-8 エンコードを使用してください。

ステップ 2 `jabber-config.xml` で必須の設定パラメータを定義します。

重要 設定ファイルの構造が有効でない場合、Cisco Jabber for Windows は定義した設定を読み取ることができません。設定ファイルで必要な構造の例については、この章の XML の例を参照してください。

ステップ 3 TFTP サーバ上で `jabber-config.xml` をホストします。

a) Cisco Unified Communications Manager の [Cisco Unified OS の管理（Cisco Unified OS Administration）] インターフェイスを開きます。
b) [ソフトウェアのアップグレード（Software Upgrades）] > [TFTP ファイル管理（TFTP File Management）] を選択します。
c) [ファイルのアップロード（Upload File）] を選択します。
d) [ファイルのアップロード（Upload File）] セクションで [参照（Browse）] を選択します。
e) ファイル システムにある `jabber-config.xml` を選択します。
f) [ファイルのアップロード（Upload File）] セクションの [ディレクトリ（Directory）] テキスト ボックスに値を指定しないでください。
TFTP サーバのデフォルト ディレクトリにある `jabber-config.xml` をホストするには、[ディレクトリ（Directory）] テキスト ボックスの値をそのままにします。

デフォルトディレクトリ以外のディレクトリにある `jabber-config.xml` をホストする場合は、展開時にパスとファイル名をコマンドラインの引数（TFTP_FILE_NAME）の値として指定する必要があります。 詳細については、「*Cisco Jabber for Windows* のインストール」の章を参照してください。

g) [ファイルのアップロード（Upload File）] を選択します。

グループ設定の作成

Cisco Jabber for Windows では、Cisco Unified Communications Manager の CSF デバイス構成からグループ設定ファイルの名前を取得します。

制約事項 ユーザ用に CSF デバイスを設定しない場合、グループ設定をそれらのユーザに適用することはできません。

はじめる前に

Cisco Unified Communications Manager バージョン 8.6.x 以降で次の手順を実行する必要があります。

1. Cisco.com から Cisco Jabber for Windows 管理パッケージをダウンロードします。
2. `ciscocm.addcsfsupportfield.cop` を Cisco Jabber for Windows 管理パッケージからファイル システムにコピーします。
3. Cisco Unified Communications Manager に `ciscocm.addcsfsupportfield.cop` を展開します。

   COP ファイルを展開する手順については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

[シスコ サポート フィールド（Cisco Support Field）] フィールドは、Cisco Unified Communications Manager の [電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウにある [デスクトップ クライアントの設定（Desktop Client Settings）] セクションの CSF デバイスに使用できます。

手順

ステップ 1 任意のテキスト エディタを使用して XML グループ設定ファイルを作成します。
グループ設定ファイルには、適切な名前を指定できます（例：`jabber-groupa-config.xml`）。

メモ
- ファイル名には小文字を使用してください。
- UTF-8 エンコードを使用してください。

ステップ 2 グループ設定ファイルで必須の設定パラメータを定義します。

重要 設定ファイルの構造が有効でない場合、Cisco Jabber for Windows は定義した設定を読み取ることができません。設定ファイルで必要な構造の例については、この章の XML の例を参照してください。

ステップ 3 TFTP サーバ上でグループ設定ファイルをホストします。

a) Cisco Unified Communications Manager の [Cisco Unified OS の管理（Cisco Unified OS Administration）] インターフェイスを開きます。
b) [ソフトウェアのアップグレード（Software Upgrades）] > [TFTP ファイル管理（TFTP File Management）] を選択します。
c) [ファイルのアップロード（Upload File）] を選択します。
d) [ファイルのアップロード（Upload File）] セクションで [参照（Browse）] を選択します。
e) ファイル システムにあるグループ設定ファイルを選択します。
f) [ファイルのアップロード（Upload File）] セクションの [ディレクトリ（Directory）] テキストボックスに値を指定しないでください。
[ディレクトリ（Directory）]テキストボックスに値を指定する場合には、その値をメモしておきます。 Cisco Unified Communications Manager の CSF デバイス構成でグループ設定ファイルを指定する際は、パスとファイル名を指定する必要があります。
g) [ファイルのアップロード（Upload File）] を選択します。

ステップ 4 [シスコ サポート フィールド（Cisco Support Field）] フィールドにグループ設定ファイルの名前を指定します。

ワンポイント アドバイス 複数のユーザに対して一括管理ツールを使用します。

a) [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。
b) [デバイス（Device）] > [電話（Phone）] の順に選択します。
c) グループ設定ファイルを適用する適切な CSF デバイスを検索して選択します。
d) [電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウの [プロダクト固有の設定（Product Specific Configuration Layout）] セクションを見つけます。
e) [デスクトップ クライアントの設定（Desktop Client Settings）] セクションを見つけます。
f) [シスコ サポート フィールド（Cisco Support Field）] フィールドに `configurationfile=group_configuration_file_name.xml` を入力します（例：`configurationfile=jabber-groupa-config.xml`）。

（注） [シスコ サポート フィールド（Cisco Support Field）] フィールドで複数のエントリを区切るには、セミコロンを使用します。 ただし、複数のグループ設定ファイルを指定しないでください。 複数のグループ設定ファイルを指定した場合、Cisco Jabber for Windows では利用可能な最初のグループ設定を使用します。

TFTP サーバ上でデフォルト ディレクトリ以外の場所にあるグループ設定ファイルをホストする場合には、[シスコ サポート フィールド（Cisco Support Field）] フィールドにパスとファイル名を指定する必要があります（例：`configurationfile=/customFolder/jabber-groupa-config.xml`）。

g) [保存（Save）] を選択します。

TFTP サーバの再起動

Cisco Jabber for Windows が設定ファイルにアクセスする前に、TFTP サーバを再起動する必要があります。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の [Cisco Unified サービスアビリティ（Cisco Unified Serviceability）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ツール（Tools）] > [コントロールセンタの機能サービス（Control Center - Feature Services）] を選択します。

ステップ 3 [CM サービス（CM Services）] セクションから [Cisco Tftp] を選択します。

ステップ 4 [リスタート（Restart）] を選択します。
再起動の確認を求めるウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [OK] を選択します。
「Cisco Tftp サービスの再起動操作が成功しました（Cisco Tftp Service Restart Operation was Successful）」というステータスが表示されます。

ステップ 6 [更新（Refresh）] を選択し、Cisco Tftp サービスが正常に起動していることを確認します。

次の作業

設定ファイルが TFTP サーバで使用できることを確認するには、任意のブラウザで設定ファイルを開きます。 通常、`http://tftp_server_address:6970/jabber-config.xml` の URL にあるグローバル設定ファイルにアクセスできます。

設定ファイルの構造

XML 構造

次の XML スニペットは、設定ファイルの基本構造を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<config version="1.0">
 <Client>
  <parameter_name>value</parameter_name>
 </Client>
 <Directory>
  <parameter_name>value</parameter_name>
 </Directory>
 <Options>
  <parameter_name>value</parameter_name>
 </Options>
 <Presence>
  <parameter_name>value</parameter_name>
 </Presence>
 <Policies>
  <parameter_name>value</parameter_name>
```

```
 </Policies>
</config>
```

次の表では、設定ファイルの基本構造の要素について説明します。

要素	説明
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>	XML 宣言。 設定ファイルは、標準的な XML 形式に準拠する必要があります。
config	使用可能な設定グループを含む、設定 XML のルート要素。 ルート要素には、バージョン属性も含める必要があります。
Client	Cisco Jabber for Windows の設定パラメータを含む親要素。 詳細については、クライアント パラメータを参照してください。
Directory	ディレクトリ統合の設定パラメータを含む親要素。 詳細については、ディレクトリ パラメータを参照してください。
Options	ユーザ オプションの設定パラメータを含む親要素。 詳細については、オプション パラメータを参照してください。
Presence	プレゼンス オプションの設定パラメータを含む親要素。 詳細については、プレゼンス パラメータを参照してください。
Policies	ポリシーの設定パラメータを含む親要素。 詳細については、ポリシー パラメータを参照してください。

設定ファイルの例

次に、オンプレミス導入における Cisco Jabber for Windows の設定ファイルの例を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<config version="1.0">
 <Client>
  <UpdateUrl>http://server_name.cisco.com/update.xml</UpdateUrl>
 </Client>
 <Directory>
  <DirectoryServerType>UDS</DirectoryServerType>
 </Directory>
 <Options>
  <Set_Status_Away_On_Inactive>true</Set_Status_Away_On_Inactive>
  <Set_Status_Inactive_Timeout>15</Set_Status_Inactive_Timeout>
  <Set_Status_Away_On_Lock_OS>true</Set_Status_Away_On_Lock_OS>
```

```
 </Options>
 <Presence>
  <LoginResource>wbxconnect</LoginResource>
 </Presence>
 <Policies>
  <Screen_Capture_Enabled>false</Screen_Capture_Enabled>
  <File_Transfer_Enabled>false</File_Transfer_Enabled>
  <Disallowed_File_Transfer_Types>.exe;.msi;.rar;.zip;.mp3</Disallowed_File_Transfer_Types>

  <Video_Disabled>false</Video_Disabled>
 </Policies>
</config>
```

前の設定ファイルの例では、Cisco Jabber for Windows および 拡張ディレクトリ統合 の更新ファイルのURL、またはサポートされる他のLDAPディレクトリを、ディレクトリ サーバとして指定します。

クライアント パラメータ

次の表に、Client要素内で指定できるパラメータを示します。

パラメータ	値	説明
PrtLogServerUrl	URL	問題レポートを送信するためのカスタム スクリプトを指定します。 問題レポートの詳細については、「問題レポートの設定」を参照してください。
UpdateUrl	URL	HTTPサーバ上の自動更新XML定義ファイルへのURLを指定します。 Cisco Jabber for Windows では、このURL を使用して HTTP サーバ から更新 XML ファイルを取得します。 自動更新の詳細については、「自動更新の設定」を参照してください。
jabber-plugin-config	プラグイン定義	プラグイン設定要素が含まれます。 カスタム埋め込みタブを定義し、Cisco Jabber for Windows の HTML コンテンツを表示できます。 詳細については、カスタム埋め込みタブを参照してください。
Forgot_Password_URL	URL	パスワードを忘れた場合に、パスワードをリセットまたは取得するためのWebページのURLを指定します。

クライアント設定例

次に、オンプレミス導入でのクライアント設定例を示します。

```
<Client>
 <PrtLogServer>http://server_name.cisco.com/jabber/prt/my_script.php</PrtLogServer>
```

```
 <UpdateUrl>http://server_name.cisco.com/jabber/updates/my_update.xml</UpdateUrl>
</Client>
```

ディレクトリ パラメータ

次の表に、Directory要素内で指定できるパラメータを示します。

パラメータ	値	説明
DirectoryServerType	EDI UDS	使用するディレクトリ統合の種類を指定します。 **UDS** ディレクトリ統合にCisco Unified Communications Manager ユーザ データ サービスを使用します。 **EDI** 次のいずれかです。 • Microsoft Active Directoryに接続します。 • 設定ファイルで指定した追加の接続パラメータを使用して、サポートされるLDAPディレクトリ サービスに接続します。 EDIがデフォルト値です。 ディレクトリ統合およびサポートされるディレクトリ サービスの詳細については、ディレクトリ統合を参照してください。

ディレクトリ設定の例

次に、Cisco Jabber for Windows が Active Directory または別の LDAP ディレクトリ サービスに接続するディレクトリ設定の例を示します。

```
<Directory>
 <DirectoryServerType>EDI</DirectoryServerType>
</Directory>
```

次に、Cisco Jabber for Windows が Cisco Unified Communications Manager ユーザ データ サービス に接続するディレクトリ設定の例を示します。

```
<Directory>
 <DirectoryServerType>UDS</DirectoryServerType>
</Directory>
```

関連トピック

ディレクトリ統合, （43 ページ）

ディレクトリ統合

Cisco Jabber for Windows のオンプレミス導入には、ディレクトリ統合が必要です。 Cisco Jabber for Windows には、2 種類のディレクトリ統合が提供されています。

- 拡張ディレクトリ統合（EDI）
- Cisco Unified Communications Manager ユーザ データ サービス（UDS）

関連トピック

ディレクトリ パラメータ, （91 ページ）

EDI ディレクトリ統合

EDI は、ネイティブの Microsoft Windows API を使用し、Microsoft Active Directory から連絡先データを取得します。

EDI のための Cisco Jabber for Windows の設定

デフォルトでは、EDI に接続するために設定ファイルを作成する必要はありません。 Active Directory ドメインに登録されているワークステーションに Cisco Jabber for Windows をインストールした場合、Cisco Jabber for Windows は自動的にディレクトリ サービスを検出し、ドメイン内のグローバル カタログに接続します。 ただし、次の手順に従い、Cisco Jabber for Windows 設定ファイルにカスタム設定を指定することもできます。

- 属性のマッピング

  属性マッピングのパラメータを参照してください。

- 接続の設定

  ディレクトリ接続パラメータを参照してください。

- クエリー設定

  ディレクトリ クエリー パラメータを参照してください。

- 連絡先の写真の解像度

  連絡先の写真のパラメータを参照してください。

- ドメイン フェデレーション

ドメイン フェデレーション パラメータを参照してください。

ディレクトリからの属性の取得

Cisco Jabber for Windows がディレクトリから属性を取得できることを確認する必要があります。

グローバル カタログ

デフォルトでは、Cisco Jabber for Windows は グローバル カタログ サーバに接続します。 デフォルト設定を使用する場合は、すべての属性が グローバル カタログ サーバに常駐することを確認する必要があります。

Microsoft Active Directory Schema スナップインなどの適切なツールを使用すると、属性を グローバル カタログ サーバに複製できます。

（注） グローバル カタログ サーバに属性を複製すると、ドメイン内の Active Directory サーバ間にトラフィックが発生します。

Active Directory Schema スナップインを使用し、グローバル カタログ サーバに属性を複製する方法については、適切な Microsoft ドキュメントを参照してください。

ドメイン コントローラ

次の場合は、Cisco Jabber for Windows を設定し、ドメイン コントローラ に接続できます。

- グローバル カタログ サーバに接続したくない。
- グローバル カタログ サーバに属性を複製したくない。

（注） ドメイン コントローラ に接続するよう Cisco Jabber for Windows を設定した場合は、Cisco Jabber for Windows は 1 つのドメインにのみクエリーを送信します。

ドメイン コントローラ に接続するよう Cisco Jabber for Windows を設定するには、ConnectionType パラメータの値として「1」を指定します。 詳細については、ディレクトリ接続パラメータを参照してください。

属性のインデックス化

ディレクトリの連絡先の解像度に使用する属性は、必ずインデックス化してください。

デフォルトの属性マッピングを使用する場合は、次の属性がインデックス化されていることを確認します。

- sAMAccountName
- telephoneNumber

さらに、セカンダリ番号クエリーについては、次の属性もインデックス化する必要があります。

- otherTelephone
- mobile
- homePhone

（注） セカンダリ番号クエリーは Cisco Jabber for Windows ではデフォルトで有効になっています。 セカンダリ番号クエリーは、DisableSecondaryNumberLookups パラメータで無効にすることができます。

- msRTCSIP-PrimaryUserAddress

  ドメイン内フェデレーションのみ、msRTCSIP-PrimaryUserAddress をインデックス化する必要があります。

UDS ディレクトリ統合

UDS は、連絡先の解決を提供する Cisco Unified Communications Manager 上のインターフェイスです。 Microsoft Active Directory または別の LDAP ディレクトリ ソースから連絡先データを Cisco Unified Communications Manager に同期させます。その後、 Cisco Jabber for Windows では、UDS インターフェイスを使用して Cisco Unified Communications Manager から連絡先データを直接取得します。

UDS との統合の有効化

UDS との統合を有効にするには、次の手順を実行します。

1. Cisco Unified Communications Manager でディレクトリ ソースを作成します。
2. 連絡先データを Cisco Unified Communications Manager に同期させます。
3. Cisco Jabber for Windows 設定ファイルの DirectoryServerType パラメータの値として UDS を指定します。

同期の実行後、連絡先データが Cisco Unified Communications Manager に格納されます。その後、Cisco Jabber for Windows は自動的に UDS に接続し、すべての連絡先の解決を実行します。 UDS を使用するために他のサーバ設定タスクを実行する必要はありません。

連絡先の写真の取得

UDS と統合する場合に連絡先写真を取得するには、Cisco Jabber for Windows を設定する必要があります。 詳細については、*UDS* による連絡先写真の取得を参照してください。

複数のクラスタでの連絡先の解決

複数の Cisco Unified Communications Manager クラスタでの連絡先の解決では、社内ディレクトリのすべてのユーザを各 Cisco Unified Communications Manager クラスタに同期させます。 その後、適切な Cisco Unified Communications Manager クラスタにこれらのユーザのサブセットをプロビジョニングします。

たとえば、組織のユーザが 40,000 人とします。 20,000 人のユーザが北米にいます。 20,000 人のユーザがヨーロッパにいます。 組織の各場所に次の Cisco Unified Communications Manager クラスタがあります。

- cucm-cluster-na（北米）
- cucm-cluster-eu（ヨーロッパ）

この例では、40,000 人のすべてのユーザを両方のクラスタに同期させます。 その後、北米の 20,000 人のユーザを cucu-cluster-na にヨーロッパの 20,000 人のユーザを cucm-cluster-eu にプロビジョニングします。

ヨーロッパのユーザが北米のユーザにコールすると、Cisco Jabber for Windows が cucu-cluster-na からヨーロッパのユーザの連絡先詳細を取得します。

北米のユーザがヨーロッパのユーザにコールすると、Cisco Jabber for Windows が cucu-cluster-eu から北米のユーザの連絡先詳細を取得します。

サポートされる LDAP ディレクトリ サービス

Cisco Jabber for Windows では、次のディレクトリ サービスをサポートしています。

- Microsoft Active Directory 2003
- Microsoft Active Directory 2008
- OpenLDAP
- Active Directory ライトウェイト ディレクトリ サービス（AD LDS）または Active Directory Application Mode; Active Directory アプリケーション モード（ADAM）

このリリースで、Cisco Jabber for Windows は OpenLDAP および Active Directory ライトウェイト ディレクトリ サービス（AD LDS）または Active Directory Application Mode; Active Directory アプリケーション モード（ADAM）を使用した次のような特定の統合シナリオをサポートします。

- 匿名バインドまたは認証済みバインドを使用する OpenLDAP の統合。
- 匿名バインド、Microsoft Windows プリンシパル ユーザとの認証、または AD LDS プリンシパル ユーザとの認証を使用する AD LDS または ADAM の統合。

サポートされている統合シナリオについては、ディレクトリ サービスの設定例セクションの設定例を参照してください。

Cisco Jabber for Windows を設定する前に、ディレクトリ サービスの実装を検討し、スキーマの特性を決定します。 ディレクトリ サービスに接続するための要件を確認した後、次のように設定ファイルで指定できる設定を確認します。

- 属性のマッピング

  属性マッピングのパラメータを参照してください。

- 接続の設定

  ディレクトリ接続パラメータを参照してください。

- クエリー設定

  ディレクトリ クエリー パラメータを参照してください。

- 連絡先の写真の解像度

  連絡先の写真のパラメータを参照してください。

- ドメイン フェデレーション

  ドメイン フェデレーション パラメータを参照してください。

ドメイン ネーム システムの設定

Cisco Jabber for Windows が組織全体のディレクトリ検索を実行するためには、クライアント アプリケーションが組織のすべてのユーザの情報にアクセスできるディレクトリ サービスに接続する必要があります。 ほとんどの展開シナリオでは、Cisco Jabber for Windows によってユーザのワークステーションのUSERDNSDOMAIN環境変数からドメイン名が取得されます。USERDNSDOMAIN の値により、Cisco Jabber for Windows はドメイン内のグローバル カタログまたは LDAP サービスを検索します。

（注） デフォルトでは、Cisco Jabber for Windows はグローバル カタログを検索します。 LDAP サービスを検索するように Cisco Jabber for Windows を設定する必要があります。

場合によっては、USERDNSDOMAIN 環境変数の値は、フォレスト全体のドメイン名に対応する DNS ドメイン名に解決されません。 たとえば、この設定は、組織がサブドメインまたはリソースドメインを使用する場合に発生します。 このような設定では、USERDNSDOMAIN 環境変数は、親ドメインではなく子ドメインに解決されます。 このタイプの設定が発生すると、Cisco Jabber for Windows は組織のすべてのユーザの情報にアクセスできません。

USERDNSDOMAIN 環境変数が子ドメインに解決される場合、次のいずれかの設定オプションを使用して、Cisco Jabber for Windows が親ドメインのサービスに接続できるようにします。

- 親ドメインの FQDN を使用するように Cisco Jabber for Windows を設定します。

  この設定を実行するには、PrimaryServerName パラメータの値として親ドメインの FQDN を指定します。 詳細については、「ディレクトリ接続パラメータ」のトピックを参照してください。

- Cisco Jabber for Windows によるグローバル カタログまたはLDAP サービスの要求時に組織のすべてのユーザにアクセスできるサーバに Cisco Jabber for Windows を転送するように、DNS サーバを設定します。

- グローバルカタログまたはLDAPサービスが組織のすべてのユーザにアクセスできることを確認します。

DNS サーバの設定に関する詳細については、次の Microsoft のマニュアルを参照してください。

- *Configuring DNS for the Forest Root Domain*
- *Assigning the Forest Root Domain Name*
- *Deploying a GlobalNames Zone*
- サポート：*Microsoft* サーバ製品における「*DNS* 名前空間計画」

関連トピック

Configuring DNS for the Forest Root Domain
Assigning the Forest Root Domain Name
Deploying a GlobalNames Zone
サポート：Microsoft サーバ製品における「DNS 名前空間計画」

属性マッピングのパラメータ

Cisco Jabber for Windows のデフォルト属性マッピングを変更できます。 たとえば、デフォルトでは、Cisco Jabber for Windows は BusinessPhone パラメータをディレクトリの telephoneNumber 属性にマッピングします。 マッピングを行った結果、Cisco Jabber for Windows は、特定ユーザの telephoneNumber 属性の値をディレクトリから取得します。その後 Cisco Jabber for Windows は、ユーザ プロファイルの職場の電話番号として、この値を表示します。 職場の電話番号に対し、telephoneNumber以外の属性が使用されている組織では、設定ファイルのマッピングを変更する必要があります。

次の表に、ディレクトリ属性をマッピングするためのパラメータを説明します。

パラメータ	デフォルト値
CommonName	cn
DisplayName	displayName
Firstname	givenName
Lastname	sn
EmailAddress	mail
SipUri	msRTCSIP-PrimaryUserAddress
PhotoSource	thumbnailPhoto
BusinessPhone	telephoneNumber
MobilePhone	mobile
HomePhone	homePhone
OtherPhone	otherTelephone

パラメータ	デフォルト値
Title	title
CompanyName	company
UserAccountName	sAMAccountName
DomainName	userPrincipalName
Location	co
Nickname	nickname
PostalCode	postalCode
City	l
State	st
StreetAddress	StreetAddress

ディレクトリ接続パラメータ

次の表に、ディレクトリ接続を設定するためのパラメータを示します。

パラメータ	値	説明
ConnectionType	0 1	Cisco Jabber for Windows がグローバル カタログ サーバまたはドメイン コントローラに接続するかどうかを指定します。 **0** グローバル カタログ サーバに接続します。 これがデフォルト値です。 **1** ドメイン コントローラ サーバに接続します。
PrimaryServerName	完全修飾ドメイン名 IP アドレス	ディレクトリ接続用にプライマリ サーバ接続の完全修飾ドメイン名または IP アドレスを指定します。 Cisco Jabber for Windows でプライマリ サーバが自動的に検出されない場合に、このパラメータを指定する必要があります。

パラメータ	値	説明
SecondaryServerName	完全修飾ドメイン名 IP アドレス	ディレクトリ接続用にバックアップ サーバ接続の完全修飾ドメイン名または IP アドレスを指定します。 Cisco Jabber for Windows でバックアップ サーバが自動的に検出されない場合に、このパラメータを指定する必要があります。
ServerPort1	ポート番号	プライマリ サーバ ポートを指定します。 Cisco Jabber for Windows でプライマリ サーバが自動的に検出されない場合に、このパラメータを指定する必要があります。
ServerPort2	ポート番号	バックアップ サーバ ポートを指定します。 Cisco Jabber for Windows でバックアップ サーバが自動的に検出されない場合に、このパラメータを指定する必要があります。
UseWindowsCredentials	0 1	Cisco Jabber for Windows で Microsoft Windows のユーザ名とパスワードを使用するかどうかを指定します。 **0** 指定した認証情報を ConnectionUsername と ConnectionPassword の各パラメータの値として使用します。 **1** Microsoft Windows 認証情報を使用します。 これがデフォルト値です。

パラメータ	値	説明
ConnectionUsername	ユーザ名	Windows認証情報を使用しない場合、ディレクトリに接続するためのユーザ名を指定します。 **重要** Cisco Jabber for Windows では、設定ファイルで指定した認証情報を暗号化せず、その認証情報をプレーンテキストでログファイルに書き込みます。 設定ファイルで認証情報を指定した場合、Cisco Jabber for Windows のすべてのユーザが使用できる読み取り専用の共有ディレクトリを使用します。
ConnectionPassword	パスワード	Windows認証情報を使用しない場合、ディレクトリに接続するためのユーザ名に対応するパスワードを指定します。 **重要** Cisco Jabber for Windows では、設定ファイルで指定した認証情報を暗号化せず、その認証情報をプレーンテキストでログファイルに書き込みます。 設定ファイルで認証情報を指定した場合、Cisco Jabber for Windows のすべてのユーザが使用できる読み取り専用の共有ディレクトリを使用します。
UseSSL	0 1	Cisco Jabber for Windows でディレクトリへのセキュア接続にSSLを使用するかどうかを指定します。 **0** SSL をディセーブルにします。 これがデフォルト値です。 **1** SSL をイネーブルにします。

パラメータ	値	説明
UseSecureConnection	0 1	Cisco Jabber for Windows でディレクトリ サービスへの接続に単純な認証を使用するかどうかを指定します。 **0** 単純な認証を使用します。 これがデフォルト値です。 **1** 単純な認証を使用しません。

接続の設定

Cisco Jabber for Windows では、組織のビジネス ニーズをサポートするため、ディレクトリ接続設定を定義できます。 ディレクトリ サービスの接続を定義、認証をカスタマイズ、SSL を使用、グローバル カタログの代わりにドメイン コントローラに接続するなどできます。

カスタム接続設定を定義できる Cisco Jabber for Windows パラメータのリストについては、「ディレクトリ接続パラメータ」を参照してください。

サーバ接続の指定

ディレクトリで自動検出がサポートされていない場合は、設定ファイルにプライマリ サーバとセカンダリ サーバを指定できます。設定ファイルの次のパラメータの値として、プライマリおよびセカンダリ サーバ接続を指定します。

- PrimaryServerName
- ServerPort1
- SecondaryServerName
- ServerPort2

Cisco Jabber for Windows は、起動するたびにプライマリ サーバに接続しようと試行します。 プライマリ サーバが使用できない場合は、Cisco Jabber for Windows はセカンダリ サーバへの接続を試行します。 セカンダリ サーバに正常に接続できれば、Cisco Jabber for Windows は次回再起動されるまでセカンダリ サーバへの接続を保持します。

グローバル カタログ またはドメイン コントローラ サーバへの接続

Cisco Jabber for Windows は、デフォルトでは グローバル カタログ サーバに接続します。 グローバル カタログ サーバは、Microsoft Windows ドメイン フォレスト内の全ユーザのプライマリ ディレクトリ属性を保持しています。

必要であれば、Cisco Jabber for Windows を グローバル カタログ サーバではなく ドメイン コントローラ サーバに接続するよう設定できます。 設定ファイルで、Cisco Jabber for Windows を グロー

バル カタログ サーバに接続するか、または ドメイン コントローラ サーバに接続するかを、ConnectionType パラメータで指定します。

グローバル カタログ サーバおよび ドメイン コントローラ サーバへの接続に使用するデフォルト ポートは次のとおりです。

- グローバル カタログ：3268
- ドメイン コントローラ：389

単純な認証および SSL の使用

デフォルトでは、Cisco Jabber for Windows はディレクトリ サービスに接続するのに単純な認証を使用します。 UseSecureConnection パラメータを使用すると、単純な認証をイネーブルまたはディセーブルにすることができます。

必要であれば、ディレクトリへの接続に SSL を使用できます。 UseSSL パラメータを使用すると、SSL 接続を使用できます。 SSL は、グローバル カタログ サーバ、ドメイン コントローラ サーバ、またはその他の LDAP サーバで使用できます。 ただし、SSL 接続証明書が Microsoft Windows 証明書ストアになくてはなりません。 Microsoft Windows ドメインでは、SSL 接続証明書は、通常はクライアント コンピュータの証明書ストアにあります。

グローバル カタログ および ドメイン コントローラ サーバへの SSL 接続のデフォルト プロトコルおよびポートは、次のとおりです。

グローバル カタログ

プロトコル：TCP
ポート番号：3269

ドメイン コントローラ

プロトコル：TCP
ポート番号：636

接続認証情報の指定

デフォルトでは、Client Services Framework では Microsoft Windows のユーザ名とパスワードを使用し、ディレクトリ サービスに接続します。 Microsoft Windows の認証情報を使用したくない場合は、接続ユーザ名とパスワードを指定できます。 EDI 以外のディレクトリ サービスにアクセスする場合と、すべてのユーザに対して同じ認証情報のセットを使用する場合に、接続ユーザ名とパスワードを指定する必要があります。

UseWindowsCredentials パラメータは、Microsoft Windows の認証情報を使用してディレクトリに接続するかどうかを指定します。

次のパラメータを使用すると、ディレクトリ接続の認証情報を指定できます。

- ConnectionUsername

• ConnectionPassword

ディレクトリ クエリー パラメータ

次の表に、Cisco Jabber for Windows でのディレクトリへのクエリー方法を設定するためのパラメータを示します。

パラメータ	値	説明
BaseFilter	基本フィルタ	Active Directory クエリーの基本フィルタを指定します。 ディレクトリのサブキー名のみを指定し、Active Directory へのクエリーの実行時にユーザ オブジェクト以外のオブジェクトを取得します。 デフォルト値は (&(objectCategory=person) です。 設定ファイルには、有効な XML 文字実体参照のみを含めることができます。カスタム基本フィルタを指定する場合には、`&` の代わりに `&` を使用します。 Cisco Jabber for Windows 設定ファイルで閉じカッコを指定した場合、基本フィルタからクエリー結果が返されないことがあります。たとえば、この問題は、基本フィルタ (&(memberOf=CN=UCFilterGroup,OU=DN)) を指定した場合に発生することがあります。 この問題を解決するには、(&(memberOf=CN=UCFilterGroup,OU=DN) のように閉じカッコを削除します。

パラメータ	値	説明
PredictiveSearchFilter	サーチ フィルタ	予測検索クエリーに適用するサーチ フィルタを定義します。 デフォルト値は anr= です。 Cisco Jabber for Windows は、プレディクティブ検索を実行する際に、Ambiguous Name Resolution（ANR）を使用してクエリーを実行します。 このクエリーは、検索文字列の曖昧さを取り除き、ディレクトリ サーバで ANR に設定された属性に一致する結果を返します。 **重要** Cisco Jabber for Windows で、ANR に設定されていない属性を検索するには、ANR にそれらの属性が設定されるようにディレクトリ サーバを設定する必要があります。 ANR の詳細については、次の Microsoft マニュアルを参照してください。 • 『*Ambiguous Name Resolution for LDAP in Windows 2000*』 • 『*LDAP Referrals*』（「*Ambiguous Name Resolution*」の項を参照） • 『*Common Default Attributes Set for Active Directory and Global Catalog*』
DisableSecondaryNumberLookups	0 1	携帯電話番号、自宅の電話番号、他の電話番号などの仕事用の番号を使用できない場合に、ユーザが代替連絡先番号を検索できるかどうかを指定します。 **0** ユーザは代替連絡先番号を検索できます。 これがデフォルト値です。 **1** ユーザは代替連絡先番号を検索できません。

パラメータ	値	説明
PhoneNumberMasks	マスク文字列	ユーザが電話番号を検索するときに使用するマスクを指定します。 たとえば、ユーザが +14085550100 からのコールを受信するとします。 ただし、Active Directory では、この番号は +(1) 408 555 0100 です。 +14081+(#) ### ### #### のマスクにより、連絡先が見つかるようになります。 マスク文字列の長さは、レジストリ サブキー名のサイズ制限を超えることはできません。 詳細については、「電話マスク」を参照してください。
SearchTimeout	秒数	クエリのタイムアウト時間を秒数で指定します。 デフォルト値は 5 です。
UseWildcards	0 1	ワイルドカード検索を有効にするかどうかを指定します。 **0** ワイルドカードを使用しません。 これがデフォルト値です。 **1** ワイルドカードを使用します。 値として 1 を設定した場合に、特にユーザが、インデックスが作成されていないディレクトリ属性を検索すると、LDAP での検索速度に影響が出ることがあります。 ワイルドカードの代わりに、電話番号のマスクを使用できます。

パラメータ	値	説明
MinimumCharacterQuery	数値	ディレクトリを照会するために必要な連絡先名の最小文字数を指定します。 たとえば、このパラメータの値として 2 を設定した場合、ユーザが検索フィールドに少なくとも 2 文字を入力するとディレクトリ検索が発生します。 デフォルト値は 3 です。
SearchBase1 SearchBase2 SearchBase3 SearchBase4 SearchBase5	ディレクトリ ツリーで検索可能な組織単位（OU）	検索が開始されるディレクトリ サーバの場所を指定します。 つまり、検索ベースは Cisco Jabber for Windows で検索を実行するルートです。 デフォルトでは、Cisco Jabber for Windows はディレクトリ ツリーのルートから検索します。 OU 内で最大 5 つの検索ベースの値を指定し、デフォルトの動作を無効にすることができます。 **重要** • Active Directory では通常、検索ベースを指定する必要はありません。 Active Directory を使用する場合は、特定のパフォーマンス要件がある場合のみ検索ベースを指定してください。 • Active Directory 以外のディレクトリ サーバに対して検索ベースを指定する必要があります。 Active Directory 以外のディレクトリ サーバでは、ディレクトリ内の特定の場所へのバインディングを作成するため、検索ベースが必要になります。 **ヒント** OU を指定して、特定のユーザ グループに検索範囲を限定することができます。 たとえば、インスタント メッセージを有効にしたユーザのみを検索する場合は、該当のユーザを OU に包含し、その OU を検索ベースの値として指定することができます。

電話マスク

Cisco Jabber for Windows で PhoneNumberMasks パラメータを使用して電話番号のディレクトリを検索するときに使用するマスクを設定できます。

電話マスクは、Cisco Jabber for Windows でディレクトリを検索する前に電話番号に適用されます。電話マスクを正しく設定すると、クエリーが完全に一致するため、ディレクトリ検索が成功し、ディレクトリ サーバのパフォーマンスへの影響が回避されます。

次の表に、電話マスクに含めることができる要素を示します。

要素	説明
電話番号パターン	番号パターンを設定してディレクトリから電話番号を取得します。 電話マスクを追加するには、マスクを適用する番号パターンを指定します。 たとえば、+1408 で始まる検索に対してマスクを指定するには、+1408|+(#) ### ### #### のマスクを使用します。 桁数が同じでもパターンが異なる電話番号をマスクで処理できるようにするには、桁数が同じ複数のマスクを使用します。 たとえば、会社にサイト A とサイト B があるとします。 各サイトでは、次のように電話番号の形式が異なる個別のディレクトリを管理します。 +(1) 408 555 0100 +1-510-5550101 +1408|+(#) ### ### ####|+1510|+#-###-####### のマスクにより、両方の番号を正しく使用できます。
パイプ記号（|）	番号パターンとマスクを区切ります。 たとえば、+1408|+(#) ### ### ####|+34|+(##) ### #### です。
ワイルドカード文字	一致すると思われる文字のサブセットの代わりに 1 つ以上の文字を使用します。 電話マスクで任意のワイルドカード文字を使用できます。 たとえば、アスタリスク（*）は、1 つ以上の文字を表し、+3498|+##*##*###*#### のようにマスクに適用できます。 ワイルドカードとともにこのマスクを使用すると、電話番号検索で次のいずれかの形式と一致します。 +34(98)555 0199 +34 98 555-0199 +34-(98)-555.0199

要素	説明
逆マスク	番号パターンを右から左に適用します。 たとえば、+34985590199 に +3498|R+34 (98) 559 #### のマスクを適用すると、+34 (98) 559 0199 が取得されます。 順マスクと逆マスクの両方を使用できます。

関連トピック

『Ambiguous Name Resolution for LDAP in Windows 2000』
「LDAP Referrals」
『Common Default Attributes Set for Active Directory and Global Catalog』

連絡先の写真のパラメータ

次の表に、Cisco Jabber for Windows が連絡先の写真を取得する方法を設定するパラメータについて説明します。

パラメータ	値	説明
PhotoUriSubstitutionEnabled	true false	写真 URI の代替が有効であるかどうかを指定します。 **true** 写真 URI の代替が有効。 **false** 写真 URI の代替が無効であるかどうかを指定します。 これがデフォルト値です。 写真 URI の代替は、ディレクトリ統合に EDI を使用する場合にのみサポートされます。 写真 URI の代替の詳細については、「*EDI* による連絡先写真の取得」トピックの「*URI* 置換」の項を参照してください。
PhotoUriSubstitutionToken	ディレクトリ属性	写真 URI に挿入するディレクトリ属性を指定します（sAMAccountName など）。

パラメータ	値	説明
PhotoUriWithToken	URI	変数値としてディレクトリ属性を使用する、写真 URI を指定します（http://staffphoto.example.com/sAMAccountName.jpg など）。 写真 URI の代替を設定するには、PhotoUriSubstitutionToken の値としてディレクトリ属性を設定します。 UDS で連絡先の写真を解決するには、連絡先の写真の URL のフォーマットを PhotoUriWithToken パラメータの値として指定する必要があります。 詳細については、*UDS* による連絡先写真の取得を参照してください。

連絡先の写真の形式と寸法

サポートされている形式

Cisco Jabber for Windows では、ディレクトリ内の連絡先写真について次の形式をサポートしています。

- JPG
- PNG
- BMP
- GIF

重要 Cisco Jabber for Windows では、GIF 形式の連絡先写真のレンダリングを向上させるための変更は適用されません。 その結果、GIF 形式の連絡先写真が不正にレンダリングされたり最適な品質にならない場合があります。 最適な品質を得るには、連絡先の写真として PNG 形式を使用する必要があります。

写真の寸法

ヒント 連絡先写真の最適な寸法は、アスペクト比 1:1 の 128 x 128 ピクセルです。

次の表に、Cisco Jabber for Windows での連絡先写真のさまざまな寸法を示します。

場所	寸法
音声コール ウィンドウ	128 x 128 ピクセル
次のような招待やリマインダ • 着信コール ウィンドウ • 会議リマインダ ウィンドウ	64 x 64 ピクセル
次のような連絡先のリスト • 連絡先リスト • 参加者リスト • コール履歴 • ボイスメール メッセージ	32 x 32 ピクセル

サイズ変更

ディレクトリ内の連絡先写真が 128 x 128 ピクセル以外のサイズである場合、Cisco Jabber for Windows によって写真のサイズが自動的に変更されます。 たとえば、ディレクトリ内の連絡先写真が 64 x 64 ピクセルであるとします。 Cisco Jabber for Windows でディレクトリから連絡先写真を取得すると、その写真のサイズが 128 x 128 ピクセルに変更されます。

ヒント 連絡先写真のサイズ変更により、最適な解像度が得られない場合があります。 このため、Cisco Jabber for Windows によって連絡先写真のサイズが自動的に変更されないように、128 x 128 ピクセルの連絡先写真を使用してください。

トリミング

Cisco Jabber for Windows では、四角形以外の写真を四角形のアスペクト比（つまり、幅が高さと同じアスペクト比 1:1）に自動的にトリミングします。

縦方向

ディレクトリ内の連絡先写真が縦方向である場合、Cisco Jabber for Windows で上端から 30 %、下端から 70 % をトリミングします。

たとえば、ディレクトリ内の連絡先写真が幅 100 ピクセル、高さ 200 ピクセルである場合、アスペクト比が 1:1 となるように Cisco Jabber for Windows で高さから 100 ピクセルをトリミングする必要があります。 この場合、Cisco Jabber for Windows で写真の上端から 30 ピクセルを、写真の下端から 70 ピクセルをトリミングします。

横方向

ディレクトリ内の連絡先写真が横方向である場合、Cisco Jabber for Windows で両方の側から 50 % をトリミングします。

たとえば、ディレクトリ内の連絡先写真が幅 200 ピクセル、高さ 100 ピクセルである場合、アスペクト比が 1:1 となるように Cisco Jabber for Windows で幅から 100 ピクセルをトリミングする必要があります。 この場合、Cisco Jabber for Windows で写真の右側から 50 ピクセルを、写真の左側から 50 ピクセルをトリミングします。

丸め

Cisco Jabber for Windows では、ディレクトリから連絡先写真を取得した後、それらの写真の角を丸めます。

EDI による連絡先写真の取得

このトピックでは、EDI または別の LDAP ディレクトリを使用する場合に Cisco Jabber for Windows で連絡先写真を取得する方法について説明します。

取得方法

Cisco Jabber for Windows では、次の方法で連絡先写真を取得して表示します。

URI 置換

Cisco Jabber for Windows によって、ディレクトリ属性と URL テンプレートを使用して連絡先写真の URL が動的に作成されます。

バイナリ オブジェクト

Cisco Jabber for Windows によって、データベースから写真のバイナリ データが取得されます。

PhotoURL 属性

Cisco Jabber for Windows によって、ディレクトリ属性から URL が取得されます。

URI 置換

この方法を使用するには、設定ファイルで次の値を設定します。

1. PhotoUriSubstitutionEnabled パラメータの値として true を指定します。
2. 動的トークンとして使用するディレクトリ属性を PhotoUriSubstitutionTokenパラメータの値として指定します（例：<PhotoUriSubstitutionToken>sAMAccountName</PhotoUriSubstitutionToken>）。
3. PhotoUriWithToken パラメータの値として URL と動的トークンを指定します（例：<PhotoUriWithToken>http://staffphoto.example.com/sAMAccountName.jpg</BMLASPPhotoUriWithToken>）。

前述の手順の例の値では、sAMAccountName 属性がディレクトリの msmith に解決されます。その後、 Cisco Jabber for Windows では、この値を取得してトークンを置換し、`http://staffphoto.example.com/msmith.jpg` の URL を作成します。

バイナリ オブジェクト

この方法を使用して連絡先写真を取得するには、設定で PhotoSource パラメータの値としてバイナリ データが含まれている属性を指定します（例：<PhotoSource>jpegPhoto</PhotoSource>）。

PhotoURL 属性

この方法を使用して連絡先写真を取得するには、設定で PhotoSource パラメータの値として写真の URL が含まれている属性を指定します（例：<PhotoSource>photoUri</PhotoSource>）。

UDS による連絡先写真の取得

このトピックでは、UDS をディレクトリ サービスとして使用する場合に Cisco Jabber for Windows で連絡先写真を取得する方法について説明します。

UDS によって、ディレクトリ属性と URL テンプレートを使用して連絡先写真の URL が動的に作成されます。

UDS を使用して連絡先写真を解決するには、PhotoUriWithToken パラメータの値として連絡先写真の URL の形式を指定します。 また、*%%uid%%* トークンを挿入して URL の連絡先のユーザ名を置換します。 たとえば、<PhotoUriWithToken>http://*server_name.domain*/%%uid%%.jpg</PhotoUriWithToken> です。

UDS によって、*%%uid%%* トークンが UDS の userName 属性に置換されます。 たとえば、Mary Smith という名前のユーザがディレクトリに存在するとします。 Mary Smith の userName 属性は msmith です。 Mary Smith の連絡先写真を解決するために、Cisco Jabber for Windows では userName 属性を取得して *%%uid%%* トークンを置換し、`http://staffphoto.example.com/msmith.jpg` の URL を作成します。

制約事項 すべての連絡先写真は、PhotoUriWithToken の値として指定した URL の形式に従っている必要があります。

ドメイン フェデレーション パラメータ

ドメイン内フェデレーションのパラメータ

次の表に、ドメイン内フェデレーションを設定するためのパラメータを示します。

パラメータ	値	説明
UseSIPURIToResolveContacts	true false	SipUri パラメータで指定した属性の値を使用して、Cisco Jabber for Windows で連絡先情報を取得するかどうかを指定します。 **true** SipUri パラメータで指定した属性の値を使用して、連絡先情報を取得します。 ディレクトリ内の連絡先ユーザ名が *username@domain* の形式に従っていない場合には、true を指定してください。 **false** Cisco Jabber for Windows では SipUri パラメータを使用しません。 これがデフォルト値です。
UriPrefix	テキスト文字列	SipUri パラメータで指定した属性の値に適用されるプレフィックスを定義します。 プレフィックスとは、連絡先 ID のユーザ名の前にあるテキストです。 たとえば、msRTCSIP-PrimaryUserAddress を SipUri の値として指定します。ディレクトリにおける msRTCSIP-PrimaryUserAddress 属性の値は、`sip:username@domain` の形式になります。 デフォルト値は空です。

ドメイン内フェデレーションの詳細については、「ドメイン フェデレーション」のトピックの「ドメイン内フェデレーションに対する *Cisco Jabber for Windows* の設定」の項を参照してください。

ドメイン フェデレーション

Cisco Jabber for Windows を設定すると、ユーザが Cisco Jabber for Windows を使用しない他のドメイン内のユーザや同じドメイン内のユーザと通信できるようになります。

ドメイン間フェデレーション

ドメイン間フェデレーションでは、エンタープライズ ドメイン内の Cisco Jabber for Windows ユーザは、他のドメイン内のユーザとアベイラビリティを共有し、それらのユーザにインスタント メッセージを送信できます。

- Cisco Jabber for Windows ユーザは、他のドメインの連絡先を手動で入力する必要があります。
- Cisco Jabber for Windows では、次のサーバとのフェデレーションがサポートされています。
  - Microsoft Office Communications Server
  - Microsoft Lync
  - IBM Sametime
  - XMPP 標準ベースの環境（Google Talk など）
  - AOL Instant Messenger

Cisco Unified Presence または Cisco Unified Communications IM and Presence 上に Cisco Jabber for Windows のドメイン間フェデレーションを設定します。 詳細については、次の資料を参照してください。

- Cisco Unified Presence：『*Integration Guide for Configuring Cisco Unified Presence Release 8.6 for Interdomain Federation*』
- Cisco Unified Communications IM and Presence：『*Interdomain Federation for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』

ドメイン内フェデレーション

ドメイン内フェデレーションでは、同じドメイン内のユーザはアベイラビリティを共有し、Cisco Unified Presence と Microsoft Office Communications Server、Microsoft Live Communications Server、または他のプレゼンス サーバ間でインスタント メッセージを送信できます。

ドメイン内フェデレーションを使用すると、ユーザを別のプレゼンス サーバから Cisco Unified Presence または Cisco Unified Communications IM and Presence に移行できます。 このため、プレゼンス サーバ上で Cisco Jabber for Windows のドメイン内フェデレーションを設定します。 詳細については、次の資料を参照してください。

- Cisco Unified Presence：『*Integration Guide for Configuring Partitioned Intradomain Federation for Cisco Unified Presence Release 8.6 and Microsoft LCS/OCS*』
- Cisco Unified Communications IM and Presence：『*Partitioned Intradomain Federation for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』

（注） Cisco Unified Presence でドメイン内フェデレーションをサポートしているプレゼンス サーバを確認するには、該当する Cisco Unified Presence のマニュアルを参照してください。

ドメイン内フェデレーションに対する Cisco Jabber for Windows の設定

Cisco Unified Presence でのドメイン内フェデレーションの設定に加えて、Cisco Jabber for Windows 設定ファイルでいくつかの設定が必要になる場合があります。

連絡先の検索時に連絡先を解決したり、ディレクトリから連絡先情報を取得したりするには、Cisco Jabber for Windows で各ユーザの連絡先 ID が必要です。 Cisco Unified Presence では、Microsoft Office Communications Server、Microsoft Live Communications Server などの他のプレゼンス サーバの形式と常に一致するとは限らない連絡先情報を解決するために特定の形式を使用します。

設定ファイルで次の設定を適用します。

1. UseSIPURIToResolveContacts パラメータの値を true に設定します。
2. Cisco Jabber for Windows で使用する連絡先 ID が含まれている属性を指定し、連絡先情報を SipUri パラメータの値として取得します。 デフォルト値は msRTCSIP-PrimaryUserAddress です。
3. 各連絡先 ID のプレフィックスとなるテキストを UriPrefix パラメータの値として設定します。プレフィックスとは、連絡先 ID のユーザ名の前にあるテキストです。

   たとえば、msRTCSIP-PrimaryUserAddress を SipUri の値として指定します。 ディレクトリにおける各ユーザの msRTCSIP-PrimaryUserAddress の値は、`sip:username@domain` の形式になります。

詳細については、「ドメイン フェデレーション パラメータ」のトピックの「ドメイン内フェデレーションのパラメータ」の項を参照してください。

ドメイン内フェデレーションの例

この項では、SipUri、UseSIPURIToResolveContacts、および UriPrefix の各パラメータを使用したドメイン内フェデレーションの連絡先を解決する例について説明します。

この例では、次のように設定されています。

- SipUri パラメータの値は msRTCSIP-PrimaryUserAddress です。
- UseSIPURIToResolveContacts パラメータの値は true です。
- UriPrefix パラメータの値は sip: です。
- ディレクトリには、Mary Smith という名前のユーザの msRTCSIP-PrimaryUserAddress 属性の値として sip:msmith@domain.com が含まれています。

Cisco Jabber for Windows によるディレクトリに接続した連絡先情報の解決

1. プレゼンス サーバが msmith@domain.com を Cisco Jabber for Windows に渡します。
2. Cisco Jabber for Windows により、sip: が msmith@domain.com に付加されてから、ディレクトリへのクエリーが実行されます。
3. sip:msmith@domain.com が msRTCSIP-PrimaryUserAddress 属性の値と一致します。
4. Cisco Jabber for Windows により、Mary Smith の連絡先情報が取得されます。

Cisco Jabber for Windows による Mary Smith の検索

Cisco Jabber for Windows により、sip:msmith@domain.com から sip: のプレフィックスが削除され、msmith@domain.com の連絡先 ID が取得されます。

関連トピック

- Integration Guide for Configuring Cisco Unified Presence Release 8.6 for Interdomain Federation
- Integration Guide for Configuring Partitioned Intradomain Federation for Cisco Unified Presence Release 8.6 and Microsoft LCS/OCS
- Partitioned Intradomain Federation for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager version 9.0
- Interdomain Federation for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager version 9.0

オプション パラメータ

オプションのパラメータを使用すると、Cisco Jabber for Windows の [オプション（Options）] ウィンドウの特定の設定に対してデフォルト値を変更できます。また、ユーザは[オプション（Options）] ウィンドウで独自の値を指定し、設定ファイルで設定したデフォルトを上書きすることもできます。

次の表に、Options要素内で指定できるパラメータを示します。

パラメータ	値	説明
Set_Status_Away_On_Inactive	true false	ユーザが非アクティブになったときにアベイラビリティ ステータスを [退席中（Away）] に変更するかどうかを指定します。 デフォルト値は true です。
Set_Status_Inactive_Timeout	分単位での時間	ユーザが非アクティブになった場合にアベイラビリティ ステータスが [退席中（Away）] に変更される前の時間を分単位で指定します。 デフォルト値は 15 です。
Set_Status_Away_On_Lock_OS	true false	ユーザがコンピュータをロックしたときにアベイラビリティ ステータスを [退席中（Away）] に変更するかどうかを指定します。 デフォルト値は true です。

パラメータ	値	説明
Start_Calls_With	ビデオ 音声	ユーザが送信するコールがビデオで始まるかどうかを指定します。 **ビデオ** コールは常に音声およびビデオで始まります。 これがデフォルト値です。 **音声** コールは常に音声のみで始まります。
Start_Client_On_Start_OS	true false	ユーザがコンピュータを起動したときに Cisco Jabber for Windows が自動的に起動するかどうかを指定します。 デフォルト値は false です。

オプションの設定例

次に、オプションの設定例を示します。

```
<Options>
 <Set_Status_Away_On_Inactive>true</Set_Status_Away_On_Inactive>
 <Set_Status_Inactive_Timeout>15</Set_Status_Inactive_Timeout>
 <Set_Status_Away_On_Lock_OS>true</Set_Status_Away_On_Lock_OS>
 <Start_Calls_With>video</Start_Calls_With>
 <Start_Client_On_Start_OS>false</Start_Client_On_Start_OS>
</Options>
```

プレゼンス パラメータ

次の表に、Presence要素内で指定できるパラメータを示します。

パラメータ	値	説明
LoginResource	multiResource wbxconnect mutualExclusion	ユーザが複数のクライアント インスタンスに同時にログインできるかどうかを指定します。 デフォルトで、Cisco Jabber for Windows は Cisco Jabber の複数インスタンスへのログインを許可します。 デフォルトの動作を変更したり、インストール設定を上書きするには、次の値のいずれかを設定します。 **multiResource** ユーザは、Cisco Jabber の複数インスタンスに一度にログインできます。 これがデフォルト値です。 **wbxconnect** ユーザは一度に 1 つの Cisco Jabber for Windows インスタンスにログインできます。 この設定は、ユーザの JID に wbxconnect サフィックスを付けます。 ユーザは、wbxconnect サフィックスを使用する他の Cisco Jabber クライアントにログインできません。 次のコマンドライン引数を指定して、インストール中にこの値を設定できます：LOGIN_RESOURCE。 詳細については、「コマンドライン引数」のトピックを参照してください。 **mutualExclusion** ユーザは一度に 1 つの Cisco Jabber for Windows インスタンスにログインできます。 Cisco Jabber for Windows の各インスタンスが、ユーザの JID に固有のサフィックスを付加します。 これにより、Cisco Jabber for Windows は単一インスタンスに制限されます。 ただし、ユーザは、他の Cisco Jabber クライアントに同時にログインできます。 次のコマンドライン引数を指定して、インストール中にこの値を設定できます：LOGIN_RESOURCE。 詳細については、「コマンドライン引数」のトピックを参照してください。

プレゼンスの設定例

次に、プレゼンスの設定例を示します。

```
<Presence>
 <LoginResource>wbxconnect</LoginResource>
</Presence>
```

関連トピック

コマンドライン引数, （61 ページ）
コマンドライン引数, （61 ページ）

ポリシー パラメータ

次の表に、Policies要素内で指定できるパラメータを示します。

パラメータ	値	説明
Screen_Capture_Enabled	true false	ユーザが画面キャプチャを取得できるかどうかを指定します。 **true** ユーザは画面キャプチャを取得できます。 これがデフォルト値です。 **false** ユーザは画面キャプチャを取得できません。
File_Transfer_Enabled	true false	ユーザが他のユーザとファイルを交換できるかどうかを指定します。 **true** ユーザは他のユーザとファイルを交換できます。 これがデフォルト値です。 **false** ユーザは他のユーザとファイルを交換できません。

パラメータ	値	説明
Disallowed_File_Transfer_Types	ファイル拡張子	ユーザによる特定のファイル タイプの交換を禁止します。 値として 1 つ以上のファイル拡張子を指定できます。 • `.suffix`の形式でファイル拡張子を指定します。 例：`.exe` • 複数のファイル拡張子を区切るには、セミコロンを使用します。 例：`.exe;.msi;.rar;.zip`
Video_Disabled	true false	ユーザがビデオ コールを発信できるかどうかを指定します。 **true** ユーザはビデオ コールを発信できません。 **false** ユーザはビデオ コールを発信できます。 これがデフォルト値です。

パラメータ	値	説明
User_Defined_Remote_Destination	true false	ユーザがクライアント インターフェイスを介してリモート接続先を追加、編集、および削除できるかどうかを指定します。 **true** ユーザはリモート接続先を追加、編集、および削除できます。 **false** ユーザはリモート接続先を追加、編集、および削除できません。 これがデフォルト値です。 Cisco Jabber for Windows は各ユーザのデバイス リストを Cisco Unified Communications Manager から取得します。 そのデバイス リストにソフトフォン デバイスまたはデスクフォン デバイスが含まれている場合、Cisco Jabber for Windows は自動的にユーザがクライアント インターフェイスを介してリモート接続先を追加、編集、削除することを許可します。 そのデバイス リストに CTI リモート デバイスだけが含まれている場合、Cisco Jabber for Windows はユーザがクライアント インターフェイスを介してリモート接続先を追加、編集、削除することを許可しません。 CTI リモート デバイスだけを使用してユーザをプロビジョニングする場合は、コンフィギュレーション ファイルでこのパラメータを指定する必要があります。 ソフトフォン デバイスまたはデスクフォン デバイスとともに CTI リモート デバイスを持つユーザをプロビジョニングする場合は、このパラメータは必要ではありません。 詳細については、『*Cisco Jabber for Windows Server Setup Guide*』の *Cisco Jabber for Windows* の拡張および接続のトピックを参照してください。

ポリシーの設定例

次に、オンプレミス による展開でのポリシーの設定例を示します。

```
<Policies>
 <Screen_Capture_Enabled>false</Screen_Capture_Enabled>
 <File_Transfer_Enabled>false</File_Transfer_Enabled>
 <Disallowed_File_Transfer_Types>.exe;.msi;.rar;.zip;.mp3</Disallowed_File_Transfer_Types>
<Video_Disabled>true</Video_Disabled>
</Policies>
```

認証情報の設定

電話サービスの認証情報パラメータ

Cisco Unified Communications Manager で指定された電話サービスの認証情報を使用するよう、設定パラメータを指定することができます。 この設定パラメータを指定すると、Cisco Jabber for Windows では、Cisco Unified Communications Manager の電話サービスにアクセスするためにサインイン認証情報を使用します。 そのため、Cisco Jabber for Windows ユーザは、クライアントの電話サービスに対して認証情報を入力する必要がありません。

次の表に、電話サービスの認証情報で指定できるパラメータについて説明します。

親要素	パラメータ	値	説明
CUCM	PhoneService_ UseCredentialsFrom	プレゼンス	Cisco Jabber for Windows が Cisco Unified Communications Manager の電話サービスにアクセスするために、サインイン認証情報を使用することを指定します。 サインイン認証情報と電話サービスの認証情報が同じであることを確認します。 このパラメータを設定すると、ユーザは Cisco Jabber for Windows に電話サービスの認証情報を指定できません。 （注） このパラメータは、オンプレミス導入でしか指定できません。 このパラメータは、ハイブリッド クラウドベース導入では無効です。

認証情報の設定例

次に、オンプレミス導入における認証情報の設定例を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<config version="1.0">
  <CUCM>
    <PhoneService_UseCredentialsFrom>presence</PhoneService_UseCredentialsFrom>
  </CUCM>
</config>
```

Cisco Unified Presence でのボイスメール認証情報の同期

この項は、Cisco Unified Presence と統合するオンプレミス導入にのみ適用されます。

本リリース以降、オンプレミス導入では、ボイスメール認証情報のパラメータを指定できなくなりました。 ただし、Cisco Unified Presence の Cisco Jabber for Windows ユーザに対しては、ボイスメール認証情報ソースを指定できます。

Cisco Unified Presence でボイスメール認証情報ソースを指定するには、次の手順を実行します。

1 [Cisco Unified Presence の管理（Cisco Unified Presence Administration）] インターフェイスを開きます。

2 [アプリケーション（Application）] > [Cisco Jabber] > [設定（Settings）] を選択します。

Cisco Unified Presence のバージョンによっては、このパスは次のようになります。[アプリケーション（Application）] > [Cisco Unified Personal Communicator] > [設定（Settings）]

3 Cisco Jabber の [設定（Settings）] セクションの [ボイスメール サービスの認証情報ソース（Credentials source for voicemail service）] ドロップダウン リストから [CUP] を選択します。

このオプションは、Cisco Unified Presence のユーザ認証情報が、ユーザのボイスメール認証情報と一致することを指定します。

（注） [ボイスメール サービスの認証情報ソース（Credentials source for voicemail service）] ドロップダウン リストから [Web カンファレンシング（Web Conferencing）] を選択しないでください。Cisco Jabber for Windows は現在、Web カンファレンシング認証情報との同期をサポートしていません。

Cisco Unified Communications Manager でのボイスメール認証情報の同期

この項は、Cisco Unified Communications Manager バージョン 9.0 以降と統合するオンプレミス導入に適用されます。

本リリース以降、オンプレミス導入では、ボイスメール認証情報のパラメータを指定できなくなりました。 ただし、Cisco Unified Presence の Cisco Jabber for Windows ユーザに対しては、ボイスメール認証情報ソースを指定できます。

Cisco Unified Communications Manager でボイスメール認証情報ソースを指定するには、次の手順を実行します。

1 [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。

2 [ユーザ管理（User Management）] > [ユーザ設定（User Settings）] > [サービス プロファイル（Service Profile）] を選択します。

3 適切なサービス プロファイルを選択し、[サービス プロファイルの設定（Service Profile Configuration）] ウィンドウを開きます。

4 [ボイスメールのプロファイル（Voicemail Profile）] セクションの [ボイスメール サービスの認証情報ソース（Credentials source for voicemail service）] ドロップダウン リストから、[Unified CM - IM およびプレゼンス（Unified CM - IM and Presence）] を選択します。

このオプションでは、ユーザのインスタント メッセージングおよびプレゼンス認証情報が、ユーザのボイスメール認証情報と一致することを指定します。

（注） [ボイスメール サービスの認証情報ソース（Credentials source for voicemail service）] ドロップダウン リストから [Web カンファレンシング（Web Conferencing）] を選択しないでください。Cisco Jabber for Windows は現在、Web カンファレンシング認証情報との同期をサポートしていません。

自動更新の設定

自動更新を有効にするには、最新バージョン（HTTP サーバのインストール パッケージの URL を含む）の情報が含まれている XML ファイルを作成します。ユーザがサインインしたり、コンピュータをスリープ モードから再開したり、[ヘルプ（Help）] メニューから手動による更新要求を実行したりすると、 Cisco Jabber for Windows によって XML ファイルが取得されます。

自動更新の XML ファイルでは、次の形式を使用します。

```
<JabberUpdate>
 <LatestBuildNum>value</LatestBuildNum>
 <LatestVersion>value</LatestVersion>
 <Message><![CDATA[your_html]]></Message>
 <DownloadURL>value</DownloadURL>
</JabberUpdate>
```

はじめる前に

Cisco Jabber for Windows の自動更新を設定するには、HTTP サーバをインストールし、XML ファイルとインストール パッケージをホストするように設定しておく必要があります。

手順

ステップ 1 HTTP サーバ上で適切なインストール パッケージをホストします。

ステップ 2 任意のテキスト エディタを使用して更新の XML ファイルを作成します。

ステップ 3 LatestBuildNum 要素の値として更新のビルド番号を指定します。

ステップ 4 LatestVersion 要素の値として更新のバージョン番号を指定します。

ステップ 5 Message 要素の値として HTML を <![CDATA[*your_html*]]> の形式で指定します。

ステップ 6 DownloadURL 要素の値として HTTP サーバのインストール パッケージの URL を指定します。

ステップ 7 更新の XML ファイルを保存して閉じます。

ステップ 8 HTTP サーバ上で更新の XML ファイルをホストします。

ステップ 9 設定ファイルの UpdateUrl パラメータの値として更新の XML ファイルを指定します。

次に、自動更新を設定するための XML の例を示します。

```
<JabberUpdate>
 <LatestBuildNum>12345</LatestBuildNum>
 <LatestVersion>9.0.1</LatestVersion>
 <Message><![CDATA[<b>This new version of Cisco Jabber lets you do the
following:</b><ul><li>Feature 1</li><li>Feature 2</li></ul>For
more information click <a target="_blank"
```

```
href="http://cisco.com/go/jabber">here</a>.]]></Message>
 <DownloadURL>http://server_name/CiscoJabberSetup.msi</DownloadURL>
</JabberUpdate>
```

問題レポートの設定

問題レポートをセットアップすると、ユーザは Cisco Jabber for Windows の使用中に発生した問題の概要を送信できるようになります。 次のように、問題レポートを送信する方法は 2 つあります。

- Cisco Jabber for Windows を介して問題レポートを直接送信する。
- 問題レポートをローカルに保存し、後でアップロードする。

Cisco Jabber for Windows では、HTTP POST メソッドを使用して問題レポートを送信します。 POST 要求を受け入れるカスタム スクリプトを作成し、設定パラメータとして HTTP サーバ 上のスクリプトの URL を指定します。 ユーザは問題レポートをローカルに保存できるため、ユーザが問題レポートをアップロードできるようにするフォームを含む HTML ページを作成する必要もあります。

はじめる前に

環境の準備を行うには、次の手順を実行します。

1. HTTP サーバ をインストールおよび設定します。
2. HTTP POST 要求を受け入れるカスタム スクリプトを作成します。
3. HTTP サーバ 上でホストする HTML ページを作成し、ユーザが、ローカルに保存されている問題レポートをアップロードできるようにします。 HTML ページには、`.ZIP` アーカイブとして保存された問題レポートを受け入れ、カスタム スクリプトを使用して問題レポートを送信するアクションが含まれているフォームがあります。

次に、問題レポートを受け入れるフォームの例を示します。

```
<form name="uploadPrt" action="http://server_name.com/scripts/UploadPrt.php" method="post"
 enctype="multipart/form-data">
 <input type="file" name="zipFileName" id="zipFileName" /><br />
 <input type="submit" name="submitBtn" id="submitBtn" value="Upload File" />
</form>
```

手順

ステップ 1 HTTP サーバ 上でカスタム スクリプトをホストします。

ステップ 2 設定ファイルの PrtLogServerUrl パラメータの値としてスクリプトの URL を指定します。

カスタム埋め込みタブ

カスタム埋め込みタブには、Microsoft Internet Explorer レンダリング エンジンを使用した Cisco Jabber for Windows の HTML コンテンツが表示されます。

Cisco Jabber for Windows では、Microsoft Internet Explorer でサポートされているコンテンツを表示するために、最大 5 つのカスタム埋め込みタブをサポートしています。 たとえば、カスタム埋め込みタブを作成して、会社のポリシーの詳細や HTTP サーバ上でホストされている XML ファイルを提供する Web ページを表示します。

次の XML の抜粋は、Cisco Jabber for Windows 設定ファイルのカスタム埋め込みファイルの基本構造を示します。

```
<Client>
 <jabber-plugin-config>
  <browser-plugin>
   <page refresh="" preload="">
    <tooltip></tooltip>
    <icon></icon>
    <url></url>
   </page>
  </browser-plugin>
 </jabber-plugin-config>
</Client>
```

次の表に、カスタム埋め込みタブを定義するための要素および属性を示します。

パラメータ	値	説明
browser-plugin	カスタム タブのすべての定義	カスタム埋め込みタブのすべての定義が含まれます。
page	カスタム タブの 1 つの定義	カスタム埋め込みタブの 1 つの定義が含まれます。
refresh	true false	埋め込みタブのコンテンツが更新されるタイミングを制御します。 次のいずれかの値を指定します。 **true** ユーザが埋め込みタブを選択するたびにコンテンツが更新されます。 **false** ユーザが Cisco Jabber for Windows を再起動したり、サインアウトして再度サインインしたりした場合にのみコンテンツが更新されます。 これがデフォルト値です。 このパラメータはオプションです。 refresh は page 要素の属性です。

パラメータ	値	説明
preload	true false	埋め込みタブのコンテンツがロードされるタイミングを制御します。 次のいずれかの値を指定します。 **true** Cisco Jabber for Windows が起動すると、コンテンツがロードされます。 **false** ユーザが埋め込みタブを選択すると、コンテンツがロードされます。 これがデフォルト値です。 このパラメータはオプションです。 preload は page 要素の属性です。
tooltip	Unicode 文字の文字列	ユーザが埋め込みタブ上にカーソルを移動したときに表示されるテキストを定義します。 このパラメータはオプションです。

パラメータ	値	説明
icon	URL	埋め込みタブのアイコンの位置を指定します。ローカル アイコンまたはホステッド アイコンを指定できます。 **ローカル アイコン** file://*path*/*icon_name* のようにローカル アイコンの URL を指定します。 例：<icon>file://c:/icons/icon.png</icon> **ホステッド アイコン** http://*full_path*/*icon_name* のようにホステッド アイコンの URL を指定します。 例： <icon>http://*domain*/icons/icon.png</icon> Cisco Jabber for Windows では、Microsoft Internet Explorer で描画可能なアイコン（.JPG、.PNG、.GIF など）をサポートしています。 カスタム アイコンの寸法および形式については、このトピックの「カスタム アイコン」の項を参照してください。 このパラメータはオプションです。 アイコンを指定しない場合、あるいは指定したアイコンが正常にロードされない場合は、Cisco Jabber for Windows によってデフォルト アイコンがロードされます。

パラメータ	値	説明
url	URL	埋め込みタブに表示される HTML ページ（つまり、他のコンテンツ）のURLを指定します。 ${UserID} トークンを url パラメータの値の一部として指定できます。 詳細については、このトピックの「*UserID* トークン」の項を参照してください。 Cisco Jabber for Windows では、Internet Explorer レンダリング エンジンを使用して埋め込みタブのコンテンツを表示します。 このため、Internet Explorer でサポートされているコンテンツの URL を指定できます。 （注） Cisco Jabber for Windows では、Internet Explorer バージョン 9 またはそれ以前のバージョンをサポートしています。それ以降のバージョンの Internet Explorer をワークステーションにインストールしている場合は、Cisco Jabber for Windows では Internet Explorer をバージョン 9 モードで使用します。 このパラメータは必須です。

カスタム アイコン

カスタム埋め込みタブのアイコンには、1 つのイメージ ファイル内の各状態に対して 10 個のフレームがあります。

各フレームの寸法は 20 x 20 ピクセルです。 各フレーム間に 1 ピクセルのパディングを設定してください。 1 ピクセルのパディングにより、実際に使用できるアイコンの領域は 19 x 19 ピクセルになります。

イメージの背景色は透明です。

各フレームは、次の順序で下記の状態のいずれかを表します。

1. 標準
2. 押されている
3. ホバー
4. 無効
5. フォーカス済み
6. 選択済みおよび標準
7. 選択済みおよび押されている
8. 選択済みおよびホバー

9 選択済みおよびディセーブル
10 選択済みおよびフォーカス済み

次に、カスタム埋め込みタブのアイコンの例を示します。

プロトコル ハンドラ

Cisco Jabber for Windows は、次のプロトコル ハンドラをオペレーティング システムに登録し、クリックツーコールまたはクリックツー IM 機能を Web ブラウザやその他のアプリケーションから使用できるようにします。

- XMPP:

  Cisco Jabber for Windows でインスタント メッセージを開始し、チャット ウィンドウを開きます。

- IM:

  Cisco Jabber for Windows でインスタント メッセージを開始し、チャット ウィンドウを開きます。

- TEL:

  Cisco Jabber for Windows との通話を開始します。

HTML ページに、href 属性の一部としてプロトコル ハンドラを追加します。 HTML ページに表示されるハイパーリンクをクリックすると、Cisco Jabber for Windows はプロトコルに対して適切な処理を実行します。

次に、HTML ページの TEL: および IM: プロトコル ハンドラの例を示します。

```
<html>
  <body>
    <a href="TEL:1234">Call 1234</a><br/>
    <a href="IM:msmith@domain">Send an instant message to Mary Smith</a>
  </body>
</html>
```

前の例では、ユーザがハイパーリンクをクリックして 1234 に発信すると、Cisco Jabber for Windows はその電話番号への音声コールを開始します。 ユーザが Mary Smith にインスタント メッセージを送信するハイパーリンクをクリックすると、Cisco Jabber for Windows は Mary とのチャット ウィンドウを開きます。

次に、HTML ページの XMPP: プロトコル ハンドラを使用したグループ チャットの例を示します。

```
<html>
  <body>
    <a href="XMPP:msmith@domain;amckenzi@domain">Create a group chat with Mary Smith and
Adam McKenzie</a>
  </body>
</html>
```

前の例では、ユーザが Mary Smith および Adam McKenzie とのグループ チャットを作成するハイパーリンクをクリックすると、Cisco Jabber for Windows は Mary および Adam とのグループ チャット ウィンドウを開きます。

ヒント XMPP: および IM: ハンドラに連絡先リストを追加し、グループ チャットを作成します。 連絡先を区切るには、セミコロンを使用します。 次に、例を示します。
`XMPP:user_a@domain.com;user_b@domain.com;user_c@domain.com;user_d@domain.com`

UserID トークン

${UserID} トークンを url パラメータの値の一部として指定できます。 ユーザがサインインすると、Cisco Jabber for Windows により、${UserID} トークンがログインしたユーザのユーザ名に置き換えられます。

たとえば、カスタム埋め込みタブで次の内容を指定します。
`<url>www.cisco.com/${UserID}/profile</url>`
ユーザ名 msmith の Mary Smith という名前のユーザがログインします。その後、 Cisco Jabber for Windows により、${UserID} トークンが次のように Mary のユーザ名に置き換えられます。
`<url>www.cisco.com/msmith/profile</url>`

ヒント また、クエリー文字列に ${UserID} トークンを指定することもできます（例：`www.cisco.com/mywebapp.op?url=${UserID}`）。

カスタム埋め込みタブの例

次に、2 つのカスタム埋め込みタブの例を示します。

```
<jabber-plugin-config>
 <browser-plugin>
  <page refresh="false" preload="false">
   <tooltip>Cisco WebEx</tooltip>
   <icon>http://cisco.com/icon.png</icon>
   <url>http://www.webex.com/</url>
  </page>
  <page refresh="true">
   <tooltip>Cisco</tooltip>
   <icon>http://cisco.com/icon.png</icon>
   <url>http://www.cisco.com/</url>
  </page>
 </browser-plugin>
</jabber-plugin-config>
```

JavaScript 通知

カスタム埋め込みタブに JavaScript 通知を実装できます。 このトピックでは、JavaScript 通知用に Cisco Jabber for Windows が提供するメソッドについて説明します。 また、通知のテストに使用できる JavaScript フォームの例についても説明します。 非同期サーバ コールに対する JavaScript 通知の実装方法と他のカスタム実装に関する説明は、このマニュアルでは取り扱いません。 詳細については、該当する JavaScript のマニュアルを参照してください。

通知メソッド

Cisco Jabber for Windows には、JavaScript 通知の次のメソッドを提供するインターフェイスが含まれています。

SetNotificationBadge

JavaScript で Cisco Jabber for Windows からこのメソッドを呼び出します。 このメソッドにより、空または 1 ～ 999 の数字である文字列値が取得されます。

onPageSelected

Cisco Jabber for Windows は、ユーザがカスタム組み込みタブを選択するとこのメソッドを呼び出します。

onPageDeselected

Cisco Jabber for Windows は、ユーザが別のタブを選択するとこのメソッドを呼び出します。

JavaScript の例

次に、1 ～ 999 の数字を入力できるフォームを表示するために JavaScript を使用する HTML の例を示します。

```
<html>
  <head>
    <script type="text/javascript">
      function onPageSelected()
      {
        window.external.SetNotificationBadge("");
      }
      function onPageDeselected()
      {
        window.external.SetNotificationBadge("");
      }
      function addBadge()
      {
        var cell = document.getElementById("badgeid");
        window.external.SetNotificationBadge(cell.value);
      }
    </script>
  </head>
  <body>
    <form onsubmit="addBadge()" >
    Badge: <input type="text" name="value" id="badgeid"/><br />
    <input type="submit" value="Submit">
    </form>
  </body>
</html>
```

この例の JavaScript フォームをテストするには、前述の例を HTML ページにコピーしてから、そのページをカスタム埋め込みタブとして指定します。

設定ファイルの例

次に、Cisco Jabber for Windows のオンプレミス導入の設定ファイルの例を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<config version="1.0">
  <Client>
    <PrtLogServerUrl>http://server_name.domain.com/prt_script.php</PrtLogServerUrl>
    <UpdateUrl>http://server_name.domain.com/update.xml</UpdateUrl>
    <Forgot_Password_URL>http://server_name.domain.com/password.html</Forgot_Password_URL>
    <jabber-plugin-config>
      <browser-plugin>
        <page refresh="false" preload="true">
          <tooltip>Cisco WebEx</tooltip>
```

```
            <icon>http://server_name.cisco.com/icon.png</icon>
            <url>http://www.webex.com</url>
          </page>
          <page refresh="true" preload="true">
            <tooltip>Cisco</tooltip>
            <icon>http://server_name.cisco.com/logo.gif</icon>
            <url>http://www.cisco.com</url>
          </page>
          <page refresh="true" preload="false">
            <tooltip>Cisco Jabber for Windows</tooltip>
            <icon>http://server_name.cisco.com/jabber.png</icon>
            <url>http://www.cisco.com/en/US/prod/voicesw/ps6789/jabber_windows.html</url>
          </page>
          <page refresh="false" preload="false">
            <tooltip>Cisco Jabber</tooltip>
            <icon>http://server_name.cisco.com/jabber.png</icon>
            <url>http://www.cisco.com/web/products/voice/jabber.html</url>
          </page>
        </browser-plugin>
      </jabber-plugin-config>
    </Client>
    <Directory>
      <DirectoryServerType>EDI</DirectoryServerType>
      <BusinessPhone>aNonDefaultTelephoneNumberAttribute</BusinessPhone>
      <PhotoUriSubstitutionEnabled>true</PhotoUriSubstitutionEnabled>
      <PhotoUriSubstitutionToken>cn</PhotoUriSubstitutionToken>
      <PhotoUriWithToken>http://staffphoto.example.com/cn.jpg</PhotoUriWithToken>
    </Directory>
    <Policies>
      <Disallowed_File_Transfer_Types>.exe;.msi</Disallowed_File_Transfer_Types>
    </Policies>
</config>
```

ディレクトリ サービスの設定例

ここでは、Cisco Jabber for Windows がサポートする特定の統合シナリオについて説明し、テストに基づいた設定 XML の例を示します。 OpenLDAP、AD LDS、または ADAM とのディレクトリ統合を設定するには、サポートされるシナリオに設定 XML が従っていることを確認する必要があります。

OpenLDAP統合

Cisco Jabber for Windows は匿名バインドおよび認証済みバインドを使用して OpenLDAP との統合をサポートします。

匿名バインドの設定

ここでは、匿名バインドを使用して、OpenLDAP とのディレクトリ統合を構成するために設定する必要があるパラメータについて説明します。

パラメータ	値	説明
DirectoryServerType	EDI	LDAPディレクトリ サービスに接続します。
ConnectionType	1	ドメイン コントローラ サーバに接続します。

パラメータ	値	説明
PrimaryServerName	IP アドレス ホストネーム	プライマリ サーバを指定します。
UseWindowsCredentials	0	Microsoft Windows 認証情報を使用しないでください。
UseSecureConnection	1	ディレクトリ サービスとの接続に単純な認証を使用しないでください。
SearchBase1	ディレクトリ サービスまたは組織単位（OU）のルート	検索が開始されるディレクトリ サービスの場所を指定します。
UserAccountName	uid または cn などの固有識別子	ユーザ アカウント ID を保持するディレクトリ属性を指定します。
BaseFilter	ディレクトリ サービスが使用するオブジェクト クラス（inetOrgPerson など）。	検索ベースを参照するときにどのオブジェクトが返されるかを指定します。
PredictiveSearchFilter	uid または他の検索フィルタ	検索文字列の曖昧さを取り除き、ディレクトリ サービスの Ambiguous Name Resolution（ANR）用に設定された属性と一致する結果を返します。

次に、匿名バインドを使用した、OpenLDAP との統合のための設定 XML の例を示します。

```
<Directory>
  <DirectoryServerType>EDI</DirectoryServerType>
  <ConnectionType>1</ConnectionType>
  <PrimaryServerName>11.22.33.456</PrimaryServerName>
  <UseWindowsCredentials>0</UseWindowsCredentials>
  <UseSecureConnection>1</UseSecureConnection>
  <SearchBase1>ou=people,dc=cisco,dc=com</SearchBase1>
  <UserAccountName>uid</UserAccountName>
  <BaseFilter>(&amp;(objectClass=inetOrgPerson)</BaseFilter>
  <PredictiveSearchFilter>uid</PredictiveSearchFilter>
</Directory>
```

認証済みバインドの設定

ここでは、認証済みバインドを使用して、OpenLDAP とのディレクトリ統合を構成するために設定する必要があるパラメータについて説明します。

パラメータ	値	説明
DirectoryServerType	EDI	LDAP ディレクトリ サービスに接続します。
ConnectionType	1	ドメイン コントローラ サーバに接続します。

パラメータ	値	説明
PrimaryServerName	IP アドレス ホストネーム	プライマリ サーバを指定します。
UseWindowsCredentials	0	Microsoft Windows 認証情報を使用しないでください。
UseSecureConnection	0	ディレクトリ サービスとの接続に単純な認証を使用します。
SearchBase1	ディレクトリ サービスまたは組織単位（OU）のルート	検索が開始されるディレクトリ サービスの場所を指定します。
UserAccountName	uid または cn などの固有識別子	ユーザ アカウント ID を保持するディレクトリ属性を指定します。
BaseFilter	ディレクトリ サービスが使用するオブジェクト クラス（inetOrgPerson など）。	検索ベースを参照するときにどのオブジェクトが返されるかを指定します。
PredictiveSearchFilter	uid または他の検索フィルタ	検索文字列の曖昧さを取り除き、ディレクトリ サービスの Ambiguous Name Resolution（ANR）用に設定された属性と一致する結果を返します。
ConnectionUsername	ユーザ名	認証用のユーザ名を指定します。
ConnectionPassword	パスワード	認証用のパスワードを指定します。

次に、認証済みバインドを使用した、OpenLDAP との統合のための設定 XML の例を示します。

```
<Directory>
  <DirectoryServerType>EDI</DirectoryServerType>
  <ConnectionType>1</ConnectionType>
  <PrimaryServerName>11.22.33.456</PrimaryServerName>
  <UseWindowsCredentials>0</UseWindowsCredentials>
  <UseSecureConnection>0</UseSecureConnection>
  <SearchBase1>ou=people,dc=cisco,dc=com</SearchBase1>
  <UserAccountName>uid</UserAccountName>
  <BaseFilter>(&amp;(objectClass=inetOrgPerson)</BaseFilter>
  <PredictiveSearchFilter>uid</PredictiveSearchFilter>
  <ConnectionUsername>cn=administrator,dc=cisco,dc=com</ConnectionUsername>
  <ConnectionPassword>password</ConnectionPassword>
</Directory>
```

AD LDS統合

Cisco Jabber for Windows は、匿名バインドまたは Microsoft Windows プリンシパル ユーザとの認証を使用して、Active Directory ライトウェイト ディレクトリ サービス（AD LDS）または Active

Directory Application Mode; Active Directory アプリケーション モード（ADAM）との統合をサポートします。

匿名バインドの設定

ここでは、匿名バインドを使用して、AD LDS または ADAM とのディレクトリ統合を構成するために設定する必要があるパラメータについて説明します。

パラメータ	値	説明
DirectoryServerType	EDI	LDAP ディレクトリ サービスに接続します。
ConnectionType	1	ドメイン コントローラ サーバに接続します。
PrimaryServerName	IP アドレス ホストネーム	プライマリ サーバを指定します。
UseWindowsCredentials	0	Microsoft Windows 認証情報を使用しないでください。
UseSecureConnection	0	ディレクトリ サービスとの接続に単純な認証を使用します。
SearchBase1	ディレクトリ サービスまたは組織単位（OU）のルート	検索が開始されるディレクトリ サービスの場所を指定します。
UserAccountName	uid または cn などの固有識別子	ユーザ アカウント ID を保持するディレクトリ属性を指定します。
BaseFilter	ディレクトリ サービスが使用するオブジェクト クラス（inetOrgPerson など）。	検索ベースを参照するときにどのオブジェクトが返されるかを指定します。
PredictiveSearchFilter	uid または他の検索フィルタ	検索文字列の曖昧さを取り除き、ディレクトリ サービスの Ambiguous Name Resolution（ANR）用に設定された属性と一致する結果を返します。

次に、匿名バインドを使用した、AD LDS または ADAM との統合のための設定 XML の例を示します。

```
<Directory>
  <DirectoryServerType>EDI</DirectoryServerType>
  <PrimaryServerName>11.22.33.456</PrimaryServerName>
  <ServerPort1>50000</ServerPort1>
  <UseWindowsCredentials>0</UseWindowsCredentials>
  <UseSecureConnection>1</UseSecureConnection>
  <SearchBase1>dc=adam,dc=test</SearchBase1>
</Directory>
```

Windows のプリンシパル ユーザ認証

ここでは、Microsoft Windows プリンシパル ユーザとの認証を使用して、AD LDS または ADAM とのディレクトリ統合を構成するために設定する必要があるパラメータについて説明します。

パラメータ	値	説明
DirectoryServerType	EDI	LDAP ディレクトリ サービスに接続します。
PrimaryServerName	IP アドレス ホストネーム	プライマリ サーバを指定します。
ServerPort1	ポート番号	プライマリ サーバのポート番号を指定します。
UseWindowsCredentials	0	Microsoft Windows 認証情報を使用しないでください。
UseSecureConnection	1	ディレクトリ サービスとの接続に単純な認証を使用しないでください。
ConnectionUsername	ユーザ名	認証用のユーザ名を指定します。
ConnectionPassword	パスワード	認証用のパスワードを指定します。
UserAccountName	uid または cn などの固有識別子	ユーザ アカウント ID を保持するディレクトリ属性を指定します。
SearchBase1	ディレクトリ サービスまたは組織単位（OU）のルート	検索が開始されるディレクトリ サービスの場所を指定します。

次に、Microsoft Windows プリンシパル ユーザとの認証を使用して、AD LDS または ADAM との統合のための設定 XML の例を示します。

```
<Directory>
  <DirectoryServerType>EDI</DirectoryServerType>
  <PrimaryServerName>11.22.33.456</PrimaryServerName>
  <ServerPort1>50000</ServerPort1>
  <UseWindowsCredentials>0</UseWindowsCredentials>
  <UseSecureConnection>1</UseSecureConnection>
  <ConnectionUsername>cn=administrator,dc=cisco,dc=com</ConnectionUsername>
  <ConnectionPassword>password</ConnectionPassword>
  <UserAccountName>cn</UserAccountName>
  <SearchBase1>ou=people,dc=cisco,dc=com</SearchBase1>
</Directory>
```

AD LDS のプリンシパル ユーザ認証の設定

ここでは、AD LDS プリンシパル ユーザとの認証を使用して、AD LDS または ADAM とのディレクトリ統合を構成するために設定する必要があるパラメータについて説明します。

パラメータ	値	説明
DirectoryServerType	EDI	LDAP ディレクトリ サービスに接続します。
PrimaryServerName	IP アドレス ホストネーム	プライマリ サーバを指定します。
ServerPort1	ポート番号	プライマリ サーバのポート番号を指定します。
UseWindowsCredentials	0	Microsoft Windows 認証情報を使用しないでください。
UseSecureConnection	0	ディレクトリ サービスとの接続に単純な認証を使用します。
ConnectionUsername	ユーザ名	認証用のユーザ名を指定します。
ConnectionPassword	パスワード	認証用のパスワードを指定します。
UserAccountName	uid または cn などの固有識別子	ユーザ アカウント ID を保持するディレクトリ属性を指定します。
SearchBase1	ディレクトリ サービスまたは組織単位（OU）のルート	検索が開始されるディレクトリ サービスの場所を指定します。

次に、AD LDS プリンシパル ユーザとの認証を使用して、AD LDS または ADAM との統合のための設定 XML の例を示します。

```
<Directory>
  <DirectoryServerType>EDI</DirectoryServerType>
  <PrimaryServerName>11.22.33.456</PrimaryServerName>
  <ServerPort1>50000</ServerPort1>
  <UseWindowsCredentials>0</UseWindowsCredentials>
  <UseSecureConnection>0</UseSecureConnection>
  <ConnectionUsername>cn=administrator,dc=cisco,dc=com</ConnectionUsername>
  <ConnectionPassword>password</ConnectionPassword>
  <UserAccountName>cn</UserAccountName>
  <SearchBase1>ou=people,dc=cisco,dc=com</SearchBase1>
</Directory>
```

ダイヤル プランのマッピング

Cisco Unified Communications Manager でダイヤル プランのマッピングを設定し、Cisco Unified Communications Manager のダイヤリング ルールがディレクトリのダイヤリング ルールと一致するようにします。

ダイヤル プランのマッピングの設定に関する詳細については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルの「*Dial Rules Overview*」のトピックを参照してください。

アプリケーション ダイヤル ルール（Application Dial Rules）

アプリケーション ダイヤル ルールにより、ユーザがダイヤルする電話番号の桁数の追加および削除が自動的に行われます。アプリケーション ダイヤル ルールは、ユーザが Cisco Jabber for Windows からダイヤルする番号を操作します。

たとえば、7 桁の電話番号の先頭に自動的に 9 を追加して外線にアクセスするように、ダイヤル ルールを設定できます。

ディレクトリ検索ダイヤル ルール（Directory Lookup Dial Rules）

ディレクトリ検索ダイヤル ルールによって、発信者 ID の番号が、Cisco Jabber for Windows がディレクトリで検索できる番号に変換されます。 定義する各ディレクトリ検索ルールには、先頭の数字および番号の長さに基づいてどの数字を変換するかを指定します。

たとえば、10 桁の電話番号から市外局番と 2 桁の局番を自動的に削除するように、ディレクトリ検索ルールを作成できます。 このタイプのルールの例では、4089023139 を 23139 に変換します。

関連トピック

Dial Rules Overview, Cisco Unified Communciations Manager version 8.6(1)
Dial rules overview, Cisco Unified Communications Manager version 9.0(1)

Cisco Jabber for Windows へのダイヤル ルールの発行

Cisco Unified Communications Manager では、作成したダイヤル ルールを自動的に Cisco Jabber for Windows に発行しません。 ダイヤル ルールを発行するには、COP ファイルを展開する必要があります。 この COP ファイルによって、ダイヤル ルールが Cisco Unified Communications Manager データベースから TFTP サーバ上の XML ファイルにコピーされます。その後、 Cisco Jabber for Windows は、その XML ファイルをダウンロードしてダイヤル ルールにアクセスします。

（注） Cisco Unified Communications Manager のすべてのバージョン（8.6.x と 9.x を含む）では、Cisco Jabber for Windows へのダイヤル ルールの発行に COP ファイルが必要です。

はじめる前に

1. Cisco Unified Communications Manager でダイヤル ルールを作成します。
2. Cisco.com から Cisco Jabber for Windows 管理パッケージをダウンロードします。
3. `cmterm-csf-dialrule-wizard-0.1.cop.sgn` を Cisco Jabber for Windows 管理パッケージからファイル システムにコピーします。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified OS の管理（Cisco Unified OS Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ソフトウェア アップグレード（Software Upgrades）] > [インストール/アップグレード（Install/Upgrade）] の順に選択します。

ステップ 3 [ソフトウェア インストール/アップグレード（Software Installation/Upgrade）] ウィンドウで `cmterm-csf-dialrule-wizard-0.1.cop.sgn` の場所を指定します。

ステップ 4 [次へ（Next）] を選択します。

ステップ 5 [利用可能なソフトウェア（Available Software）] リストから `cmterm-csf-dialrule-wizard-0.1.cop.sgn` を選択します。

ステップ 6 [次へ（Next）] を選択し、[インストール（Install）] を選択します。

ステップ 7 TFTP サービスを再起動します。

ステップ 8 ブラウザでダイヤル ルールの XML ファイルを開き、TFTP サーバでそれらのファイルが利用可能であることを確認します。

a) `http://tftp_server_address:6970/CUPC/AppDialRules.xml` に移動します。

b) `http://tftp_server_address:6970/CUPC/DirLookupDialRules.xml` に移動します。

ブラウザで AppDialRules.xml と DirLookupDialRules.xml にアクセスできる場合、Cisco Jabber for Windows ではダイヤル ルールをダウンロードできます。

ステップ 9 TFTP サービスを実行する Cisco Unified Communications Manager のインスタンスごとに前述の手順を繰り返します。

次の作業

Cisco Unified Communications Manager のインスタンスごとに前述の手順を繰り返した後、Cisco Jabber for Windows を再起動します。

第 8 章

ハイブリッド クラウドベース導入の設定

ハイブリッド クラウドベース導入で Cisco Jabber for Windows を設定する方法について説明します。 設定できる設定パラメータを確認します。

ハイブリッドクラウドベースによる展開でのみ、設定ファイルを使用して Cisco Jabber for Windows を設定できます。 クラウドベースによる展開では、Cisco WebEx Administration Tool を使用して Cisco Jabber for Windows のすべての設定を実行します。

- Cisco Jabber for Windows の設定，141 ページ
- 設定ファイルの構造，146 ページ
- クライアント パラメータ，148 ページ
- オプション パラメータ，148 ページ
- プレゼンス パラメータ，149 ページ
- ポリシー パラメータ，151 ページ
- 認証情報の設定，153 ページ
- 問題レポートの設定，153 ページ
- カスタム埋め込みタブ，154 ページ
- 設定ファイルの例，161 ページ
- ダイヤル プランのマッピング，162 ページ

Cisco Jabber for Windows の設定

ハイブリッド クラウドベース導入で Cisco Jabber for Windows のカスタム設定を作成するには、次の作業を行います。

手順

ステップ 1 TFTP サーバを準備します。
ステップ 2 TFTP サーバにグローバル設定ファイルをアップロードします。
ステップ 3 （任意） グループ設定ファイルを作成し、TFTP サーバにアップロードします。
ステップ 4 TFTP サーバを再起動します。

TFTP サーバの準備

TFTP サーバを指定するには、次の手順を実行します。

重要 複数の TFTP サーバがある環境の場合、すべての TFTP サーバで設定ファイルを同じにする必要があります。

手順

ステップ 1 Cisco WebEx Administration Tool を開きます。
ステップ 2 [設定（Configuration）] タブを選択します。
ステップ 3 [追加サービス（Additional Services）] セクションで [Unified Communications] を選択します。
[Unified Communications] ウィンドウが開きます。
ステップ 4 [クラスタ（Clusters）] タブを選択します。
ステップ 5 適切なクラスタをリストから選択します。
[クラスタの編集（Edit Cluster）] ウィンドウが開きます。
ステップ 6 [Cisco Unified Communications Manager サーバの設定（Cisco Unified Communications Manager Server Settings）] セクションで [サーバの詳細設定（Advanced Server Settings）] を選択します。
ステップ 7 [TFTP サーバ（TFTP Server）] フィールドでプライマリ TFTP サーバの IP アドレスを指定します。
ステップ 8 [バックアップ サーバ 1（Backup Server #1）] フィールドと [バックアップ サーバ 2（Backup Server #2）] フィールドでバックアップ TFTP サーバの IP アドレスを指定します。
ステップ 9 [保存（Save）] を選択します。
[クラスタの編集（Edit Cluster）] ウィンドウが閉じます。
ステップ 10 [Unified Communications] ウィンドウで [保存（Save）] を選択します。

これで、Cisco Jabber for Windows によって TFTP サーバ上でホストされている設定ファイルが取得されるようになります。

グローバル設定の作成

このトピックでは、グローバル設定ファイルを作成するための手順の概要とTFTPサーバ上でファイルをホストする方法について説明します。

手順

ステップ1 任意のテキストエディタを使用して`jabber-config.xml`という名前のファイルを作成します。

メモ
- ファイル名には小文字を使用してください。
- UTF-8 エンコードを使用してください。

ステップ2 `jabber-config.xml` で必須の設定パラメータを定義します。

重要 設定ファイルの構造が有効でない場合、Cisco Jabber for Windows は定義した設定を読み取ることができません。設定ファイルで必要な構造の例については、この章の XML の例を参照してください。

ステップ3 TFTP サーバ上で `jabber-config.xml` をホストします。

a) Cisco Unified Communications Manager の [Cisco Unified OS の管理（Cisco Unified OS Administration）] インターフェイスを開きます。
b) [ソフトウェアのアップグレード（Software Upgrades）] > [TFTP ファイル管理（TFTP File Management）] を選択します。
c) [ファイルのアップロード（Upload File）] を選択します。
d) [ファイルのアップロード（Upload File）] セクションで [参照（Browse）] を選択します。
e) ファイル システムにある `jabber-config.xml` を選択します。
f) [ファイルのアップロード（Upload File）] セクションの [ディレクトリ（Directory）] テキストボックスに値を指定しないでください。
TFTPサーバのデフォルトディレクトリにある`jabber-config.xml`をホストするには、[ディレクトリ（Directory）] テキスト ボックスの値をそのままにします。
デフォルトディレクトリ以外のディレクトリにある`jabber-config.xml`をホストする場合は、展開時にパスとファイル名をコマンドラインの引数（TFTP_FILE_NAME）の値として指定する必要があります。 詳細については、「*Cisco Jabber for Windows* のインストール」の章を参照してください。
g) [ファイルのアップロード（Upload File）] を選択します。

グループ設定の作成

Cisco Jabber for Windows では、Cisco Unified Communications Manager の CSF デバイス構成からグループ設定ファイルの名前を取得します。

制約事項 ユーザ用に CSF デバイスを設定しない場合、グループ設定をそれらのユーザに適用することはできません。

はじめる前に

Cisco Unified Communications Manager バージョン 8.6.x 以降で次の手順を実行する必要があります。

1. Cisco.com から Cisco Jabber for Windows 管理パッケージをダウンロードします。
2. `ciscocm.addcsfsupportfield.cop` を Cisco Jabber for Windows 管理パッケージからファイル システムにコピーします。
3. Cisco Unified Communications Manager に `ciscocm.addcsfsupportfield.cop` を展開します。

   COP ファイルを展開する手順については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルを参照してください。

[シスコ サポート フィールド（Cisco Support Field）] フィールドは、Cisco Unified Communications Manager の [電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウにある [デスクトップ クライアントの設定（Desktop Client Settings）] セクションの CSF デバイスに使用できます。

手順

ステップ 1 任意のテキスト エディタを使用して XML グループ設定ファイルを作成します。
グループ設定ファイルには、適切な名前を指定できます（例：`jabber-groupa-config.xml`）。

メモ
- ファイル名には小文字を使用してください。
- UTF-8 エンコードを使用してください。

ステップ 2 グループ設定ファイルで必須の設定パラメータを定義します。

重要 設定ファイルの構造が有効でない場合、Cisco Jabber for Windows は定義した設定を読み取ることができません。 設定ファイルで必要な構造の例については、この章の XML の例を参照してください。

ステップ 3 TFTP サーバ上でグループ設定ファイルをホストします。

a) Cisco Unified Communications Manager の [Cisco Unified OS の管理（Cisco Unified OS Administration）] インターフェイスを開きます。
b) [ソフトウェアのアップグレード（Software Upgrades）] > [TFTP ファイル管理（TFTP File Management）] を選択します。
c) [ファイルのアップロード（Upload File）] を選択します。
d) [ファイルのアップロード（Upload File）] セクションで [参照（Browse）] を選択します。
e) ファイル システムにあるグループ設定ファイルを選択します。

f) [ファイルのアップロード（Upload File）] セクションの [ディレクトリ（Directory）] テキストボックスに値を指定しないでください。
[ディレクトリ（Directory）]テキストボックスに値を指定する場合には、その値をメモしておきます。 Cisco Unified Communications Manager の CSF デバイス構成でグループ設定ファイルを指定する際は、パスとファイル名を指定する必要があります。

g) [ファイルのアップロード（Upload File）] を選択します。

ステップ 4 [シスコ サポート フィールド（Cisco Support Field）] フィールドにグループ設定ファイルの名前を指定します。

ワンポイント アドバイス 複数のユーザに対して一括管理ツールを使用します。

a) [Cisco Unified CM の管理（Cisco Unified CM Administration）] インターフェイスを開きます。
b) [デバイス（Device）] > [電話（Phone）] の順に選択します。
c) グループ設定ファイルを適用する適切な CSF デバイスを検索して選択します。
d) [電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウの [プロダクト固有の設定（Product Specific Configuration Layout）] セクションを見つけます。
e) [デスクトップ クライアントの設定（Desktop Client Settings）] セクションを見つけます。
f) [シスコ サポート フィールド（Cisco Support Field）] フィールドに `configurationfile=group_configuration_file_name.xml` を入力します（例：`configurationfile=jabber-groupa-config.xml`）。

（注） [シスコ サポート フィールド（Cisco Support Field）] フィールドで複数のエントリを区切るには、セミコロンを使用します。 ただし、複数のグループ設定ファイルを指定しないでください。 複数のグループ設定ファイルを指定した場合、Cisco Jabber for Windows では利用可能な最初のグループ設定を使用します。

TFTP サーバ上でデフォルト ディレクトリ以外の場所にあるグループ設定ファイルをホストする場合には、[シスコ サポート フィールド（Cisco Support Field）] フィールドにパスとファイル名を指定する必要があります（例：`configurationfile=/customFolder/jabber-groupa-config.xml`）。

g) [保存（Save）] を選択します。

TFTP サーバの再起動

Cisco Jabber for Windows が設定ファイルにアクセスする前に、TFTP サーバを再起動する必要があります。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager の [Cisco Unified サービスアビリティ（Cisco Unified Serviceability）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ツール（Tools）] > [コントロールセンタの機能サービス（Control Center - Feature Services）] を選択します。

ステップ 3 [CM サービス（CM Services）] セクションから [Cisco Tftp] を選択します。

ステップ 4 [リスタート（Restart）] を選択します。
再起動の確認を求めるウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [OK] を選択します。
「Cisco Tftp サービスの再起動操作が成功しました（Cisco Tftp Service Restart Operation was Successful）」というステータスが表示されます。

ステップ 6 [更新（Refresh）] を選択し、Cisco Tftp サービスが正常に起動していることを確認します。

次の作業

設定ファイルが TFTP サーバで使用できることを確認するには、任意のブラウザで設定ファイルを開きます。 通常、`http://tftp_server_address:6970/jabber-config.xml` の URL にあるグローバル設定ファイルにアクセスできます。

設定ファイルの構造

XML 構造

次の XML スニペットは、設定ファイルの基本構造を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<config version="1.0">
 <Client>
  <parameter_name>value</parameter_name>
 </Client>
 <Options>
  <parameter_name>value</parameter_name>
 </Options>
 <Presence>
  <parameter_name>value</parameter_name>
 </Presence>
 <Policies>
  <parameter_name>value</parameter_name>
 </Policies>
</config>
```

次の表では、設定ファイルの基本構造の要素について説明します。

要素	説明
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>	XML 宣言。 設定ファイルは、標準的な XML 形式に準拠する必要があります。

要素	説明
config	使用可能な設定グループを含む、設定 XML のルート要素。 ルート要素には、バージョン属性も含める必要があります。
Client	Cisco Jabber for Windows の設定パラメータを含む親要素。 詳細については、クライアント パラメータを参照してください。
Options	ユーザ オプションの設定パラメータを含む親要素。 詳細については、オプション パラメータを参照してください。
Presence	プレゼンス オプションの設定パラメータを含む親要素。 詳細については、プレゼンス パラメータを参照してください。
Policies	ポリシーの設定パラメータを含む親要素。 詳細については、ポリシー パラメータを参照してください。

設定ファイルの例

次に、ハイブリッド クラウドベースによる展開での Cisco Jabber for Windows の設定ファイルの例を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<config version="1.0">
 <Client>
  <PrtLogServerUrl>http://server_name.cisco.com/jabber/prt/my_script.php</PrtLogServerUrl>
 </Client>
 <Options>
  <Set_Status_Away_On_Inactive>true</Set_Status_Away_On_Inactive>
  <Set_Status_Inactive_Timeout>15</Set_Status_Inactive_Timeout>
  <Set_Status_Away_On_Lock_OS>true</Set_Status_Away_On_Lock_OS>
 </Options>
 <Presence>
  <LoginResource>wbxconnect</LoginResource>
 </Presence>
 <Policies>
  <Video_Disabled>false</Video_Disabled>
 </Policies>
</config>
```

上記の設定ファイルの例では、問題レポートを送信するためのスクリプトのURLを指定し、ユーザがビデオ コールを発信できないことを指定します。

クライアント パラメータ

次の表に、Client要素内で指定できるパラメータを示します。

パラメータ	値	説明
PrtLogServerUrl	URL	問題レポートを送信するためのカスタム スクリプトを指定します。 問題レポートの詳細については、「問題レポートの設定」を参照してください。
jabber-plugin-config	プラグイン定義	プラグイン設定要素が含まれます。 カスタム埋め込みタブを定義し、Cisco Jabber for Windows の HTML コンテンツを表示できます。 詳細については、カスタム埋め込みタブを参照してください。

クライアント設定例

次に、ハイブリッド クラウドベース導入でのクライアント設定例を示します。

```
<Client>
 <PrtLogServerUrl>http://server_name.cisco.com/jabber/prt/my_script.php</PrtLogServerUrl>
</Client>
```

オプション パラメータ

オプションのパラメータを使用すると、Cisco Jabber for Windows の [オプション（Options）] ウィンドウの特定の設定に対してデフォルト値を変更できます。また、ユーザは[オプション（Options）] ウィンドウで独自の値を指定し、設定ファイルで設定したデフォルトを上書きすることもできます。

次の表に、Options要素内で指定できるパラメータを示します。

パラメータ	値	説明
Set_Status_Away_On_Inactive	true false	ユーザが非アクティブになったときにアベイラビリティ ステータスを [退席中（Away）] に変更するかどうかを指定します。 デフォルト値は true です。
Set_Status_Inactive_Timeout	分単位での時間	ユーザが非アクティブになった場合にアベイラビリティ ステータスが [退席中（Away）] に変更される前の時間を分単位で指定します。 デフォルト値は 15 です。

パラメータ	値	説明
Set_Status_Away_On_Lock_OS	true false	ユーザがコンピュータをロックしたときにアベイラビリティ ステータスを [退席中（Away）] に変更するかどうかを指定します。 デフォルト値は true です。
Start_Calls_With	ビデオ 音声	ユーザが送信するコールがビデオで始まるかどうかを指定します。 **ビデオ** コールは常に音声およびビデオで始まります。 これがデフォルト値です。 **音声** コールは常に音声のみで始まります。
Start_Client_On_Start_OS	true false	ユーザがコンピュータを起動したときに Cisco Jabber for Windows が自動的に起動するかどうかを指定します。 デフォルト値は false です。

オプションの設定例

次に、オプションの設定例を示します。

```
<Options>
 <Set_Status_Away_On_Inactive>true</Set_Status_Away_On_Inactive>
 <Set_Status_Inactive_Timeout>15</Set_Status_Inactive_Timeout>
 <Set_Status_Away_On_Lock_OS>true</Set_Status_Away_On_Lock_OS>
 <Start_Calls_With>video</Start_Calls_With>
 <Start_Client_On_Start_OS>false</Start_Client_On_Start_OS>
</Options>
```

プレゼンス パラメータ

次の表に、Presence要素内で指定できるパラメータを示します。

パラメータ	値	説明
LoginResource	multiResource wbxconnect mutualExclusion	ユーザが複数のクライアント インスタンスに同時にログインできるかどうかを指定します。 デフォルトで、Cisco Jabber for Windows は Cisco Jabber の複数インスタンスへのログインを許可します。 デフォルトの動作を変更したり、インストール設定を上書きするには、次の値のいずれかを設定します。 **multiResource** ユーザは、Cisco Jabber の複数インスタンスに一度にログインできます。 これがデフォルト値です。 **wbxconnect** ユーザは一度に 1 つの Cisco Jabber for Windows インスタンスにログインできます。 この設定は、ユーザの JID に wbxconnect サフィックスを付けます。 ユーザは、wbxconnect サフィックスを使用する他の Cisco Jabber クライアントにログインできません。 次のコマンドライン引数を指定して、インストール中にこの値を設定できます：LOGIN_RESOURCE。 詳細については、「コマンドライン引数」のトピックを参照してください。 **mutualExclusion** ユーザは一度に 1 つの Cisco Jabber for Windows インスタンスにログインできます。 Cisco Jabber for Windows の各インスタンスが、ユーザの JID に固有のサフィックスを付加します。 これにより、Cisco Jabber for Windows は単一インスタンスに制限されます。 ただし、ユーザは、他の Cisco Jabber クライアントに同時にログインできます。 次のコマンドライン引数を指定して、インストール中にこの値を設定できます：LOGIN_RESOURCE。 詳細については、「コマンドライン引数」のトピックを参照してください。

プレゼンスの設定例

次に、プレゼンスの設定例を示します。

```
<Presence>
 <LoginResource>wbxconnect</LoginResource>
</Presence>
```

関連トピック

コマンドライン引数, （61 ページ）
コマンドライン引数, （61 ページ）

ポリシー パラメータ

次の表に、Policies要素内で指定できるパラメータを示します。

パラメータ	値	説明
Video_Disabled	true false	ユーザがビデオ コールを発信できるかどうかを指定します。 **true** ユーザはビデオ コールを発信できません。 **false** ユーザはビデオ コールを発信できます。 これがデフォルト値です。

パラメータ	値	説明
User_Defined_Remote_Destination	true false	ユーザがクライアントインターフェイスを介してリモート接続先を追加、編集、および削除できるかどうかを指定します。 **true** ユーザはリモート接続先を追加、編集、および削除できます。 **false** ユーザはリモート接続先を追加、編集、および削除できません。 これがデフォルト値です。 Cisco Jabber for Windows は各ユーザのデバイス リストを Cisco Unified Communications Manager から取得します。 そのデバイス リストにソフトフォン デバイスまたはデスクフォン デバイスが含まれている場合、Cisco Jabber for Windows は自動的にユーザがクライアント インターフェイスを介してリモート接続先を追加、編集、削除することを許可します。 そのデバイス リストに CTI リモート デバイスだけが含まれている場合、Cisco Jabber for Windows はユーザがクライアントインターフェイスを介してリモート接続先を追加、編集、削除することを許可しません。 CTI リモート デバイスだけを使用してユーザをプロビジョニングする場合は、コンフィギュレーション ファイルでこのパラメータを指定する必要があります。 ソフトフォン デバイスまたはデスクフォン デバイスとともに CTI リモート デバイスを持つユーザをプロビジョニングする場合は、このパラメータは必要ではありません。 詳細については、『*Cisco Jabber for Windows Server Setup Guide*』の*Cisco Jabber for Windows* の拡張および接続のトピックを参照してください。

ポリシーの設定例

次に、ハイブリッド クラウドベースによる展開でのポリシーの設定例を示します。

```
<Policies>
 <Video_Disabled>true</Video_Disabled>
</Policies>
```

関連トピック

Using policy actions available in Cisco WebEx

認証情報の設定

ボイスメールの認証情報パラメータ

設定パラメータを指定して、Cisco Unity Connection で指定されているボイスメール サービスの認証情報を使用することができます。 この設定パラメータを指定すると、Cisco Jabber for Windows でサインインの認証情報を使用して、Cisco Unity Connection のボイスメール サービスにアクセスします。 このため、Cisco Jabber for Windows ユーザはクライアントでボイスメール サービス用のクレデンシャルを入力する必要がありません。

次の表に、ボイスメール サービスの認証情報に指定できるパラメータを示します。

親要素	パラメータ	値	説明
ボイスメール	VoicemailService_UseCredentialsFrom	電話	Cisco Jabber for Windows でサインインの認証情報を使用して Cisco Unity Connection のボイスメール サービスにアクセスすることを指定します。 サインインの認証情報とボイスメール サービスの認証情報が同じであることを確認します。 このパラメータを設定した場合、ユーザは Cisco Jabber for Windows でボイスメール サービスの認証情報を指定することはできません。 （注） このパラメータは、ハイブリッド クラウドベースによる展開でのみ設定できます。 オンプレミスによる展開ではこのパラメータは有効ではありません。

認証情報の設定例

次に、ハイブリッド クラウドベースによる展開での認証情報の設定例を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<config version="1.0">
  <Voicemail>
    <VoicemailService_UseCredentialsFrom>phone</VoicemailService_UseCredentialsFrom>
  </Voicemail>
</config>
```

問題レポートの設定

問題レポートをセットアップすると、ユーザは Cisco Jabber for Windows の使用中に発生した問題の概要を送信できるようになります。 次のように、問題レポートを送信する方法は 2 つあります。

- Cisco Jabber for Windows を介して問題レポートを直接送信する。
- 問題レポートをローカルに保存し、後でアップロードする。

Cisco Jabber for Windows では、HTTP POST メソッドを使用して問題レポートを送信します。 POST 要求を受け入れるカスタム スクリプトを作成し、設定パラメータとして HTTP サーバ 上のスクリプトの URL を指定します。 ユーザは問題レポートをローカルに保存できるため、ユーザが問題レポートをアップロードできるようにするフォームを含む HTML ページを作成する必要もあります。

はじめる前に

環境の準備を行うには、次の手順を実行します。

1. HTTP サーバ をインストールおよび設定します。
2. HTTP POST 要求を受け入れるカスタム スクリプトを作成します。
3. HTTP サーバ 上でホストする HTML ページを作成し、ユーザが、ローカルに保存されている問題レポートをアップロードできるようにします。 HTML ページには、`.ZIP` アーカイブとして保存された問題レポートを受け入れ、カスタム スクリプトを使用して問題レポートを送信するアクションが含まれているフォームがあります。

次に、問題レポートを受け入れるフォームの例を示します。

```
<form name="uploadPrt" action="http://server_name.com/scripts/UploadPrt.php" method="post"
 enctype="multipart/form-data">
 <input type="file" name="zipFileName" id="zipFileName" /><br />
 <input type="submit" name="submitBtn" id="submitBtn" value="Upload File" />
</form>
```

手順

ステップ 1 HTTP サーバ 上でカスタム スクリプトをホストします。

ステップ 2 設定ファイルの PrtLogServerUrl パラメータの値としてスクリプトの URL を指定します。

カスタム埋め込みタブ

カスタム埋め込みタブには、Microsoft Internet Explorer レンダリング エンジンを使用した Cisco Jabber for Windows の HTML コンテンツが表示されます。

Cisco Jabber for Windows では、Microsoft Internet Explorer でサポートされているコンテンツを表示するために、最大 5 つのカスタム埋め込みタブをサポートしています。 たとえば、カスタム埋め込みタブを作成して、会社のポリシーの詳細や HTTP サーバ上でホストされている XML ファイルを提供する Web ページを表示します。

次の XML の抜粋は、Cisco Jabber for Windows 設定ファイルのカスタム埋め込みファイルの基本構造を示します。

```
<Client>
 <jabber-plugin-config>
  <browser-plugin>
```

```
   <page refresh="" preload="">
    <tooltip></tooltip>
    <icon></icon>
    <url></url>
   </page>
  </browser-plugin>
 </jabber-plugin-config>
</Client>
```

次の表に、カスタム埋め込みタブを定義するための要素および属性を示します。

パラメータ	値	説明
browser-plugin	カスタム タブのすべての定義	カスタム埋め込みタブのすべての定義が含まれます。
page	カスタム タブの 1 つの定義	カスタム埋め込みタブの 1 つの定義が含まれます。
refresh	true false	埋め込みタブのコンテンツが更新されるタイミングを制御します。 次のいずれかの値を指定します。 **true** ユーザが埋め込みタブを選択するたびにコンテンツが更新されます。 **false** ユーザが Cisco Jabber for Windows を再起動したり、サインアウトして再度サインインしたりした場合にのみコンテンツが更新されます。 これがデフォルト値です。 このパラメータはオプションです。 refresh は page 要素の属性です。

パラメータ	値	説明
preload	true false	埋め込みタブのコンテンツがロードされるタイミングを制御します。 次のいずれかの値を指定します。 **true** Cisco Jabber for Windows が起動すると、コンテンツがロードされます。 **false** ユーザが埋め込みタブを選択すると、コンテンツがロードされます。 これがデフォルト値です。 このパラメータはオプションです。 preload は page 要素の属性です。
tooltip	Unicode 文字の文字列	ユーザが埋め込みタブ上にカーソルを移動したときに表示されるテキストを定義します。 このパラメータはオプションです。

パラメータ	値	説明
icon	URL	埋め込みタブのアイコンの位置を指定します。ローカル アイコンまたはホステッド アイコンを指定できます。 **ローカル アイコン** file://*path*/*icon_name* のようにローカル アイコンの URL を指定します。 例：<icon>file://c:/icons/icon.png</icon> **ホステッド アイコン** http://*full_path*/*icon_name* のようにホステッド アイコンの URL を指定します。 例： <icon>http://*domain*/icons/icon.png</icon> Cisco Jabber for Windows では、Microsoft Internet Explorer で描画可能なアイコン（.JPG、.PNG、.GIF など）をサポートしています。 カスタム アイコンの寸法および形式については、このトピックの「カスタム アイコン」の項を参照してください。 このパラメータはオプションです。 アイコンを指定しない場合、あるいは指定したアイコンが正常にロードされない場合は、Cisco Jabber for Windows によってデフォルト アイコンがロードされます。

パラメータ	値	説明
url	URL	埋め込みタブに表示される HTML ページ（つまり、他のコンテンツ）のURLを指定します。 ${UserID} トークンを url パラメータの値の一部として指定できます。 詳細については、このトピックの「*UserID* トークン」の項を参照してください。 Cisco Jabber for Windows では、Internet Explorer レンダリング エンジンを使用して埋め込みタブのコンテンツを表示します。 このため、Internet Explorer でサポートされているコンテンツの URL を指定できます。 （注） Cisco Jabber for Windows では、Internet Explorer バージョン 9 またはそれ以前のバージョンをサポートしています。それ以降のバージョンの Internet Explorer をワークステーションにインストールしている場合は、Cisco Jabber for Windows では Internet Explorer をバージョン 9 モードで使用します。 このパラメータは必須です。

カスタム アイコン

カスタム埋め込みタブのアイコンには、1 つのイメージ ファイル内の各状態に対して 10 個のフレームがあります。

各フレームの寸法は 20 x 20 ピクセルです。 各フレーム間に 1 ピクセルのパディングを設定してください。 1 ピクセルのパディングにより、実際に使用できるアイコンの領域は 19 x 19 ピクセルになります。

イメージの背景色は透明です。

各フレームは、次の順序で下記の状態のいずれかを表します。

1. 標準
2. 押されている
3. ホバー
4. 無効
5. フォーカス済み
6. 選択済みおよび標準
7. 選択済みおよび押されている
8. 選択済みおよびホバー

9 選択済みおよびディセーブル
10 選択済みおよびフォーカス済み

次に、カスタム埋め込みタブのアイコンの例を示します。

プロトコル ハンドラ

Cisco Jabber for Windows は、次のプロトコル ハンドラをオペレーティング システムに登録し、クリックツーコールまたはクリックツー IM 機能を Web ブラウザやその他のアプリケーションから使用できるようにします。

- XMPP:

  Cisco Jabber for Windows でインスタント メッセージを開始し、チャット ウィンドウを開きます。

- IM:

  Cisco Jabber for Windows でインスタント メッセージを開始し、チャット ウィンドウを開きます。

- TEL:

  Cisco Jabber for Windows との通話を開始します。

HTML ページに、href 属性の一部としてプロトコル ハンドラを追加します。 HTML ページに表示されるハイパーリンクをクリックすると、Cisco Jabber for Windows はプロトコルに対して適切な処理を実行します。

次に、HTML ページの TEL: および IM: プロトコル ハンドラの例を示します。

```
<html>
  <body>
    <a href="TEL:1234">Call 1234</a><br/>
    <a href="IM:msmith@domain">Send an instant message to Mary Smith</a>
  </body>
</html>
```

前の例では、ユーザがハイパーリンクをクリックして 1234 に発信すると、Cisco Jabber for Windows はその電話番号への音声コールを開始します。 ユーザが Mary Smith にインスタント メッセージを送信するハイパーリンクをクリックすると、Cisco Jabber for Windows は Mary とのチャット ウィンドウを開きます。

次に、HTML ページの XMPP: プロトコル ハンドラを使用したグループ チャットの例を示します。

```
<html>
  <body>
    <a href="XMPP:msmith@domain;amckenzi@domain">Create a group chat with Mary Smith and
Adam McKenzie</a>
  </body>
</html>
```

前の例では、ユーザが Mary Smith および Adam McKenzie とのグループ チャットを作成するハイパーリンクをクリックすると、Cisco Jabber for Windows は Mary および Adam とのグループ チャット ウィンドウを開きます。

ヒント　XMPP: および IM: ハンドラに連絡先リストを追加し、グループ チャットを作成します。 連絡先を区切るには、セミコロンを使用します。 次に、例を示します。
`XMPP:user_a@domain.com;user_b@domain.com;user_c@domain.com;user_d@domain.com`

UserID トークン

${UserID} トークンを url パラメータの値の一部として指定できます。 ユーザがサインインすると、Cisco Jabber for Windows により、${UserID} トークンがログインしたユーザのユーザ名に置き換えられます。

たとえば、カスタム埋め込みタブで次の内容を指定します。
```
<url>www.cisco.com/${UserID}/profile</url>
```
ユーザ名 msmith の Mary Smith という名前のユーザがログインします。その後、 Cisco Jabber for Windows により、${UserID} トークンが次のように Mary のユーザ名に置き換えられます。
```
<url>www.cisco.com/msmith/profile</url>
```

ヒント　また、クエリー文字列に ${UserID} トークンを指定することもできます（例：`www.cisco.com/mywebapp.op?url=${UserID}`）。

カスタム埋め込みタブの例

次に、2 つのカスタム埋め込みタブの例を示します。

```
<jabber-plugin-config>
 <browser-plugin>
  <page refresh="false" preload="false">
   <tooltip>Cisco WebEx</tooltip>
   <icon>http://cisco.com/icon.png</icon>
   <url>http://www.webex.com/</url>
  </page>
  <page refresh="true">
   <tooltip>Cisco</tooltip>
   <icon>http://cisco.com/icon.png</icon>
   <url>http://www.cisco.com/</url>
  </page>
 </browser-plugin>
</jabber-plugin-config>
```

JavaScript 通知

カスタム埋め込みタブに JavaScript 通知を実装できます。 このトピックでは、JavaScript 通知用に Cisco Jabber for Windows が提供するメソッドについて説明します。 また、通知のテストに使用できる JavaScript フォームの例についても説明します。 非同期サーバ コールに対する JavaScript 通知の実装方法と他のカスタム実装に関する説明は、このマニュアルでは取り扱いません。 詳細については、該当する JavaScript のマニュアルを参照してください。

通知メソッド

Cisco Jabber for Windows には、JavaScript 通知の次のメソッドを提供するインターフェイスが含まれています。

SetNotificationBadge

JavaScript で Cisco Jabber for Windows からこのメソッドを呼び出します。 このメソッドにより、空または 1 ～ 999 の数字である文字列値が取得されます。

onPageSelected

Cisco Jabber for Windows は、ユーザがカスタム組み込みタブを選択するとこのメソッドを呼び出します。

onPageDeselected

Cisco Jabber for Windows は、ユーザが別のタブを選択するとこのメソッドを呼び出します。

JavaScript の例

次に、1 ～ 999 の数字を入力できるフォームを表示するために JavaScript を使用する HTML の例を示します。

```
<html>
  <head>
    <script type="text/javascript">
      function onPageSelected()
      {
        window.external.SetNotificationBadge("");
      }
      function onPageDeselected()
      {
        window.external.SetNotificationBadge("");
      }
      function addBadge()
      {
        var cell = document.getElementById("badgeid");
        window.external.SetNotificationBadge(cell.value);
      }
    </script>
  </head>
  <body>
    <form onsubmit="addBadge()" >
    Badge: <input type="text" name="value" id="badgeid"/><br />
    <input type="submit" value="Submit">
    </form>
  </body>
</html>
```

この例の JavaScript フォームをテストするには、前述の例を HTML ページにコピーしてから、そのページをカスタム埋め込みタブとして指定します。

設定ファイルの例

次に、Cisco Jabber for Windows のハイブリッド クラウドベース導入の設定ファイルの例を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<config version="1.0">
  <Client>
    <PrtLogServerUrl>http://server_name.domain.com/prt_script.php</PrtLogServerUrl>
    <jabber-plugin-config>
      <browser-plugin>
        <page refresh="false" preload="true">
          <tooltip>Cisco WebEx</tooltip>
          <icon>http://server_name.cisco.com/icon.png</icon>
```

```
        <url>http://www.webex.com</url>
      </page>
      <page refresh="true" preload="true">
        <tooltip>Cisco</tooltip>
        <icon>http://server_name.cisco.com/logo.gif</icon>
        <url>http://www.cisco.com</url>
      </page>
      <page refresh="true" preload="false">
        <tooltip>Cisco Jabber for Windows</tooltip>
        <icon>http://server_name.cisco.com/jabber.png</icon>
        <url>http://www.cisco.com/en/US/prod/voicesw/ps6789/jabber_windows.html</url>
      </page>
      <page refresh="false" preload="false">
        <tooltip>Cisco Jabber</tooltip>
        <icon>http://server_name.cisco.com/jabber.png</icon>
        <url>http://www.cisco.com/web/products/voice/jabber.html</url>
      </page>
    </browser-plugin>
  </jabber-plugin-config>
 </Client>
</config>
```

ダイヤル プランのマッピング

Cisco Unified Communications Manager でダイヤル プランのマッピングを設定し、Cisco Unified Communications Manager のダイヤリング ルールがディレクトリのダイヤリング ルールと一致するようにします。

ダイヤルプランのマッピングの設定に関する詳細については、Cisco Unified Communications Manager のマニュアルの「*Dial Rules Overview*」のトピックを参照してください。

アプリケーション ダイヤル ルール（Application Dial Rules）

アプリケーションダイヤルルールにより、ユーザがダイヤルする電話番号の桁数の追加および削除が自動的に行われます。 アプリケーション ダイヤル ルールは、ユーザが Cisco Jabber for Windows からダイヤルする番号を操作します。

たとえば、7 桁の電話番号の先頭に自動的に 9 を追加して外線にアクセスするように、ダイヤルルールを設定できます。

ディレクトリ検索ダイヤル ルール（Directory Lookup Dial Rules）

ディレクトリ検索ダイヤル ルールによって、発信者 ID の番号が、Cisco Jabber for Windows がディレクトリで検索できる番号に変換されます。 定義する各ディレクトリ検索ルールには、先頭の数字および番号の長さに基づいてどの数字を変換するかを指定します。

たとえば、10 桁の電話番号から市外局番と 2 桁の局番を自動的に削除するように、ディレクトリ検索ルールを作成できます。 このタイプのルールの例では、4089023139 を 23139 に変換します。

関連トピック

Dial Rules Overview, Cisco Unified Communciations Manager version 8.6(1)
Dial rules overview, Cisco Unified Communications Manager version 9.0(1)

Cisco Jabber for Windows へのダイヤル ルールの発行

Cisco Unified Communications Manager では、作成したダイヤル ルールを自動的に Cisco Jabber for Windows に発行しません。 ダイヤル ルールを発行するには、COP ファイルを展開する必要があります。 この COP ファイルによって、ダイヤル ルールが Cisco Unified Communications Manager データベースから TFTP サーバ上の XML ファイルにコピーされます。その後、 Cisco Jabber for Windows は、その XML ファイルをダウンロードしてダイヤル ルールにアクセスします。

（注） Cisco Unified Communications Manager のすべてのバージョン（8.6.x と 9.x を含む）では、Cisco Jabber for Windows へのダイヤル ルールの発行に COP ファイルが必要です。

はじめる前に

1. Cisco Unified Communications Manager でダイヤル ルールを作成します。
2. Cisco.com から Cisco Jabber for Windows 管理パッケージをダウンロードします。
3. `cmterm-csf-dialrule-wizard-0.1.cop.sgn` を Cisco Jabber for Windows 管理パッケージからファイル システムにコピーします。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified OS の管理（Cisco Unified OS Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [ソフトウェア アップグレード（Software Upgrades）] > [インストール/アップグレード（Install/Upgrade）] の順に選択します。

ステップ 3 [ソフトウェア インストール/アップグレード（Software Installation/Upgrade）] ウィンドウで `cmterm-csf-dialrule-wizard-0.1.cop.sgn` の場所を指定します。

ステップ 4 [次へ（Next）] を選択します。

ステップ 5 [利用可能なソフトウェア（Available Software）] リストから `cmterm-csf-dialrule-wizard-0.1.cop.sgn` を選択します。

ステップ 6 [次へ（Next）] を選択し、[インストール（Install）] を選択します。

ステップ 7 TFTP サービスを再起動します。

ステップ 8 ブラウザでダイヤル ルールの XML ファイルを開き、TFTP サーバでそれらのファイルが利用可能であることを確認します。

a) `http://tftp_server_address:6970/CUPC/AppDialRules.xml` に移動します。

b) `http://tftp_server_address:6970/CUPC/DirLookupDialRules.xml` に移動します。

ブラウザで AppDialRules.xml と DirLookupDialRules.xml にアクセスできる場合、Cisco Jabber for Windows ではダイヤル ルールをダウンロードできます。

ステップ 9 TFTP サービスを実行する Cisco Unified Communications Manager のインスタンスごとに前述の手順を繰り返します。

次の作業

Cisco Unified Communications Manager のインスタンスごとに前述の手順を繰り返した後、Cisco Jabber for Windows を再起動します。

第 9 章

Cisco Jabber for Windows のカスタマイズ

インストール後にカスタマイズできる機能を確認します。 組織の要件を満たすようにこれらの機能をカスタマイズする方法について学習します。

- カスタム顔文字の追加, 165 ページ

カスタム顔文字の追加

カスタム顔文字を Cisco Jabber for Windows に追加するには、XML ファイルで顔文字の定義を作成し、ファイル システムに保存します。

ヒント デフォルトの顔文字の定義ファイルには、ユーザが他のユーザからコールを要求できる次のキーの組み合わせが含まれています。

- :callme
- :telephone

これらのキーの組み合わせによって、callme の顔文字が送信されます。 この顔文字を受信したユーザは、アイコンをクリックして音声コールを開始できます。 任意のカスタム顔文字の定義ファイルにこれらのキーの組み合わせを含めて、callme の顔文字を有効にします。

手順

ステップ 1 任意のテキスト エディタを使用して `emoticonDefs.xml` という名前のファイルを作成します。

ステップ 2 必要に応じて、`emoticonDefs.xml` で顔文字の定義を指定します。`emoticonDefs.xml` の構造および有効なパラメータの詳細については、「顔文字の定義」を参照してください。

ステップ 3 `emoticonDefs.xml` を保存して閉じます。

ステップ 4 ファイル システムの適切なディレクトリに `emoticonDefs.xml` を保存します。

Cisco Jabber for Windows によって、ファイル システムの次のディレクトリから顔文字の定義がロードされます。

***Program Files*\Cisco Systems\Cisco Jabber\Emoticons**

このフォルダには、Cisco Jabber for Windows のデフォルトの顔文字とデフォルトの `emoticonDefs.xml` が格納されています。

***Program Files*\Cisco Systems\Cisco Jabber\CustomEmoticons**

デフォルトでは、このフォルダは存在しません。 管理者は、このフォルダを作成してカスタム顔文字の定義を格納し、組織展開に含めることができます。

`CustomEmoticons` フォルダで定義した顔文字は、デフォルトの `Emoticons` フォルダの顔文字の定義よりも優先されます。

%*USERPROFILE*%\AppData\Roaming\Cisco\Unified Communications\Jabber\CSF\CustomEmoticons

このフォルダには、Cisco Jabber for Windows の個々のインスタンスのカスタム顔文字の定義が格納されます。

このディレクトリで定義した顔文字は、インストール ディレクトリの `CustomEmoticons` フォルダの顔文字の定義よりも優先されます。

ステップ 5 Cisco Jabber for Windows を再起動します。

Cisco Jabber for Windows によって、`emoticonDefs.xml` のカスタム顔文字の定義がロードされます。

メモ ユーザは、カスタム顔文字の定義が `emoticonDefs.xml` でローカルに定義されている場合にのみ、それらの定義を利用することができます。 顔文字の定義が異なるユーザにカスタム顔文字を送信すると、それらのユーザはアイコンではなく、デフォルト キーを受信します。次に例を示します。

1. ユーザ A は `emoticonDefs.xml` でカスタム顔文字を定義します。

   カスタム顔文字の定義は、ユーザ A のローカル ファイル システムにのみ存在します。
2. ユーザ A はそのカスタム顔文字をユーザ B に送信します。
3. ユーザ B はカスタム顔文字のデフォルト キーのみを受信します。 ユーザ B はアイコンを受信しません。

顔文字の定義

Cisco Jabber for Windows では、`emoticonDefs.xml` から顔文字の定義をロードします。

次の XML の抜粋は、顔文字の定義ファイルの基本構造を示します。

```
<emoticons>
 <emoticon defaultKey="" image="" text="" order="" hidden="">
  <alt></alt>
 </emoticon>
</emoticons>
```

次の表に、カスタム顔文字を定義するための要素および属性を示します。

要素または属性	説明
emoticons	この要素には、すべての顔文字の定義が含まれます。
emoticon	この要素には、1 つの顔文字の定義が含まれます。
defaultKey	この属性により、顔文字を描画するデフォルト キーの組み合わせが定義されます。 値として任意のキーの組み合わせを指定します。 この属性は必須です。 defaultKey は emoticon 要素の属性です。
image	この属性では、顔文字イメージのファイルを指定します。 値として顔文字のファイル名を指定します。顔文字イメージは、`emoticonDefs.xml` と同じディレクトリに存在する必要があります。 この属性は必須です。 Cisco Jabber for Windows では、Internet Explorer で描画可能なアイコン（`.jpeg`、`.png`、`.gif` など）をサポートしています。 image は emoticon 要素の属性です。
text	この属性では、[顔文字の挿入（Insert emoticon）] ダイアログボックスに表示される説明文を定義します。 任意の Unicode 文字の文字列を指定します。 この属性はオプションです。 text は emoticon 要素の属性です。
order	この属性では、[顔文字の挿入（Insert emoticon）] ダイアログボックスに顔文字が表示される順序を定義します。 値として 1 から始まる序数を指定します。 order は emoticon 要素の属性です。 この属性は必須です。 ただし、hidden の値が true である場合、このパラメータは有効になりません。

要素または属性	説明
hidden	この属性では、[顔文字の挿入（Insert emoticon）] ダイアログボックスに顔文字が表示されるかどうかを指定します。 値として次のいずれかを指定します。 **true** [顔文字の挿入（Insert emoticon）] ダイアログボックスに顔文字が表示されないことを指定します。ユーザは、顔文字を描画するキーの組み合わせを入力する必要があります。 **false** [顔文字の挿入（Insert emoticon）] ダイアログボックスに顔文字が表示されることを指定します。 ユーザは、[顔文字の挿入（Insert emoticon）] ダイアログボックスから顔文字を選択するか、顔文字を描画するキーの組み合わせを入力することができます。 これがデフォルト値です。 この属性はオプションです。 hidden は emoticon 要素の属性です。
alt	この要素を使用すると、キーの組み合わせを顔文字にマッピングできます。 値として任意のキーの組み合わせを指定します。 たとえば、defaultKey の値が :) である場合、alt の値として :-) を指定し、両方のキーの組み合わせで同じ顔文字を描画できるようにします。 この要素はオプションです。

顔文字の定義の例

```
<emoticons>
 <emoticon defaultKey=":)" image="Emoticons_Smiling.png" text="Smile" order="1">
  <alt>:-)</alt>
  <alt>^_^</alt>
 </emoticon>
 <emoticon defaultKey=":(" image="Emoticons_Frowning.png" text="Frown" order="2">
  <alt>:-(</alt>
 </emoticon>
</emoticons>
```

第 10 章

Cisco Jabber for Windows のトラブルシューティング

Cisco Jabber for Windows の一般的な問題を解決します。

- 設定の問題，169 ページ
- ディレクトリ統合の問題，172 ページ
- 音声、ビデオ、およびデバイスの問題，172 ページ

設定の問題

設定ファイルがダウンロードされない

問題の内容：Cisco Jabber for Windows が、TFTP サーバから設定ファイルをダウンロードしません。 Cisco Jabber for Windows を起動後、インストール ディレクトリに設定ファイルがありません。

解決策：

1. TFTP サーバを再起動します。
2. 設定ファイルの名前を確認します。

メモ

- 設定ファイルの名前では、大文字と小文字が区別されます。
- グローバル設定ファイル名は、`jabber-config.xml` である必要があります。

3. 企業内のファイアウォールが、Cisco Jabber for Windows による設定ファイルのダウンロードをブロックしていないことを確認します。
4. 次の手順に従い、TFTP サーバで設定ファイルをホストします。
   a. [Cisco Unified OS の管理（Cisco Unified OS Administration）] インターフェイスを開きます。

b [ソフトウェアのアップグレード（Software Upgrades）] > [TFTP ファイル管理（TFTP File Management）] を選択します。
c [ファイルのアップロード（Upload File）] を選択します。
d [ファイルのアップロード（Upload File）] セクションで [参照（Browse）] を選択します。
e ファイル システム上の設定ファイルを選択します。
f [ディレクトリ（Directory）] テキスト ボックスの値を空白にしておきます。これにより、TFTP サーバのデフォルト ディレクトリの設定ファイルがホストされます。
g [ファイルのアップロード（Upload File）] を選択します。

Cisco Jabber for Windows が設定ファイルを読み込まない

問題の内容：TFTP サーバで、グローバルまたはグループ設定ファイルをホストします。 Cisco Jabber for Windows は設定ファイルをダウンロードし、適切なインストールディレクトリに保存します。 ただし、Cisco Jabber for Windows は、設定ファイルで指定した設定をどれも適用しません。

解決策：設定ファイルの XML が有効であることを確認します。 Cisco Jabber for Windows 設定ファイルは、次の条件を満たす必要があります。

- UTF-8 エンコードを使用してください。
- 有効な XML 文字エンティティだけを含めます。 たとえば、`&` ではなく `&` を使用してください。
  Microsoft Internet Explorer で設定ファイルを開き、無効な文字やエンティティがないことを確認します。 Internet Explorer に XML 構造の全体が表示される場合は、設定ファイルには無効な文字やエンティティは含まれていません。 Internet Explorer に XML 構造の一部しか表示されない場合は、設定ファイルには無効な文字やエンティティが含まれている可能性があります。
- 有効な構造を含むこと。 パラメータが正常な要素の下にネスト化されていることを確認してください。 次の XML スニペットは、オンプレミス導入における設定ファイルの基本構造を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<config version="1.0">
 <Client>
  <parameter_name>value</parameter_name>
 </Client>
 <Directory>
  <parameter_name>value</parameter_name>
 </Directory>
 <Policies>
  <parameter_name>value</parameter_name>
 </Policies>
</config>
```

Cisco Jabber for Windows で古い設定が使用されている

問題の内容：Cisco Jabber for Windows が最新の設定を使用していません。 設定ファイルの設定を変更し、それを TFTP サーバでホストしています。 ただし、Cisco Jabber for Windows では、旧バージョンの設定ファイルの設定を使用しています。

解決策：

1 TFTP サーバを再起動します。

2 ブラウザで設定ファイルを開き、設定を確認します。 通常は、次の URL で設定ファイルにアクセスできます。`http://tftp_server_address:6970/jabber-config.xml`

TFTP サーバを再起動しても問題が解決しない場合は、Cisco Jabber for Windows が最新のバージョンをダウンロードできないため、キャッシュされた設定ファイルを使用している可能性があります。

Microsoft Outlook の連絡先が検索に表示されない

問題の内容：Microsoft Outlook の連絡先が Cisco Jabber for Windows の検索結果に表示されません。

解決策：ユーザが Microsoft Outlook の連絡先と通信できることを確認するには、次の要件を確認してください。

- Cisco Jabber for Windows を使用して Microsoft Outlook のローカル連絡先を検索するために、ユーザには Microsoft Outlook に設定されたプロファイルが必要です。
- Microsoft Outlook のローカル連絡先を Cisco Jabber for Windows の連絡先リストに追加するには、ユーザ プロファイルに電子メールまたはインスタント メッセージのアドレスが必要です。
- Cisco Jabber for Windows を使用して Microsoft Outlook のローカル連絡先と通信するには、ユーザ プロファイルに関連する情報を含める必要があります。 たとえば、Microsoft Outlook の連絡先にインスタント メッセージを送信するためには、ユーザ プロファイルに電子メール アドレスまたはインスタント メッセージのアドレスが必要です。 同様に、Microsoft Outlook の連絡先に電話をかけるには、ユーザ プロファイルに電話番号を含める必要があります。
- ユーザが Microsoft Outlook でローカル連絡先を検索するには、[オプション（Options）] ウィンドウの [統合（Integration）] タブで [なし（None）] または [Microsoft Outlook] のいずれかを選択する必要があります。

バージョン 9.0.x からのアップグレード後に設定が機能しない

Cisco Jabber for Windows バージョン 9.1.0 で、UseSecureConnection パラメータは、Cisco Jabber for Windows がディレクトリ サービスに接続するために単純な認証を使用するかどうかを指定します。

Cisco Jabber for Windows の 9.0.x バージョンで、UseSecureConnection パラメータは、Cisco Jabber for Windows とディレクトリ サービス間のデータ暗号化を有効または無効にします。

Cisco Jabber for Windows バージョン 9.0.x からのアップグレードを計画していて、設定ファイルに UseSecureConnection パラメータを指定する場合は、この変更を反映するように設定を調整する必要があります。

ディレクトリ統合の問題

ディレクトリ接続が確立したかどうかを確認できない

問題の内容：オンプレミス導入では、Cisco Jabber for Windows 設定ファイルにディレクトリ設定を指定します。 ただし、Cisco Jabber for Windows がディレクトリに正常に接続されたかどうかがわかりません。

解決策：Cisco Jabber for Windows がディレクトリに正常に接続されたかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

1. クライアントを起動します。
2. 検索フィールドに、少なくとも 3 文字を入力します。

Cisco Jabber for Windows に一致する連絡先の一覧が表示される場合は、検索が動作しています。Cisco Jabber for Windows はディレクトリに正常に接続されています。

Cisco Jabber for Windows が正常にディレクトリに接続されていない場合は、設定を見直します。デフォルトでは、クライアントは 拡張ディレクトリ統合 を使用し、グローバル カタログ サーバに接続します。

ADSI のエラー コード

Cisco Jabber for Windows では、Microsoft Active Directory Service Interfaces（ADSI）を使用し、ディレクトリ統合を行います。 ディレクトリ統合の問題をトラブルシューティングするには、ADSI エラー コードを参照してください。

ADSI エラー コードの詳細については、次の Microsoft ドキュメントを参照してください。

- *ADSI Error Codes*（http://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/aa772195(v=vs.85).aspx）
- *Generic ADSI Error Codes*（http://msdn.microsoft.com/en-us/library/windows/desktop/aa705940(v=vs.85).aspx）
- *ADSI 2.5* のエラー コード（http://support.microsoft.com/kb/242076）

音声、ビデオ、およびデバイスの問題

ボイスメールを使用できない

問題の内容：導入後、Cisco Jabber for Windows ユーザがボイス メッセージにアクセスできません。

解決策：

オンプレミスの導入

Cisco Unified Presence に、ボイスメール ストア サーバ アドレスが指定されていることを確認します。

クラウドベースの導入

Cisco WebEx Administration Toolを使用し、[ビジュアル ボイスメールの有効化（Enable Visual Voicemail）] オプションが選択されていることを確認します。

オーディオおよびビデオ通信を使用できない

問題の内容：オーディオおよびビデオデバイスをプロビジョニングしたが、Cisco Jabber for Windows がデバイスに接続できません。

解決策：

オンプレミスの導入

CTI ゲートウェイがセットアップされており、Cisco Unified Communications Manager に CCMCIP プロファイルが適切に作成されていることを確認します。

クラウドベースの導入

Cisco WebEx Administration Toolを使用し、次のオプションが選択されていることを確認します。

- 適切なクラスタの [Cisco WebEx Connect クリックツーコールの有効化（Enable Cisco WebEx Connect Click-to-Call）] オプションを選択します。
- 適切なクラスタの [Cisco UC Manager と Cisco WebEx Connect との統合の有効化（Enable Cisco UC Manager integration with Cisco WebEx Connect）] オプションを選択します。

ボイスメール プロンプトが切り捨てられる

問題の内容：ボイスメール プロンプトの開始部分が切り捨てられます。

ユーザにボイスメール メッセージを残すように求める音声の開始部分が切り捨てられる場合があります。 切り捨ての結果、ユーザはボイスメール プロンプトの最初の 1 ～ 2 秒を聞き取れません。

解像度

この問題を解決するには、Cisco Unity Connection のテレフォニー統合の詳細設定の [応答後の遅延（Delay After Answer）] フィールドの値を設定します。 次の URL にある Cisco Unity Connection ドキュメントを参照してください。http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/8x/gui_reference/guide/8xcucgrg120.html#wp1056978

グループ チャットが開始しない

問題の内容：グループ チャットを開始しようとしています。 グループ チャットは開始せず、ログ ファイルに次のメッセージが表示されます。

```
WARN  [0x000021c0] [PME(0)] [cpve] [<ctxt:GStreamer,thread:8640>] - pipeline0 [gstbin.c(2399),
gst_bin_do_latency_func()]-> failed to query latency" and the it is generating 10+ log files
 per minute.
```

その後、Cisco Jabber for Windows を再起動すると、ログ ファイルに次のメッセージが表示されます。

```
ERROR [0x000004fc] [ied\featuresets\adapters\imp\Log.cpp(35)] [JabberWerx]
[IMPStackCap::Log::log] -
[XmppSDK.dll]: CXmppMUCRoom::GetGroupChatServer , no MUC_SERVICE is available, please check
 the configure of server, bPersistent:0
```

解決策：この問題を解決するには、次の作業を実行します。

1. 少なくとも 1 人のグループ チャット参加者がオンラインであることを確認します。 Cisco Jabber for Windows では、グループ チャットを作成するには、1 人以上のオンライン参加者が必要です。
2. Cisco Unified Presence の [マルチ ユーザ チャット ルーム（Multi User Chat Room）] サービスをアクティブ化し、開始します。
3. Cisco Unified Presence の [テキスト カンファレンス マネージャ（Text Conference Manager）] サービスをアクティブ化し、開始します。

エンド ユーザが電話アカウントの詳細を取得できない

問題の内容：Cisco Jabber for Windows ユーザがエクステンション モビリティ プロファイルにログインしたときに、電話アカウントの詳細を取得できません。 そのため、[オプション（Options）] ダイアログ ボックスの [電話アカウント（Phone accounts）] タブの [電話サービス（Phone services）] セクションにエラー メッセージが表示されます。

影響を受けるユーザは、Cisco Unified Communications Manager に複数のデバイスが設定されています。

次の例外が、`%USER_PROFILE%\AppData\Local\Cisco\Unified Communications\Jabber\CSF\Logs` ディレクトリの csf-unified.log ファイルに書き込まれます。

```
<time_stamp> DEBUG [0x00001d80] [src\config\CCMCIPClient.cpp(230)] [csf.ecc]
[curlDebugCallback] -
<html>
<body>
org.apache.jasper.JasperException: java.lang.reflect.InvocationTargetException<br>
<!--
org.apache.jasper.JasperException: java.lang.reflect.InvocationTargetException
at
org.apache.jasper.runtime.JspRuntimeLibrary.handleSetPropertyExpression(JspRuntimeLibrary.java:622)
at
org.apache.jsp.ControlledDevices_jsp._jspx_meth_c_005fforEach_005f0(ControlledDevices_jsp.java:834)
at org.apache.jsp.ControlledDevices_jsp._jspService(ControlledDevices_jsp.java:180)
at org.apache.jasper.runtime.HttpJspBase.service(HttpJspBase.java:70)
at javax.servlet.http.HttpServlet.service(HttpServlet.java:722)
```

解決策：この問題を解決するには、次の作業を実行します。

1. 影響を受けるユーザを、すべてのエクステンション モビリティ プロファイルから切断します。

2 シスコのサポート担当者に連絡し、Cisco Unified Communications Manager の問題を解決するようエンジニアリング スペシャル（ES）を要求してください。

ES を Cisco Unified Communications Manager に適用後、影響を受けるユーザをエクステンション モビリティ プロファイルに再度関連付けることができます。

オフフック ダイヤルでプレゼンス状態が変更されない

問題の内容：Cisco Jabber for Windows ユーザが、デスクフォンまたは他のデバイスから番号を直接ダイヤルします。アベイラビリティ ステータスが、ユーザがコール中であることを示すように変更されません。

解決策：この問題を解決するには、次の作業を実行します。

1 ユーザが回線番号に関連付けられていることを確認します。

   1 Cisco Unified Communications Manager を開き、デバイスの [電話の設定（Phone Configuration）] ウィンドウにアクセスします。

   2 [割り当て情報（Association Information）] セクションを見つけて、デバイスに関連付けられた回線を選択します。 [電話番号の設定（Directory Number Configuration）] ウィンドウが開きます。

   3 [回線に関連付けられているユーザ（Users Associated with Line）] セクションを見つけます。

   4 ユーザが回線に関連付けられていることを確認します。

2 Cisco Unified Communications Manager から Cisco Unified Presence への SIP トランクが存在することを確認します。

   1 Cisco Unified Communications Manager を開きます。

   2 [デバイス（Device）] > [トランク（Trunk）] を選択します。

   3 Cisco Unified Presence への SIP トランクを検索します。

   4 存在しない場合は SIP トランクを作成します。

3 Cisco Unified Presence でセキュリティ例外として設定されている DNS 名エントリの解決を確認して、Cisco Unified Communications Manager との通信が許可されるようにします。

   ドメインで Cisco Unified Presence および Cisco Unified Communications Manager を設定すると、例外は DNS 名として自動的に追加されます。 DNS 名エントリの解決で問題が発生した場合、対応する着信および発信の例外は有効になりません。

   DNS 名に ping を実行した場合に正しい IP アドレスが返されることを確認する必要があります。 また、IP アドレスに ping を実行した場合に正しい DNS 名が返されることも確認する必要があります。

   Cisco Unified Presence のセキュリティ例外にアクセスするには、[システム（System）] > [セキュリティ（Security）] を選択して、次のいずれかを選択します。

   - 着信 ACL

- 発信 ACL

デスクフォン ビデオが使用できないか不明になる

問題の内容：デスクフォン ビデオ機能をセットアップしても、デスクフォン ビデオが使用できないか、デスクフォン デバイスが不明であるかのいずれかを示すエラーが発生します。

解決策：この問題を解決するには、次の作業を実行します。

1. Cisco Unified Communications Manager でビデオ用にデスクフォン デバイスを有効にしたことを確認します。
2. 物理デスクフォンをリセットします。
3. Cisco Jabber for Windows を終了します。
4. Cisco Jabber for Windows がインストールされているコンピュータで services.msc を実行します。
5. Cisco Medianet サービスを再起動します。
6. Cisco Jabber for Windows を再起動します。

ネットワーク プロファイルの変更によりコールが断続的にドロップする

問題の内容：ネットワーク プロファイルが変更されると、音声コールおよびビデオ通話が断続的にドロップします。

Microsoft Windows 7 および Microsoft Windows Server 2008 R2 の既知のバグにより、ネットワーク プロファイルが突然変更されます。 Cisco Jabber for Windows がコールのために必要とするネットワーク ポートが、このネットワーク プロファイルの変更によって閉じられます。 その結果、ネットワーク プロファイルが変更されたときにコール中だった場合、そのコールは自動的に終了します。

解決策：次の Microsoft サポートのサイトで入手可能な修復を適用します。http://support.microsoft.com/kb/2524478/en-us